

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|--------------|-------|-------|------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 人間探求科目 |
| 講義名 | [00002] 哲学 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 諏訪 是隆 | スワ | ゼリユウ | suwa zeryu |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 哲学について学んでいきます。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 「哲学」ということばは、愛知を意味するギリシア語の「フィロソフィア」の翻訳である。もともとは好奇心、向学心、知識欲を意味する日常語であった。先哲の思想を学ぶことで、現代に生きるわれわれの諸問題を考えるための基礎を培いたい。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義を中心とするが、学生との対話形式によって講義を進めていく。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学習は、あらかじめ指示された資料や文献を読んでおく。事後学習は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 期末レポート30%、授業への取り組み姿勢70%で評価する。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 哲学ということば | | | |
| 第2回 | 神話から哲学へ | | | |
| 第3回 | ソフィストとソクラテス | | | |
| 第4回 | プラトンとアリストテレス | | | |
| 第5回 | ストア派とエピクロス派 | | | |
| 第6回 | キリスト教と中世 | | | |
| 第7回 | ルネサンスの思想 | | | |
| 第8回 | ベーコンのイドラ | | | |
| 第9回 | デカルトの懐疑 | | | |
| 第10回 | ホップズのリヴァイアサン | | | |
| 第11回 | ロックのコモンウェルス | | | |
| 第12回 | 啓蒙思想 | | | |
| 第13回 | カントの批判哲学 | | | |
| 第14回 | ヘーゲルの体系 | | | |
| 第15回 | まとめ レポート提出 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 講義中に配付する。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 哲学と聞くと難解なイメージがあるかもしれませんが、哲学は私たちの生活を意義あるもの、幸せへと導いてくれる叡智です。共に学びましょう。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 授業の前後に教室にて対応します。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| なし | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|---------------------------------|----|----------|--------|-------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 人間探求科目 | | |
| 講義名 | [00012] 倫理学 | | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 選 択（2） | | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | | | |
| 担当者 | 桑名 法晃 | | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 倫理学とはどのような学問であろうか。「日本倫理思想史」という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考えるために、特に古代の「神をめぐる思想」から、中世の「仏法をめぐる思想」について概説します。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指します。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を習得することを、本授業の目標とします。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 倫理学とは何かについて概観し、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいきます。講義によって授業を進めますが、学生の深い理解に資するよう積極的にICTを活用します。また受講生が自分自身の問題として主体的に授業に参加するようディスカッションなどを行います。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| 事前学修としては、参考書等に目を通し、疑問をもって授業にのぞむこと。事後学修は、授業の内容を踏まえ、その問題について自分なりに考えてみること。事前・事後学修は最低でも各120分は必要である。なお、詳細は授業中に指示します。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| 授業に取り組む姿勢40%、レポート60%で総合的に評価します。毎回授業後にリアクションペーパーを配付し、講義内容、意見・感想等を書いてもらいます。授業に取り組む姿勢は、このリアクションペーパーに基づいて評価します。 | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | 講義ガイダンス | | | | | | |
| 第2回 | 倫理学とは何か（1）倫理学と日本倫理思想史 | | | | | | |
| 第3回 | 倫理学とは何か（2）なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、倫理の重層性 | | | | | | |
| 第4回 | 神をめぐる思想（1）風土と神 | | | | | | |
| 第5回 | 神をめぐる思想（2）日本の神の特徴 | | | | | | |
| 第6回 | 神をめぐる思想（3）神と景観、祭祀 | | | | | | |
| 第7回 | 神をめぐる思想（4）日本神話の発生と展開 | | | | | | |
| 第8回 | 神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の概要 | | | | | | |
| 第9回 | 神をめぐる思想（1）古事記神話 上巻神話の世界観 | | | | | | |
| 第10回 | 仏法をめぐる思想（1）インド・中国仏教 | | | | | | |
| 第11回 | 仏法をめぐる思想（2）日本における仏教の受容、聖徳太子 | | | | | | |
| 第12回 | 仏法をめぐる思想（3）国家仏教、本地垂迹説 | | | | | | |
| 第13回 | 仏法をめぐる思想（4）修験道 | | | | | | |
| 第14回 | 仏法をめぐる思想（5）鎌倉仏教 | | | | | | |
| 第15回 | 全体のまとめ プレゼンテーション | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：特に指定しない。参考書：『日本倫理思想史 増補改訂版』佐藤正英著（東京大学出版会）2012年、『日本の思想とは何か：現存の倫理学』佐藤正英著（筑摩書房）2014年、『古事記神話を読む 神の女 神の子 の物語』佐藤正英著（青土社）2011年ほか。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 受講生一人一人が自らの問題として捉え、自分自身の考えを形成することを望みます。授業では、毎回受講生に積極的に問いかけ、自分の考えを発言してもらいます。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日第1時限目と木曜日第5時限目 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|--|---------|---------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 人間探求科目 |
| 講義名 | [00013] 心理学 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 手塚 知子 | テヅカ トモコ | tezuka tomoko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 心理学とは、ひとの「意識」や「行動」の傾向を探る学問といえます。目に見えない「こころ」を科学する視点を持ち、「臨床心理学」「社会心理学」「発達心理学」など、さまざまな理論から考えていきます。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 「心理学」と一言でいっても、教育、臨床、発達、認知など、様々な分野があり、内容は多岐にわたる。そのため、この授業では、それぞれの分野でメジャーな考え方や概念、研究、歴史的背景等について説明し、概観していく。この授業を受講することで、受講生は、より心理学を身近なものとしてとらえながら、心理学の基礎について幅広く理解することが可能である。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 配付資料をもとに、講義、演習、ディスカッションを行う。授業の中では、受講生が自分自身の身近な事柄に引き付けて理解することができるよう、例を示す。初めて触れる考え方や用語等もあると思われるため、教科書は受講前に熟読し、用語の理解に努めること。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、シラバスに記載した参考書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、学んだことを整理し、課題を行ってこること。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%：10%×3回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 心理学とは？ | | | |
| 第2回 | 臨床心理学：悩みを抱える人を助ける（その1） | | | |
| 第3回 | 臨床心理学：悩みを抱える人を助ける（その2） | | | |
| 第4回 | 性格と個人差の心理学：性格はかえられるか？（その1） | | | |
| 第5回 | 性格と個人差の心理学：性格はかえられるか？（その2） / 第1回小テスト | | | |
| 第6回 | 社会的行動の心理学：身近な人や社会との関係（その1） | | | |
| 第7回 | 社会的行動の心理学：身近な人や社会との関係（その2） | | | |
| 第8回 | 発達心理学：人が生まれてから死ぬまで（その1） | | | |
| 第9回 | 発達心理学：人が生まれてから死ぬまで（その2） | | | |
| 第10回 | 心理学的アセスメント：心を測る / 第2回小テスト | | | |
| 第11回 | 知覚・認知・記憶の心理学：世界をどうとらえるか？（その1） | | | |
| 第12回 | 知覚・認知・記憶の心理学：世界をどうとらえるか？（その2） | | | |
| 第13回 | 行動と学習の心理学：あなたはなぜそのように行動するのか？ | | | |
| 第14回 | 心理学の歴史と未来：心はどう探求され、これからどうなるのか？ / 第3回小テスト | | | |
| 第15回 | まとめ及び振り返り | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 教科書：なし。プリントを配布する。参考書：『心理学・入門 心理学はこんなに面白い』サトウタツヤ・渡邊芳之著（有斐閣アルマ）2011年、『はじめて出会う心理学 改訂版』長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行者（有斐閣アルマ）2008年、『徹底図解心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識』青木紀久代・神宮英夫著（新星出版社）2008年、そのほか適宜資料や文献等を紹介する。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 履修登録しておけば単位が出るという授業ではありません。テキストを購入して、読む習慣をつけるようにしてください。予習・復習しないとわからなくなります。仏教においても福祉においても、自己ならびに他者の心のしくみと人間関係を見つめることは重要なことです。一緒に心理学の世界を楽しみましょう！ | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日 10:30～12:30 木曜日 10:30～11:50 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|-----------------|----|------------|-------|-------------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 人間探求科目 |
| 講義名 | [00016] 歴史学 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 選択（2） | |
| 種類 | 講義 | | | | |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 望月 真澄 | | モチヅキ シンチョウ | | mochizuki shincho |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらう。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を本授業で学修してもらいたい。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学修を行った日本史の時代や出来事等について理解できるようにする。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 講義形式を基本とするが、身延山という地域を歩く授業も取り入れることにする。日本史に関する調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングを行うので、電子機器（ipad）を毎回持参すること。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前学修120分：授業内容について予め調べ学習を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。 事後学修120分：授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%） | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 歴史学とはどういう学問か | | | | |
| 第2回 | 史実と伝承 | | | | |
| 第3回 | 日本史の時代区分 | | | | |
| 第4回 | 史（資）料とは | | | | |
| 第5回 | 旧暦と新暦 | | | | |
| 第6回 | 日本の元号（1） | | | | |
| 第7回 | 日本の元号（2） | | | | |
| 第8回 | 日本歴史に関する調べ学修（1） | | | | |
| 第9回 | 日本歴史に関する調べ学修（2） | | | | |
| 第10回 | 日本歴史に関する調べ学修（3） | | | | |
| 第11回 | 日本歴史に関する調べ学修（4） | | | | |
| 第12回 | 調べ学修についての発表 | | | | |
| 第13回 | 歴史散策1 | | | | |
| 第14回 | 歴史散策2 | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 教科書：特になし。参考書：小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書、2004年。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 歴史について調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 授業開始前、終了後に質問等を研究室、教室で受け付けます。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 高等学校教員、博物館学芸員として勤務経験がある。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|------------------|---------|--------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 社会探究科目 |
| 講義名 | [00008] 社会学 法定科目 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 田沼 朗 | タヌマ アキラ | tanuma akira | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 社会関係・社会行為とその生成・変動を人間の社会的行為やそれを規制する文化と関連付けながら理論的・経験的に研究する。社会学というものの考え方を押さえた上で、基本的概念、現実的諸問題についてふれていきたい。また、講義を中心とし適宜資料を配布する。また、随時参考文献を紹介する。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 社会学の歴史と基本的概念、および社会学が直面する課題を理解することを目標とする。様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解や、国際的視野も養う。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義を中心とする。適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前に指示された資料を読み、出された課題を行っておく（120分）。 講義終了後には、ノートを整理しながら復習を行い、次回の講義に備えること（120分）。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| レポートを含む学力確認テスト（70%）、授業への積極性（30%）。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 社会学とはどんな学問か | | | |
| 第2回 | 社会学の成立、歴史と展開 | | | |
| 第3回 | 20世紀の社会学 | | | |
| 第4回 | 社会的存在としての人間 | | | |
| 第5回 | 家族（1） | | | |
| 第6回 | 家族（2） | | | |
| 第7回 | 地域社会（1） | | | |
| 第8回 | 地域社会（2） | | | |
| 第9回 | 社会構成 | | | |
| 第10回 | ライフスタイル | | | |
| 第11回 | 組織と官僚制 | | | |
| 第12回 | ジェンダー | | | |
| 第13回 | 社会変動 | | | |
| 第14回 | 現代の社会問題 | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 教科書は使用しないが必要に応じて資料を配布する。福祉士養成講座編集委員会編『新版社会福祉士養成講座11社会学』（中央法規出版）は、社会福祉士国家試験受験希望者には有益である。講義の中で 適宜参考文献を紹介する。宮島喬編『岩波小辞典社会学』、那須壽編『クロニクル社会学』（有斐閣）、岩波講座『現代社会学』（岩波書店 26巻）をとりあえず参考文献として挙げておく。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 日頃から社会問題に関心を持ってほしい。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| なし | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
|-------|------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | 社会探究科目 |

| | |
|-----|---------------|
| 講義名 | [00009] 自然と環境 |
|-----|---------------|

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|-----------|----------------|
| 担当者 | 神宮寺 守 | ジングウジ マモル | jinguji mamoru |
|-----|-------|-----------|----------------|

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

基礎的な知識として宇宙の歴史や地球システム、そして世界の人口とエネルギーについて解説する。地球システムの資源や回復力の有限性および物質やエネルギーの循環に基づいて、人間活動の拡大が自然環境（大気・水・土壌）や生物（植物・動物）に及ぼす影響、そしてその結果として起こる地球システムの変動について概説する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

人間活動の拡大による地球システムへの影響について習得し、地球には多種多様な生物が調和のとれた自然環境の中で生態系を形成して生命活動を営んでいることを理解するとともに、自然環境と生物多様性の重要性および地球システムの変動と持続可能性について自分の考えを述べる力を身につけることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

授業では、基礎的な知識および人間活動が国内および地球規模の自然環境に及ぼす影響として重要と考えられるテーマについて、板書とともにPowerPointを活用して授業内容を理解できるように講義するとともに、テーマに応じて受講生が自分の考えや意見を述べるディスカッションを行います。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前の学習では、毎回あらかじめ配布するプリントの内容について参考書を活用して予習を2時間以上行うこと。事後の学習では、授業で使ったスライドのプリントを参考にして復習を2時間以上行うこと。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（10%）、コメント(20%)、レポート（30%）、学力確認テスト(40%)により総合評価します。（コメント：毎回の授業終了時に配るコメント用紙に、授業内容の要点や感想、また質問を書くこと。）

【授業計画（各回の授業内容）】

| | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 宇宙カレンダー（ビッグバン宇宙、地球、生命誕生、生物進化、人類の登場） |
| 第3回 | 地球システム（地球の有限性、大気・水・地・生物の4つの圏と人間圏） |
| 第4回 | 世界の人口とエネルギー（人口増加、食糧問題、化石燃料、原子力） |
| 第5回 | 大気環境（大気の構造、対流圏、大気汚染、光化学スモッグ、酸性雨） |
| 第6回 | 水環境（水質の汚濁と汚染、汚濁の指標 BOD、生活排水、下水処理） |
| 第7回 | 土壌環境（土壌の役割、土壌汚染、地下水汚染、ダイオキシン類問題） |
| 第8回 | 地球温暖化(その1)（平均気温の上昇、温室効果、地球温暖化のメカニズム） |
| 第9回 | 地球温暖化(その2)（気候変動と影響、将来予測と対策、二酸化炭素問題） |
| 第10回 | 成層圏オゾン（オゾン層破壊のメカニズム、フロン、紫外線、南極オゾンホール） |
| 第11回 | 海洋環境（汚染物質の種類と経路、漂着ゴミ、マイクロプラスチック汚染） |
| 第12回 | 森林環境（森林の多機能性、森林特に熱帯雨林の減少と劣化） |
| 第13回 | 生物多様性（生態系・種・遺伝子、生態系サービス、野生生物種の減少） |
| 第14回 | 地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）と持続可能な開発目標（SDGs） |
| 第15回 | まとめ |

【教科書・参考書】

教科書：なし。プリントを配布する。参考書：『令和元年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』環境省（<https://www.env.go.jp>）、『各種データ・資料』気象庁（<https://www.jma.go.jp>）、『地球システムを科学する』伊勢武史著（ベレ出版）2013年、『環境科学入門』川合真一郎・張野宏也・山本義和著（化学同人）2018年、『小さな地球の大きな世界プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発』J.ロックストローム・M.クルム著、武内和彦・石井菜穂子監修（丸善出版）2018年。

【学生へのメッセージ】

日常生活においても自然環境とその変化に関心を持ち、インターネットやテレビ、ラジオ、新聞、雑誌等で授業内容に関連する情報を見たり、聞いたり、読んだりするように心がけること。

【オフィスアワー】

水曜日2時限目の授業の前後に教室にて受け付けます。

【実務経験】

危険物取扱者（甲種）資格。山梨県森林審議会委員。山梨県環境科学研究所課題評価委員。

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|--------------------------|-------|---------|-----|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 社会探究科目 |
| 講義名 | [00014] 法学 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 堀 保彦 | | ホリ ヤスヒコ | | hori yasuhiko |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 法は、社会規範（社会のルール）の一つですが、道徳や宗教などの他の社会規範にはない物理的強制力・国家的強制力を有しています。法とは何かを考え、法の発展を振り返ることで法の本質を理解し、私たちの身近な法である憲法・民法（家族・契約・財産・過失責任）・刑法（犯罪と刑罰）・労働法・商法・会社法等を概説します。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 法の本質を理解し、社会人として必要とされる身近な法律を体系的に習得することで、現代法治国家の問題点について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に現代社会における法の問題点（法分野は問わない）について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した判例・新聞記事・Webニュースについての調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 法学を学ぶにあたって | | | | |
| 第2回 | 法とは何か（法律と道徳・宗教等との相違点） | | | | |
| 第3回 | 法の発展と社会の発展 | | | | |
| 第4回 | 法と裁判 | | | | |
| 第5回 | 裁判の基準（法源）と法の解釈 | | | | |
| 第6回 | 近代国家と憲法 | | | | |
| 第7回 | 犯罪と刑罰 | | | | |
| 第8回 | 家族1（夫婦・親子） | | | | |
| 第9回 | 家族2（相続） | | | | |
| 第10回 | 契約の自由 | | | | |
| 第11回 | 財産 | | | | |
| 第12回 | 損害賠償と過失責任 | | | | |
| 第13回 | 労働者の権利 | | | | |
| 第14回 | ビジネスに関する法律 | | | | |
| 第15回 | プレゼンテーション（現代社会における法の問題点） | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 教科書：『法学入門（第6版補訂版）』末川博（有斐閣）2014年、参考書：『日本人の法意識』川島 武宜（岩波新書）1967年、『現代法学入門（第4版）』伊藤 正己・加藤一郎（有斐閣）2005年、『法律学入門（第3版補訂版）』佐藤幸治（有斐閣）2008年。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 現代法治国家が抱えるさまざまな問題点を受講生一人一人が自らの問題として考え、自分自身の意見を形成することを望みます。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで自分自身の意見を形成することを望みます。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 毎回授業の前後に教室にて受け付けます。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 株式会社中部銀行24年。銀行における法務担当の経験から日常生活とビジネスに関する法を中心に具体的事例をあげて授業をします。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|----------------------------|---------|---------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 社会探究科目 |
| 講義名 | [00015] 日本国憲法 | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 堀 保彦 | ホリ ヤスヒコ | hori yasuhiko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 日本国憲法は、国民の自由と権利を守り、自由で公正な社会を築くことを目指す法です。本授業では、日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則とそれを実現するための統治機構を概説し、私たちと憲法の関わりについて考えます。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 憲法を体系的に修得するとともに、現代社会における憲法問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に憲法について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した事件や判例についての資料調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 憲法とは何か | | | |
| 第2回 | 明治憲法と日本国憲法 | | | |
| 第3回 | 日本国憲法の成立 | | | |
| 第4回 | 憲法の法源と解釈 | | | |
| 第5回 | 国民主権 | | | |
| 第6回 | 象徴天皇制 | | | |
| 第7回 | 平和国家 | | | |
| 第8回 | 人権尊重の原理 | | | |
| 第9回 | 包括的人権と法の下での平等 | | | |
| 第10回 | 精神的自由権 | | | |
| 第11回 | 表現の自由 | | | |
| 第12回 | 身体的自由権、経済的自由権 | | | |
| 第13回 | 社会権 | | | |
| 第14回 | 権力分立と統治機構の原理 | | | |
| 第15回 | プレゼンテーション（憲法と現代社会の問題点について） | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 教科書：『憲法入門（第4版補訂版）』伊藤正己（有斐閣）2006年、参考書：『憲法とは何か』長谷部恭男（岩波新書）2006年、『憲法入門（六訂版）』樋口陽一（勁草書房）2017年、『憲法（第7判）』芦部信喜（岩波書店）2019年。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 日本国憲法施行から70有余年となりますが、その理念が完全に実現しているとは言い難く、また、社会の変化とともに新たな憲法問題が生じています。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで憲法に関する自分自身の意見を形成することを望みます。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 毎回授業の前後に教室にて受け付けます。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 株式会社中部銀行24年。銀行における内部通報担当の経験から得た実例を基に憲法の今日的意義について考える授業をします。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|-----------------------------|-------|---------|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 社会探究科目 |
| 講義名 | [00017] 政治学 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 堀 保彦 | | ホリ ヤスヒコ | hori yasuhiko |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 政治とは、社会における利害や意見を調整する営みです。本授業では、政治体制と政治制度、政治制度と政治過程、国民代表の政治過程、利益代表の政治過程、政治と経済・福祉の関係、政策決定過程と政策評価、政党制、政治意識と政治文化など政治学の基礎的理論について概説します。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 社会におけるさまざまな利害や意見を調整する営みである政治の仕組み（政治制度・政治過程・政策決定過程など）を理解し、現代社会における政治問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションしコメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。最終回に現代社会における政治の問題点について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前の学修は、シラバスに記載した次回の講義範囲について教科書を通読し、講義時に指示した新聞記事・Webニュースについての調査を毎回2時間以上行うこと。事後の学修は、配布したレジュメに基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業内テスト（80%）、毎回のコメントシート（20%）で評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 政治学のアイデンティティ（政治学とはどのような学問か） | | | |
| 第2回 | 政治の世界 - 政治とは何か | | | |
| 第3回 | 政治体制と変動 | | | |
| 第4回 | 主要国の政治制度 - 権力分立制度の相違 | | | |
| 第5回 | 政治と経済、政治と福祉 | | | |
| 第6回 | 福祉国家の危機と再編 | | | |
| 第7回 | 政治過程と政治制度、国民代表の政治過程 | | | |
| 第8回 | 利益代表の政治過程 | | | |
| 第9回 | 政治と公共政策、政策過程 | | | |
| 第10回 | 行政 - 行政統制と行政責任 | | | |
| 第11回 | 政党と政党制 | | | |
| 第12回 | 政治意識と政治行動 | | | |
| 第13回 | 政治文化 | | | |
| 第14回 | 主権国家のゆくえ | | | |
| 第15回 | プレゼンテーション（現代政治の問題点について） | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 教科書：『現代政治学（第4版）』加茂利男・大西 仁（有斐閣）2012年、参考書：『行政学（新版）』西尾勝（有斐閣）2001年、『政策学的思考とは何か - 公共政策学原論の試み』足立幸男（勁草書房）2005年、『現代政治の思想と行動（新装版）』丸山眞男（未来社）2006年。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 現代社会が抱えるさまざまな政治的問題点を受講生一人一人が自らの問題として考え、自分自身の意見を形成することを望みます。授業では、各回の課題について自由にディスカッションし、自らの考えをコメントシートにまとめることで自分自身の意見を形成することを望みます。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 毎回授業の前後に教室にて受け付けます。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 株式会社中部銀行24年。銀行業界の要望を政策提言に集約する業務（利益代表活動）の経験から具体的な事例をあげて授業をします。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|---------------------------------------|---------|-------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 情報科目 |
| 講義名 | [00010] 情報処理入門 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 笠井 健次 | カサイ ケンジ | kasai kenji | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 情報化社会と言われる現代、コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。本授業では、パーソナルコンピュータにおける基本ソフト (Windows) や応用ソフト (Word・Excel・PowerPoint) の操作を学び、実習を行います。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 本授業を受講し適切な反復学習を行うことで、受講生は大学生に相応しいコンピュータスキルを身に付けます。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義中心のテーマもありますが、ほとんどのテーマは実習中心です。第1回、第2回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキストを使用します。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習120分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：受講後は内容の習得を確実にするため必ず反復すること。怠っている場合は評価のマイナス要素となります。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）にて評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 情報処理室についての説明。 Windows入門 1 | | | |
| 第2回 | Windows入門 2 | | | |
| 第3回 | ワープロ (MS-Word) 入門 | | | |
| 第4回 | ワープロ (MS-Word) レポートの作成 | | | |
| 第5回 | 表計算 (MS-Excel) 数式・関数 | | | |
| 第6回 | 表計算 (MS-Excel) 数式・関数・書式・ページ設定 | | | |
| 第7回 | 表計算 (MS-Excel) シートの操作・グラフ作成 | | | |
| 第8回 | プレゼンテーション (MS-PowerPoint) プレゼンテーション基礎 | | | |
| 第9回 | プレゼンテーション (MS-PowerPoint) スライド作成 1 | | | |
| 第10回 | プレゼンテーション (MS-PowerPoint) スライド作成 2 | | | |
| 第11回 | プレゼンテーション (MS-PowerPoint) プレゼンテーション | | | |
| 第12回 | インターネットとセキュリティ | | | |
| 第13回 | 情報検索 | | | |
| 第14回 | 課題作成 | | | |
| 第15回 | まとめ及び振り返り | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 配布プリントおよび市販のテキストを使用します。noa出版「学生のためのアカデミック情報リテラシー Office2013対応版」 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| これまでに修得したコンピュータスキルを十分に復習してから本講義に臨んでください。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 毎週の授業後に教室にて受け付けます。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| メーカー系SEとして職歴スタート。現在も企業向けシステム開発に従事。情報活用の指導機会も多くその基礎を学生に伝授したい。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|--|---------|-------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 情報科目 |
| 講義名 | [00011] 情報処理応用 | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 笠井 健次 | カサイ ケンジ | kasai kenji | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 情報化社会と言われる現代、コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。本授業では表計算ソフト (MS-Excel) を集中的に学び、実習していきます。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 本授業を受講し適切な反復学習を行うことで、受講生は社会人となった時に即応できる実践的なスキルを身に付けます。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 短めの講義も行いますが、ほとんどの時間は実習にあてます。第1回、第2回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキスト（問題集）を使用した実習を行います。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習120分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：受講後は内容の習得を確実にするため必ず反復すること。怠っている場合は評価のマイナス要素となります。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）にて評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 情報処理室についての説明。表計算 (MS-Excel) 再入門 1 | | | |
| 第2回 | 表計算 (MS-Excel) 再入門 2 | | | |
| 第3回 | 表計算 (MS-Excel) 表作成 スキルチェック | | | |
| 第4回 | 表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 1 | | | |
| 第5回 | 表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 2 | | | |
| 第6回 | 表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 3 | | | |
| 第7回 | 表計算 (MS-Excel) 計算式・関数の利用 4 | | | |
| 第8回 | 表計算 (MS-Excel) 計算式・関数を利用した表作成 スキルチェック | | | |
| 第9回 | 表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 1 | | | |
| 第10回 | 表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 2 | | | |
| 第11回 | 表計算 (MS-Excel) グラフ作成・グラフィックの利用 スキルチェック | | | |
| 第12回 | 表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 1 | | | |
| 第13回 | 表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 2 | | | |
| 第14回 | 表計算 (MS-Excel) 応用的な課題・演習 3 | | | |
| 第15回 | まとめ及び振り返り | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 配布プリントおよび市販の問題集を使用します。noa出版「使える技術が身に付く！Excel問題集 全102題」 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 情報処理入門を受講済み、または同等のExcelスキル修得者を対象とした講義内容です。（重要）Excelを初めて学ぶ人は、先に情報処理入門を受講すること。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 毎週の授業後に教室にて受け付けます。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| メーカー系SEとして職歴スタート。現在も企業向けシステム開発に従事。情報活用の指導機会も多くその基礎を学生に伝授したい。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|------------------------|-------|-----------|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 総合科目 |
| 講義名 | [00031] 高大連携事業の単位認定 | | | |
| 期 間 | 前期（1回） | 単 位 数 | 選 択（1） | 種 類 講義（全期） |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 学務委員長 | | | |
| | 池上 要靖 | | イケガミ ヨウセイ | ikegami yosei |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| カリキュラム提携を行った高等学校の在校生で、本学所定の講座を受講して得た評価が、本学の成績評価C段階（60点以上）以上ならば、本学入学後に1単位を認めるというものである。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 本学の建学の精神を理解して、教養課程の能力を有する知識を獲得すること。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 年6回の講座を受講して、指定されたレポートを作成して提出し、その内容によって評価される。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 受講の教員からそれぞれに指示があるので、それを参照されたい。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 本学入学後に単位認定を受けるため、具体的な成績の評価は各講座の教員に委ねられる。入学後の申請により、1単位が認定される。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 新入生へのオリエンテーション時に説明される。 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 特になし。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 単位認定を受けるためには、本人からの申請が不可欠です。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日 4時限目、金曜日 4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 仏教学部長 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | | |
|--|---|-------|---------|---------------|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | 総合科目 | | |
| 講義名 | [00032] 人間関係とコミュニケーション【平成30年度生まで】 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | |
| 担当者 | 中野 宏子 | | ナカノ ヒロコ | nakano hiroko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 最近重要視される「コミュニケーション能力」とは何か、何を指してコミュニケーション能力というのか、幅広い領域にわたる「コミュニケーション」について、具体的な技術も含めて様々な角度から「コミュニケーション」について概説します。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| コミュニケーションを形成する上で必要な人間の関係性を理解し、人間関係、コミュニケーションの基礎的な知識について学習します。また、自分の言いたいことを他者に理解できるよう具体的に述べられる力を身に付けることを、本授業の目標とします。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解できるよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| レポート（60%）、授業内テスト（20%）、授業参画度（20%）授業参画度は毎回のリアクションペーパーにより総合的に評価します。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 人間関係と心理（自己覚知） | | | | |
| 第2回 | 人間関係と心理（他者理解） | | | | |
| 第3回 | 人間関係と心理（ラポール） | | | | |
| 第4回 | 対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義） | | | | |
| 第5回 | 対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要） | | | | |
| 第6回 | コミュニケーションを促す環境 | | | | |
| 第7回 | コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離） | | | | |
| 第8回 | コミュニケーションの技法（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション） | | | | |
| 第9回 | コミュニケーションの技法（傾聴） | | | | |
| 第10回 | コミュニケーションの技法（受容・共感） | | | | |
| 第11回 | 機器を用いたコミュニケーション（プレゼンテーション） | | | | |
| 第12回 | 記述によるコミュニケーション | | | | |
| 第13回 | チームマネジメントとコミュニケーションの基本 | | | | |
| 第14回 | チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術 | | | | |
| 第15回 | まとめ・総括 | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください） | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | | |
|--|-----------------------|----------|------------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | 総合科目 | | |
| 講義名 | [00033] 人間の尊厳と自立 法定科目 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | -- | -- | |
| 担当者 | 村瀬 正光 | ムラセ マサミツ | murase masamitsu | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。人間の尊厳と自立を理解する為、基本的人権の理念、人権侵害等の社会問題を通して学ぶ。介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 講義毎の予習と復習のレポート：100% | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 人間の多面的理解 | | | | |
| 第2回 | 人間の尊厳と人権・福祉理念 | | | | |
| 第3回 | 人間の尊厳 普遍的尊厳 | | | | |
| 第4回 | 人間の尊厳 個別的尊厳・多様性 | | | | |
| 第5回 | 自立の概念 | | | | |
| 第6回 | 事例を通して「自立・自律」を考察 | | | | |
| 第7回 | 事例を通して「自立・自律」を考察 | | | | |
| 第8回 | 人権と尊厳 基本的人権 | | | | |
| 第9回 | 権利擁護 | | | | |
| 第10回 | アドボカシー | | | | |
| 第11回 | 人権尊重 | | | | |
| 第12回 | スティグマ | | | | |
| 第13回 | 身体的な自立支援 | | | | |
| 第14回 | 精神的な自立支援 | | | | |
| 第15回 | 社会的な自立支援 | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 『介護概論』三訂 介護福祉士養成講座 1 2 福祉士養成講座編集委員会（編） 中央法規 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 積極的に授業に参加するのを望む。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 授業の前後に教室にて対応します。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 腎臓内科医 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|----------------------|----|------------|-------|-------------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 総合科目 |
| 講義名 | [00034] 山梨県と峡南地域 | | | | |
| 期間 | 通年（15回） | | 単位数 | 選択（2） | 種類 集中 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 望月 真澄 | | モチヅキ シンチョウ | | mochizuki shincho |
| | 林 是恭 | | ハヤシ ゼキョウ | | hayashi zekyo |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見を行う。予め巡見場所に関する調べ学習を行い、予備知識を得た上で巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 峡南地域の中でも、身延町、南部町、富士川町にスポットをあて、3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。また、「やまなし観光カレッジ」事業と連携しているので授業中に山梨県内のイベントに参加し、レポートを提出してもらう。毎回、1限は大学図書館で調べ学習を行い、それから巡見を行う。授業は集中講義で、6月6日、7月11日、10月24日の3回を予定している。諸般の事情によりこの日に授業ができない場合の予備日として11月21日、11月28日を設定する。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 3回それぞれの巡見のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 巡見した際の授業態度（10%）、授業に取り組む姿勢（50%）、レポート点（40%）にて評価する。 「やまなし観光カレッジ」事業のレポート提出も評価の対象とする。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学習 | | | | |
| 第2回 | 巡見1回目 | | | | |
| 第3回 | 巡見1回目 | | | | |
| 第4回 | 巡見1回目 | | | | |
| 第5回 | 巡見1回目 | | | | |
| 第6回 | 2回目巡見場所の調べ学習 | | | | |
| 第7回 | 巡見2回目 | | | | |
| 第8回 | 巡見2回目 | | | | |
| 第9回 | 巡見2回目 | | | | |
| 第10回 | 巡見2回目 | | | | |
| 第11回 | 3回目巡見場所の調べ学習 | | | | |
| 第12回 | 巡見3回目 | | | | |
| 第13回 | 巡見3回目 | | | | |
| 第14回 | 巡見3回目 | | | | |
| 第15回 | 巡見3回目 | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 特になし。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 大学コンソーシアムやまなし及びやまなし未来創造教育プログラム単位互換科目 3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもある。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡する。昼食は各自持参。バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日1限～5限となります。3回の開講日に注意してください。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1時間目に調べ学習を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員に聞いてください。メール可 smochi(a)min.ac.jp | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 望月真澄：峡南地域の博物館学芸員として勤務経験あり。 林是恭：身延山宝物館の学芸員として勤務。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---------------------------------|---------------------|-----|----------|----|----------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 総合科目 |
| 講義名 | [00035] 留学成果による単位認定 | | | | |
| 期間 | 通年（1回） | 単位数 | 選択（30）以下 | | 種類 認定 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 学長 | | | | |
| | 望月 海慧 | | モチヅキ カイエ | | mochizuki kaie |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 交換留学生の単位を認定します。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | |
|---|---|---------|---------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | 総合科目 | |
| 講義名 | [00044] 人間関係とコミュニケーションの基礎【平成31年度生より】 法定科目 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- |
| 担当者 | 中野 宏子 | ナカノ ヒロコ | nakano hiroko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| <p>(1) 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 (2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。 人間関係の形成が、介護実践にとっての出発点であり基本的課題であることを、自己覚知や他者理解、コミュニケーション技術を通して学習する。</p> | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームマネジメントにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 授業では、コミュニケーションについての学説を正確に理解するよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題としてひきつけて、思考できるよう、「聴く、話す、書く」などの具体的な実践を通してコミュニケーション能力を培います。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前の学習では、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を毎回2時間以上行うこと、事後の学修では、配布プリントの内容に基づき授業の復習を2時間以上行うことを望みます。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 学力確認テスト、リアクションペーパー、授業への取り組み姿勢等を総合的に評価する。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 人間関係と心理（自己覚知） | | | |
| 第2回 | 人間関係と心理（他者理解） | | | |
| 第3回 | 人間関係と心理（ラポール） | | | |
| 第4回 | 対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義） | | | |
| 第5回 | 対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要） | | | |
| 第6回 | コミュニケーションを促す環境 | | | |
| 第7回 | コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離） | | | |
| 第8回 | コミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション） | | | |
| 第9回 | コミュニケーションの技法（傾聴） | | | |
| 第10回 | コミュニケーションの技法（受容・共感） | | | |
| 第11回 | 機器を用いたコミュニケーション | | | |
| 第12回 | 記述によるコミュニケーション | | | |
| 第13回 | チームマネジメントとコミュニケーションの基本 | | | |
| 第14回 | チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術 | | | |
| 第15回 | まとめ・総括 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 『教科書：なし プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください） | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|-----------------------|----------|--------|----------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 総合科目 |
| 講義名 | [00111] 基礎ゼミ (金炳坤) | | | |
| 期 間 | 前期 (15回) | 単 位 数 | 必修 (1) | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | | kim byung kon |
| | 桑名 法晃 | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko |
| | 岡田 文弘 | オカダ フミヒロ | | okada fumihiro |
| 【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】 | | | | |
| <p>本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー(本学が(もとめる)学生像)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)、ディプロマポリシー(学位授与に関する方針)」を軸とし、大学生として最低限必要な学力(読み、理解し、考え、表現する)を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。</p> | | | | |
| 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 | | | | |
| <p>大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、基礎的なスキルを身につけることを目標とする。</p> | | | | |
| 【授業方法(フィードバックの内容)】 | | | | |
| 3人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。 | | | | |
| 【授業外学修の方法(時間数)】 | | | | |
| <p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学習では、テキストをよく読み、課題をきちんとおこなひ、ゼミに備えること。事後の学習ではゼミの内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。</p> | | | | |
| 【成績評価(方法・基準)】 | | | | |
| <p>取り組み姿勢(40%/事前学習や事後学習の内容が可視化されている(例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などによる)ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください)、レポート等の提出物(60%)により総合評価する。</p> | | | | |
| 【授業計画(各回の授業内容)】 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション〔国語力検定〕 | | | |
| 第2回 | 基礎ゼミの概要説明と自己紹介(担当:桑名) | | | |
| 第3回 | 身延山大学の歴史(担当:桑名) | | | |
| 第4回 | 図書館の利用の仕方(担当:桑名) | | | |
| 第5回 | データベースを用いた資料検索(担当:桑名) | | | |
| 第6回 | 国語 :文章の書き方(担当:桑名) | | | |
| 第7回 | 国語 :ノートの取り方(担当:桑名) | | | |
| 第8回 | 国語 :原稿用紙の使い方(担当:桑名) | | | |
| 第9回 | 情報 :メールの使い方(担当:金) | | | |
| 第10回 | 情報 :ワープロの使い方(担当:金) | | | |
| 第11回 | 情報 :見出し・脚註等の付け方(担当:金) | | | |
| 第12回 | 情報 :参考文献の書き方(担当:金) | | | |
| 第13回 | 家庭 :《ビハーラ講座》(担当:金) | | | |
| 第14回 | 家庭 :レポート作成(担当:金) | | | |
| 第15回 | 主・副専攻ガイダンス | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| <p>教科書は『大学生・短大生のための大学での学び方』(旺文社教学支援サービス初年次教育教材)を用いる。参考書は『大学生・短大生のためのコミュニケーションカテキスト』、『大学生・短大生のための思考力カテキスト』(同上)がある。 〔https://www.obunsha.co.jp/06/cramschool/AchievementSystem/text.html〕</p> | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| <p>日頃から文章の読み書きの訓練を行うこと。授業では漢字検定の問題集も取り上げて学修するため、国語辞典、及び漢字・漢和辞典を必ず用意すること。携帯電話、電子辞書等の使用は認めない。</p> | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| <p>金炳坤:授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 桑名法晃:火曜日第1時限目と木曜日第5時限目 岡田文弘:木曜12:00-13:00</p> | | | | |

【実務経験】

金炳坤：なし

桑名法晃：なし

岡田文弘：なし

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|-----------------------|----------|--------|----------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 総合科目 |
| 講義名 | [00112] 基礎ゼミ (桑名法晃) | | | |
| 期間 | 前期 (15回) | 単位数 | 必修 (1) | 種類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | | kim byung kon |
| | 桑名 法晃 | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko |
| | 岡田 文弘 | オカダ フミヒロ | | okada fumihiro |
| 【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】 | | | | |
| <p>本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー(本学が(もとめる)学生像)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)、ディプロマポリシー(学位授与に関する方針)」を軸とし、大学生として最低限必要な学力(読み、理解し、考え、表現する)を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。</p> | | | | |
| 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 | | | | |
| <p>大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、基礎的なスキルを身につけることを目標とする。</p> | | | | |
| 【授業方法(フィードバックの内容)】 | | | | |
| 3人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。 | | | | |
| 【授業外学修の方法(時間数)】 | | | | |
| <p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学習では、テキストをよく読み、課題をきちんとおこなひ、ゼミに備えること。事後の学習ではゼミの内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。</p> | | | | |
| 【成績評価(方法・基準)】 | | | | |
| <p>取り組み姿勢(40%/事前学習や事後学習の内容が可視化されている(例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などによる)ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください)、レポート等の提出物(60%)により総合評価する。</p> | | | | |
| 【授業計画(各回の授業内容)】 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション〔国語力検定〕 | | | |
| 第2回 | 基礎ゼミの概要説明と自己紹介(担当:桑名) | | | |
| 第3回 | 身延山大学の歴史(担当:桑名) | | | |
| 第4回 | 図書館の利用の仕方(担当:桑名) | | | |
| 第5回 | データベースを用いた資料検索(担当:桑名) | | | |
| 第6回 | 国語 :文章の書き方(担当:桑名) | | | |
| 第7回 | 国語 :ノートの取り方(担当:桑名) | | | |
| 第8回 | 国語 :原稿用紙の使い方(担当:桑名) | | | |
| 第9回 | 情報 :メールの使い方(担当:金) | | | |
| 第10回 | 情報 :ワープロの使い方(担当:金) | | | |
| 第11回 | 情報 :見出し・脚註等の付け方(担当:金) | | | |
| 第12回 | 情報 :参考文献の書き方(担当:金) | | | |
| 第13回 | 家庭 :《ビハーラ講座》(担当:金) | | | |
| 第14回 | 家庭 :レポート作成(担当:金) | | | |
| 第15回 | 主・副専攻ガイダンス | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| <p>教科書は『大学生・短大生のための大学での学び方』(旺文社教学支援サービス初年次教育教材)を用いる。参考書は『大学生・短大生のためのコミュニケーションカテキスト』、『大学生・短大生のための思考力カテキスト』(同上)がある。 〔https://www.obunsha.co.jp/06/cramschool/AchievementSystem/text.html〕</p> | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| <p>日頃から文章の読み書きの訓練を行うこと。授業では漢字検定の問題集も取り上げて学修するため、国語辞典、及び漢字・漢和辞典を必ず用意すること。携帯電話、電子辞書等の使用は認めない。</p> | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| <p>金炳坤:授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 桑名法晃:火曜日第1時限目と木曜日第5時限目 岡田文弘:木曜12:00-13:00</p> | | | | |

【実務経験】

金炳坤：なし

桑名法晃：なし

岡田文弘：なし

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|-----------------------|----------|--------|----------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 総合科目 |
| 講義名 | [00114] 基礎ゼミ (岡田文弘) | | | |
| 期 間 | 前期 (15回) | 単 位 数 | 必修 (1) | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | | kim byung kon |
| | 桑名 法晃 | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko |
| | 岡田 文弘 | オカダ フミヒロ | | okada fumihiro |
| 【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】 | | | | |
| <p>本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー(本学が(もとめる)学生像)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)、ディプロマポリシー(学位授与に関する方針)」を軸とし、大学生として最低限必要な学力(読み、理解し、考え、表現する)を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。</p> | | | | |
| 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 | | | | |
| <p>大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、基礎的なスキルを身につけることを目標とする。</p> | | | | |
| 【授業方法(フィードバックの内容)】 | | | | |
| 3人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。 | | | | |
| 【授業外学修の方法(時間数)】 | | | | |
| <p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学習では、テキストをよく読み、課題をきちんとおこなひ、ゼミに備えること。事後の学習ではゼミの内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。</p> | | | | |
| 【成績評価(方法・基準)】 | | | | |
| <p>取り組み姿勢(40%/事前学習や事後学習の内容が可視化されている(例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などによる)ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください)、レポート等の提出物(60%)により総合評価する。</p> | | | | |
| 【授業計画(各回の授業内容)】 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション〔国語力検定〕 | | | |
| 第2回 | 基礎ゼミの概要説明と自己紹介(担当:桑名) | | | |
| 第3回 | 身延山大学の歴史(担当:桑名) | | | |
| 第4回 | 図書館の利用の仕方(担当:桑名) | | | |
| 第5回 | データベースを用いた資料検索(担当:桑名) | | | |
| 第6回 | 国語 :文章の書き方(担当:桑名) | | | |
| 第7回 | 国語 :ノートの取り方(担当:桑名) | | | |
| 第8回 | 国語 :原稿用紙の使い方(担当:桑名) | | | |
| 第9回 | 情報 :メールの使い方(担当:金) | | | |
| 第10回 | 情報 :ワープロの使い方(担当:金) | | | |
| 第11回 | 情報 :見出し・脚註等の付け方(担当:金) | | | |
| 第12回 | 情報 :参考文献の書き方(担当:金) | | | |
| 第13回 | 家庭 :《ビハーラ講座》(担当:金) | | | |
| 第14回 | 家庭 :レポート作成(担当:金) | | | |
| 第15回 | 主・副専攻ガイダンス | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| <p>教科書は『大学生・短大生のための大学での学び方』(旺文社教学支援サービス初年次教育教材)を用いる。参考書は『大学生・短大生のためのコミュニケーションカテキスト』、『大学生・短大生のための思考力カテキスト』(同上)がある。 〔https://www.obunsha.co.jp/06/cramschool/AchievementSystem/text.html〕</p> | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| <p>日頃から文章の読み書きの訓練を行うこと。授業では漢字検定の問題集も取り上げて学修するため、国語辞典、及び漢字・漢和辞典を必ず用意すること。携帯電話、電子辞書等の使用は認めない。</p> | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| <p>金炳坤:授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 桑名法晃:火曜日第1時限目と木曜日第5時限目 岡田文弘:木曜12:00-13:00(要予約、ookada@min.ac.jp)</p> | | | | |

【実務経験】

金炳坤：なし

桑名法晃：なし

岡田文弘：なし

| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
|-------|------------|------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | 総合科目 |

| | | | |
|-----|--------------------|--|--|
| 講義名 | [00211] 基礎ゼミ (金炳坤) | | |
|-----|--------------------|--|--|

| | | | | | |
|-----|----------|-------|--------|-----|----|
| 期 間 | 後期 (15回) | 単 位 数 | 必修 (1) | 種 類 | 演習 |
|-----|----------|-------|--------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|----------|----------------|
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | kim byung kon |
| | 桑名 法晃 | クワナ ホウコウ | kuwana hoko |
| | 岡田 文弘 | オカダ フミヒロ | okada fumihiro |

【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】

本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー本学が(もとめる学生像)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)、ディプロマポリシー(学位授与に関する方針)」を軸とし、大学生として最低限必要な学力(読み、理解し、考え、表現する)を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、応用的なスキルを身につけることを目標とする。

【授業方法(フィードバックの内容)】

3人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。

【授業外学修の方法(時間数)】

この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学習では、テキストをよく読み、課題をきちんとおこなひ、ゼミに備えること。事後の学習ではゼミの内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。

【成績評価(方法・基準)】

取り組み姿勢(40%/事前学習や事後学習の内容が可視化されている(例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などによる)ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください)、レポート等の提出物(60%)により総合評価する。

【授業計画(各回の授業内容)】

| | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 家庭 : 《防災訓練》(担当:桑名) |
| 第2回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第3回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第4回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第5回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第6回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第7回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第8回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第9回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第10回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第11回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第12回 | 公民 : 《公開講演会》(担当:金) |
| 第13回 | 公民 : レポート作成(担当:金) |
| 第14回 | 公民 : ディベート(担当:桑名) |
| 第15回 | 全体の総括と今後の学修に向けての指導(担当:桑名) |

【教科書・参考書】

教科書はその都度指示し、必要に応じてプリントを配布する。参考書は『大学生・短大生のための大学での学び方』、『大学生・短大生のためのコミュニケーションカテキスト』、『大学生・短大生のための思考力カテキスト』(旺文社教学支援サービス初年次教育教材)がある。[<https://www.obunsha.co.jp/06/cramschool/AchievementSystem/text.html>]

【学生へのメッセージ】

自ら問題を発見し解決していく能力を身につけていくこと。グループのプログラム活動に参加することで、メンバー間相互の影響を受け、個人が変化(成長、発達)するよう努めること。聴衆に対して情報を提示し、理解・納得してもらえよう工夫すること。

【オフィスアワー】

金炳坤：授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。

桑名法晃：火曜日第1時限目と木曜日第5時限目

岡田文弘：水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）

【実務経験】

金炳坤：なし

桑名法晃：なし

岡田文弘：なし

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|---------------------------|----------|--------|----------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 総合科目 |
| 講義名 | [00212] 基礎ゼミ (桑名法晃) | | | |
| 期間 | 後期 (15回) | 単位数 | 必修 (1) | 種類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | | kim byung kon |
| | 桑名 法晃 | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko |
| | 岡田 文弘 | オカダ フミヒロ | | okada fumihiro |
| 【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】 | | | | |
| <p>本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー本学が(もとめる学生像)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)、ディプロマポリシー(学位授与に関する方針)」を軸とし、大学生として最低限必要な学力(読み、理解し、考え、表現する)を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。</p> | | | | |
| 【授業修了時の達成課題(到達目標)】 | | | | |
| <p>大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、応用的なスキルを身につけることを目標とする。</p> | | | | |
| 【授業方法(フィードバックの内容)】 | | | | |
| 3人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。 | | | | |
| 【授業外学修の方法(時間数)】 | | | | |
| <p>この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学習では、テキストをよく読み、課題をきちんとおこなひ、ゼミに備えること。事後の学習ではゼミの内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。</p> | | | | |
| 【成績評価(方法・基準)】 | | | | |
| <p>取り組み姿勢(40%/事前学習や事後学習の内容が可視化されている(例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などによる)ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください)、レポート等の提出物(60%)により総合評価する。</p> | | | | |
| 【授業計画(各回の授業内容)】 | | | | |
| 第1回 | 家庭 : 《防災訓練》(担当:桑名) | | | |
| 第2回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) | | | |
| 第3回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) | | | |
| 第4回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) | | | |
| 第5回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) | | | |
| 第6回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) | | | |
| 第7回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) | | | |
| 第8回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) | | | |
| 第9回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) | | | |
| 第10回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) | | | |
| 第11回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) | | | |
| 第12回 | 公民 : 《公開講演会》(担当:金) | | | |
| 第13回 | 公民 : レポート作成(担当:金) | | | |
| 第14回 | 公民 : ディベート(担当:桑名) | | | |
| 第15回 | 全体の総括と今後の学修に向けての指導(担当:桑名) | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| <p>教科書はその都度指示し、必要に応じてプリントを配布する。参考書は『大学生・短大生のための大学での学び方』、『大学生・短大生のためのコミュニケーションカテキスト』、『大学生・短大生のための思考力カテキスト』(旺文社教学支援サービス初年次教育教材)がある。[https://www.obunsha.co.jp/06/cramschool/AchievementSystem/text.html]</p> | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| <p>自ら問題を発見し解決していく能力を身につけていくこと。グループのプログラム活動に参加することで、メンバー間相互の影響を受け、個人が変化(成長、発達)するよう努めること。聴衆に対して情報を提示し、理解・納得してもらえよう工夫すること。</p> | | | | |

【オフィスアワー】

金炳坤：授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。

桑名法晃：火曜日第1時限目と木曜日第5時限目

岡田文弘：水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）

【実務経験】

金炳坤：なし

桑名法晃：なし

岡田文弘：なし

| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
|-------|------------|------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | 総合科目 |

| | | | |
|-----|---------------------|--|--|
| 講義名 | [00214] 基礎ゼミ (岡田文弘) | | |
|-----|---------------------|--|--|

| | | | | | |
|----|----------|-----|--------|----|----|
| 期間 | 後期 (15回) | 単位数 | 必修 (1) | 種類 | 演習 |
|----|----------|-----|--------|----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|----------|----------------|
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | kim byung kon |
| | 桑名 法晃 | クワナ ホウコウ | kuwana hoko |
| | 岡田 文弘 | オカダ フミヒロ | okada fumihiro |

【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】

本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー(本学が(もとめる学生像)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)、ディプロマポリシー(学位授与に関する方針)」を軸とし、大学生として最低限必要な学力(読み、理解し、考え、表現する)を身につけるとともに、自主的学習態度を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するような授業を展開する。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学習しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、応用的なスキルを身につけることを目標とする。

【授業方法(フィードバックの内容)】

3人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。

【授業外学修の方法(時間数)】

この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学習では、テキストをよく読み、課題をきちんとおこなひ、ゼミに備えること。事後の学習ではゼミの内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。

【成績評価(方法・基準)】

取り組み姿勢(40%/事前学習や事後学習の内容が可視化されている(例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などによる)ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください)、レポート等の提出物(60%)により総合評価する。

【授業計画(各回の授業内容)】

| | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 家庭 : 《防災訓練》(担当:桑名) |
| 第2回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第3回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第4回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第5回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第6回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第7回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第8回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第9回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第10回 | 地理歴史 : 世界史 (担当:岡田) |
| 第11回 | 地理歴史 : 日本史 (担当:岡田) |
| 第12回 | 公民 : 《公開講演会》(担当:金) |
| 第13回 | 公民 : レポート作成(担当:金) |
| 第14回 | 公民 : ディベート(担当:桑名) |
| 第15回 | 全体の総括と今後の学修に向けての指導(担当:桑名) |

【教科書・参考書】

教科書はその都度指示し、必要に応じてプリントを配布する。参考書は『大学生・短大生のための大学での学び方』、『大学生・短大生のためのコミュニケーションカテキスト』、『大学生・短大生のための思考力カテキスト』(旺文社教学支援サービス初年次教育教材)がある。[<https://www.obunsha.co.jp/06/cramschool/AchievementSystem/text.html>]

【学生へのメッセージ】

自ら問題を発見し解決していく能力を身につけていくこと。グループのプログラム活動に参加することで、メンバー間相互の影響を受け、個人が変化(成長、発達)するよう努めること。聴衆に対して情報を提示し、理解・納得してもらえよう工夫すること。

【オフィスアワー】

金柄坤：授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。

桑名法晃：火曜日第1時限目と木曜日第5時限目

岡田文弘：水曜2限（要予約、ookada@min.ac.jp）

【実務経験】

金柄坤：なし

桑名法晃：なし

岡田文弘：なし

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|----------------------|----------|---------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 保健体育科目 |
| 講義名 | [00051] 健康とスポーツの科学 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 藤本 俊 | フジモト シュン | fujimoto syun | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 生活習慣病の発症の予防等や健康で生活することのできる運動処方について講義する。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 人々が健康な生活を真に実行するためには、何が「健康」であり、何が「不健康」であるかをまず知らなければならない。健康とスポーツについて、理解と認識を深め、健康の保持増進について講義する。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| パソコン接続プロジェクター（パワーポイント）を使用して講義をする。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習120分：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：配布資料を読み直し、ノートをまとめる。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 学力確認テスト70%、授業への取り組み姿勢20%、レポート10%を総合して評価する。出席は授業数の2/3以上、授業中瞑想にふける学生は出席扱いとしない。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 運動不足による身体の影響 | | | |
| 第2回 | 運動と健康 | | | |
| 第3回 | 生活習慣病と健康 | | | |
| 第4回 | 食事と健康 | | | |
| 第5回 | 睡眠と健康 | | | |
| 第6回 | 飲酒・喫煙と健康 | | | |
| 第7回 | メタボリックシンドローム | | | |
| 第8回 | 運動とヘモグロビン・ドーピング | | | |
| 第9回 | 健康のための正しいトレーニング方法 | | | |
| 第10回 | ウォーキング、ジョギング | | | |
| 第11回 | ストレッチングの目的と方法 | | | |
| 第12回 | スポーツマッサージの目的と方法 (演習) | | | |
| 第13回 | テーピングの目的と方法 (演習) | | | |
| 第14回 | 応急手当の方法 | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 特に指定しない。その都度資料を配付する。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 身体は生涯にわたり、つき合わなければなりません。快適に今日を生きるための知識をしっかりと身に付けて下さい。自分のための健康法です。授業中は携帯・スマートホン・タブレット等の使用禁止とする。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 授業終了後 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| なし | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|-------------------|-------|----------|-----|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 保健体育科目 |
| 講義名 | [00052] トレーニングと身体 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（1） | 種 類 | 実技 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 藤本 俊 | | フジモト シュン | | fujimoto syun |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| テニスの基礎技術の理論と発展技術の理論についてスキル指導をする。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| テニスの実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| テニスコートを使用して実技を中心に講義・指導でホローアップする。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前学習120分：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：反復練習すること。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| スキル確認テスト70%、授業への取り組み姿勢30%を総合して評価する。出席は授業数の2 / 3以上。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | テニスの基礎技術の理論と実践（1） | | | | |
| 第2回 | テニスの基礎技術の理論と実践（2） | | | | |
| 第3回 | テニスの基礎技術の理論と実践（3） | | | | |
| 第4回 | テニスの発展技術の理論と実践（1） | | | | |
| 第5回 | テニスの発展技術の理論と実践（2） | | | | |
| 第6回 | テニスの発展技術の理論と実践（3） | | | | |
| 第7回 | テニスのゲームについて（1） | | | | |
| 第8回 | テニスのゲームについて（2） | | | | |
| 第9回 | テニスのゲームについて（3） | | | | |
| 第10回 | テニスのゲームについて（4） | | | | |
| 第11回 | テニスのゲームについて（5） | | | | |
| 第12回 | テニスのゲームについて（6） | | | | |
| 第13回 | テニスのゲームについて（7） | | | | |
| 第14回 | テニスのゲームについて（8） | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。週1回のトレーニングと身体の実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は必ず内容の習得が得られるように反復練習をすること。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| トレーニングウエアー・テニスシューズを用意し、徒歩でテニスコートに集合、バイク・自動車の移動は禁止。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けて下さい。授業中は携帯等の使用を禁止とする。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 授業終了後 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| なし | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|--|----------------------|-------|----------|-----|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 保健体育科目 |
| 講義名 | [00053] トレーニングと身体 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（1） | 種 類 | 実技 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 藤本 俊 | | フジモト シュン | | fujimoto syun |
| 【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| バドミントン・卓球・ソフトバレーボールの基礎技術と発展技術の理論と実践について、スキル指導する。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 各種のスポーツ種目の実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 体育館で実技を中心に講義・指導でホローアップする。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前学習120分：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学習120分：反復練習すること。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| スキル確認テスト70%、授業への取り組み姿勢30%を総合して評価する。出席は授業数の2/3以上。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | バドミントンの基礎技術の理論と実践（1） | | | | |
| 第2回 | バドミントンの基礎技術の理論と実践（2） | | | | |
| 第3回 | バドミントンの発展技術の理論と実践（1） | | | | |
| 第4回 | バドミントンの発展技術の理論と実践（2） | | | | |
| 第5回 | バドミントンのゲームについて（1） | | | | |
| 第6回 | バドミントンのゲームについて（2） | | | | |
| 第7回 | バドミントンのゲームについて（3） | | | | |
| 第8回 | 卓球の基礎技術の理論と実践 | | | | |
| 第9回 | 卓球の発展技術の理論と実践 | | | | |
| 第10回 | 卓球のゲームについて（1） | | | | |
| 第11回 | 卓球のゲームについて（2） | | | | |
| 第12回 | ソフトバレーボールの基礎技術の理論と実践 | | | | |
| 第13回 | ソフトバレーボールのゲームについて（1） | | | | |
| 第14回 | ソフトバレーボールのゲームについて（2） | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。週1回のトレーニングと身体の実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は必ず内容の習得が得られるように反復練習をすること。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| トレーニングウェア・体育館シューズを用意し、グラウンド用特別すること。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けて下さい。又、授業中は携帯等の使用禁止とする。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 授業終了後 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| なし | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
|-------|------------|------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | 語学科目 |

| | | | |
|-----|--------------|--|--|
| 講義名 | [00060] 英語 A | | |
|-----|--------------|--|--|

| | | | | | |
|-----|----------|-------|--------|-----|----|
| 期 間 | 前期 (30回) | 単 位 数 | 選択 (2) | 種 類 | 演習 |
|-----|----------|-------|--------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|---------------|---------------|---------------------|
| 担当者 | ジル・エマ・ストロースマン | ジル・エマ・ストロースマン | jill emma strothman |
|-----|---------------|---------------|---------------------|

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

着実に単語や文法を学び、徐々に英語を使える言語にしましょう。

【授業修了時の達成課題 (到達目標)】

英語 A はバランスよく英単語、英文法と英会話の学習を行います。本講義を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。

【授業方法 (フィードバックの内容)】

2週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復讐するためのミニテストをします。その後、新しい学習をします。学力確認試験は15回目の授業時間に行います。

【授業外学修の方法 (時間数)】

この授業では、毎回それぞれ分120以上の事前・事後の学修を行うこと。

【成績評価 (方法・基準)】

評価は授業に対する取り組みと学力確認試験とミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは30%、ミニテストは50%、学力確認試験は20%です。

【授業計画 (各回の授業内容)】

| | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 自己紹介、course orientation |
| 第2回 | Unit 1 (1) |
| 第3回 | Unit 1 (2) |
| 第4回 | Unit 1 (3) |
| 第5回 | Unit 1 (4) |
| 第6回 | Unit 2 (1) |
| 第7回 | Unit 2 (2) |
| 第8回 | Unit 2 (3) |
| 第9回 | Unit 2 (4) |
| 第10回 | Unit 3 (1) |
| 第11回 | Unit 3 (2) |
| 第12回 | Unit 3 (3) |
| 第13回 | Unit 3 (4) |
| 第14回 | Unit 4 (1) |
| 第15回 | Unit 4 (2) |
| 第16回 | Unit 4 (3) |
| 第17回 | Unit 4 (4) |
| 第18回 | Unit 5 (1) |
| 第19回 | Unit 5 (2) |
| 第20回 | Unit 5 (3) |
| 第21回 | Unit 5 (4) |
| 第22回 | Unit 6 (1) |
| 第23回 | Unit 6 (2) |
| 第24回 | Unit 6 (3) |
| 第25回 | Unit 6 (4) |
| 第26回 | Grammar (1) |
| 第27回 | Grammar (2) |
| 第28回 | Grammar (3) |
| 第29回 | Grammar (4) |
| 第30回 | まとめ及び振り返り |

| |
|--|
| 【教科書・参考書】 |
| 教科書：openMind 2nd edition AE Level 1, Mickey Rogers 他著、Macmillan Education 参考書：和英英和辞典 |
| 【学生へのメッセージ】 |
| 15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでいてください。本講義は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。 |
| 【オフィスアワー】 |
| 月曜日 5時限 |
| 【実務経験】 |
| なし |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|--|---------------|-------|---------------|-----|---------------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | | 語学科目 |
| 講義名 | [00061] 英語 B | | | | |
| 期 間 | 後期 (30回) | 単 位 数 | 選 択 (2) | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | ジル・エマ・ストロースマン | | ジル・エマ・ストロースマン | | jill emma strothman |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 着実に単語や文法を学び、徐々に英語を使える言語にしましょう。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | |
| 英語 B では、英単語、英文法と英会話の学習を続けます。教室で行う英語学習と会話練習を通して、深い英語の理解を目指します。本講義を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。「英語B」で取り上げるのは、教科書のUnit7からUnit12まで。 | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | |
| 2週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復讐するためのミニテストをします。その後、新しい学習をします。学力確認試験は15回目の授業時間に行います。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。 | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | |
| 評価は授業に対する取り組みと学力確認試験とミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは30%、ミニテストは50%、学力確認試験は20%です。 | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | |
| 第1回 | 夏休みの話 | | | | |
| 第2回 | Unit 7 (1) | | | | |
| 第3回 | Unit 7 (2) | | | | |
| 第4回 | Unit 7 (3) | | | | |
| 第5回 | Unit 7 (4) | | | | |
| 第6回 | Unit 8 (1) | | | | |
| 第7回 | Unit 8 (2) | | | | |
| 第8回 | Unit 8 (3) | | | | |
| 第9回 | Unit 8 (4) | | | | |
| 第10回 | Unit 9 (1) | | | | |
| 第11回 | Unit 9 (2) | | | | |
| 第12回 | Unit 9 (3) | | | | |
| 第13回 | Unit 9 (4) | | | | |
| 第14回 | Unit 10 (1) | | | | |
| 第15回 | Unit 10 (2) | | | | |
| 第16回 | Unit 10 (3) | | | | |
| 第17回 | Unit 10 (4) | | | | |
| 第18回 | Unit 11 (1) | | | | |
| 第19回 | Unit 11 (2) | | | | |
| 第20回 | Unit 11 (3) | | | | |
| 第21回 | Unit 11 (4) | | | | |
| 第22回 | Unit 12 (1) | | | | |
| 第23回 | Unit 12 (2) | | | | |
| 第24回 | Unit 12 (3) | | | | |
| 第25回 | Unit 12 (4) | | | | |
| 第26回 | Grammar (1) | | | | |
| 第27回 | Grammar (2) | | | | |
| 第28回 | Grammar (3) | | | | |
| 第29回 | Grammar (4) | | | | |
| 第30回 | まとめ及び振り返り | | | | |

| |
|---|
| 【教科書・参考書】 |
| 教科書：openMind 2nd edition AE Level 1, Mickey Rogers 他著、Macmillan Education 参考書：英和英辞典 |
| 【学生へのメッセージ】 |
| 15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでください。本講義は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。 |
| 【オフィスアワー】 |
| 月曜日 5時限 |
| 【実務経験】 |
| なし |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|-----------------------|----------|---------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 語学科目 |
| 講義名 | [00062] 韓国語 A | | | |
| 期 間 | 前期 (30回) | 単 位 数 | 選 択 (2) | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | kim byung kon | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 日本語と韓国語は文法構造における類似性が高いので、文字と発音に慣れさえすれば、他の外国語より習得しやすい言語です。韓国語能力試験TOPIK (初級)のレベル認定を目指しますので、志ある人の受講を望みます。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | |
| 自己紹介、買い物、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な言語(ハングル)を駆使でき、身近な話題の内容を理解、表現できる。約800語程度の基礎的な語彙と基本文法を理解でき、簡単な文章を作れる。簡単な生活文や実用文を理解し、構成できる。 | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | |
| 教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。 | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | |
| 毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。 | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | |
| 授業への取り組み姿勢 (20%)、小テスト (20%)、中間テスト (30%)、学力確認テスト (30%) により総合評価します。 | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | |
| 第1回 | ガイダンス、あいさつのことば、教室のことば | | | |
| 第2回 | 第1課：韓国語と文字 | | | |
| 第3回 | 第2課：基本母音字 | | | |
| 第4回 | 第3課：基本子音字 | | | |
| 第5回 | 第4課：基本子音字 | | | |
| 第6回 | 第5課：基本子音字 | | | |
| 第7回 | 第6課：合成子音字 | | | |
| 第8回 | 第7課：合成母音字 | | | |
| 第9回 | 第8課：パッチム | | | |
| 第10回 | 第9課：連音化 | | | |
| 第11回 | 中間テスト | | | |
| 第12回 | 第10課：私は日本人です。 | | | |
| 第13回 | 第11課：これは何ですか。 | | | |
| 第14回 | 第12課：誰の本ですか。 | | | |
| 第15回 | 中間テスト | | | |
| 第16回 | 第13課：学校はどこにありますか。 | | | |
| 第17回 | 第14課：何をしますか。 | | | |
| 第18回 | 第15課：どこに行きますか。 | | | |
| 第19回 | 中間テスト | | | |
| 第20回 | 第16課：天気はどうですか。 | | | |
| 第21回 | 第17課：今日は何日ですか。 | | | |
| 第22回 | 第18課：ひとついくらですか。 | | | |
| 第23回 | 第19課：何時に起きますか。 | | | |
| 第24回 | 第20課：どちらにお住まいですか。 | | | |
| 第25回 | 中間テスト | | | |
| 第26回 | 第21課：週末に何をしますか。 | | | |
| 第27回 | 第22課：昨日、何をしましたか。 | | | |
| 第28回 | 第23課：いま、何をされていますか。 | | | |
| 第29回 | 第24課：何を食べましょうか。 | | | |
| 第30回 | まとめ | | | |

| |
|---|
| 【教科書・参考書】 |
| 教科書：『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト；初級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験；TOPIK I』李志暎監修（アスク出版）2015年。 |
| 【学生へのメッセージ】 |
| 交換留学を希望する学生は必ず受講してください。〔 http://www.min.jp/about/International.html 〕 韓国語能力試験の試験日は、第71回：7月12日（日）、第72回：10月18日（日）です。〔 https://www.kref.or.jp/moushikomi 〕 |
| 【オフィスアワー】 |
| 授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 |
| 【実務経験】 |
| 同時通訳・翻訳業務の実績あり |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|---------------------------|----------|---------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 語学科目 |
| 講義名 | [00063] 韓国語 B | | | |
| 期 間 | 後期 (30回) | 単 位 数 | 選 択 (2) | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 金 炳坤 | キム ビョンコン | kim byung kon | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 日本語と韓国語は文法構造における類似性が高いので、文字と発音に慣れさえすれば、他の外国語より習得しやすい言語です。韓国語能力試験TOPIK (初級)のレベル認定を目指しますので、志ある人の受講を望みます。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | |
| 電話やお願い程度の日常生活に必要な言語(ハングル)や、郵便局、銀行などの公共機関での会話ができる。約1,500~2,000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる。公式的な状況か非公式的な状況かの言語(ハングル)を区分し、使用できる。 | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | |
| 教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト(成績評価の対象)を行いますので、予習・復習に励んでください。 | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | |
| 毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。 | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | |
| 授業への取り組み姿勢(20%)、小テスト(20%)、中間テスト(30%)、学力確認テスト(30%)により総合評価します。 | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | |
| 第2回 | 第1課: 数字の復習 | | | |
| 第3回 | 第2課: 語尾の復習 | | | |
| 第4回 | 第3課: 助詞の復習 | | | |
| 第5回 | 第4課: 遅くなって申し訳ありません。 | | | |
| 第6回 | 第5課: ビビンパが食べたいです。 | | | |
| 第7回 | 第6課: 最近、忙しいですか。 | | | |
| 第8回 | 第7課: 復習 | | | |
| 第9回 | 中間テスト | | | |
| 第10回 | 第8課: どこで撮った写真ですか。 | | | |
| 第11回 | 第9課: 詳しく説明させていただきます。 | | | |
| 第12回 | 第10課: 韓国に来てどのくらい経っていますか。 | | | |
| 第13回 | 第11課: 復習 | | | |
| 第14回 | 中間テスト | | | |
| 第15回 | 第12課: 美術館はここから近いですか。 | | | |
| 第16回 | 第13課: 運転しながら電話しないでください。 | | | |
| 第17回 | 第14課: 復習 | | | |
| 第18回 | 中間テスト | | | |
| 第19回 | 第15課: 雨がたくさん降るようです。 | | | |
| 第20回 | 第16課: 風邪はもう治りましたか。 | | | |
| 第21回 | 第17課: ここで写真を撮ってもいいですか。 | | | |
| 第22回 | 第18課: 景福宮にはどのように行けばいいですか。 | | | |
| 第23回 | 第19課: 週末にも学校にいかねばなりません。 | | | |
| 第24回 | 第20課: お腹がいっぱいでもう食べられません。 | | | |
| 第25回 | 第21課: 復習 | | | |
| 第26回 | 中間テスト | | | |
| 第27回 | 第22課: 十時まで来られますか。 | | | |
| 第28回 | 第23課: 慶州に行ってみたことはありますか。 | | | |
| 第29回 | 第24課: 雪がたくさん降ったそうです。 | | | |
| 第30回 | まとめ | | | |

| |
|---|
| 【教科書・参考書】 |
| 教科書：『韓国語をはじめよう：書いて身につくテキスト；中級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験；TOPIK I』李志暎監修（アスク出版）2015年。 |
| 【学生へのメッセージ】 |
| 交換留学を希望する学生は必ず受講してください。〔 http://www.min.jp/about/International.html 〕 韓国語能力試験の試験日は、第71回：7月12日（日）、第72回：10月18日（日）です。〔 https://www.kref.or.jp/moushikomi 〕 |
| 【オフィスアワー】 |
| 授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 |
| 【実務経験】 |
| 同時通訳・翻訳業務の実績あり |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|-------------------|---------|----------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 語学科目 |
| 講義名 | [00064] 現代中国語 A | | | |
| 期 間 | 前期 (30回) | 単 位 数 | 選 択 (2) | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 椿 正美 | ツバキ マサミ | tsubaki masami | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 現在、日本と中国は観光や経済の面で盛んに交流が続いているが、今後も両国間の正常な関係を維持するためには、多くの日本人が中国社会の実状や文化面等に対する理解を更に深めることも必要となる。この授業では、中国語の発音の指導や文法の講義を進め乍ら、中国の文化や中国人の価値観等についても紹介する。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 本授業を受講することにより、中国語による簡単な挨拶や日常会話が可能となり、中国についての基本的な知識を身につけることができる。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| テキストの内容は、発音表記について説明された発音編、挨拶等の簡単な表現が収録された基本編、本文と文法の解説で構成された構文編に分かれている。構文編の授業方法では、まず文法規則について説明し、次に本文の発音と日本語訳について指導し、最後に練習問題について受講生に答えさせる。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前の学習（120分）では、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後の学習（120分）では、授業で習得した事柄について再チェックし、問題点を解決しておくこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業への熱意や授業態度(30%)、テストの成績(70%)により総合評価する。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | |
| 第2回 | 発音編：声調、母音 | | | |
| 第3回 | 発音編：子音 | | | |
| 第4回 | 基本編：挨拶言葉、数字 | | | |
| 第5回 | 基本編：地名、漢詩 | | | |
| 第6回 | 第1課：人称代名詞、名前の尋ね方 | | | |
| 第7回 | 第1課の本文と練習 | | | |
| 第8回 | 第2課：指示代名詞、動詞述語文 | | | |
| 第9回 | 第2課の本文と練習 | | | |
| 第10回 | 第3課：形容詞述語文、反復疑問文 | | | |
| 第11回 | 第3課の本文と練習 | | | |
| 第12回 | 第4課：願望の助動詞、疑問詞疑問文 | | | |
| 第13回 | 第4課の本文と練習 | | | |
| 第14回 | おさらい | | | |
| 第15回 | 第5課：方位詞、助数詞 | | | |
| 第16回 | 第5課の本文と練習 | | | |
| 第17回 | 第6課：可能の助動詞、連動文 | | | |
| 第18回 | 第6課の本文と練習 | | | |
| 第19回 | 第7課：選択疑問文、使役文 | | | |
| 第20回 | 第7課の本文と練習 | | | |
| 第21回 | おさらい | | | |
| 第22回 | 第1課の復習 | | | |
| 第23回 | 第2課の復習 | | | |
| 第24回 | 第3課の復習 | | | |
| 第25回 | 第4課の復習 | | | |
| 第26回 | 第5課の復習 | | | |
| 第27回 | 第6課の復習 | | | |
| 第28回 | 第7課の復習 | | | |

| | |
|--|-----|
| 第29回 | 総復習 |
| 第30回 | まとめ |
| 【教科書・参考書】 | |
| 教科書：『はじめまして中国語』椿正美・戚長纓著(駿河台出版社)2014年、参考書：『中国語わかる文法』興水優他著(大修館書店)2009年、『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著(同学社)2016年。 | |
| 【学生へのメッセージ】 | |
| 語学力を上達させるためには、授業で習得した内容の積み重ねが大事なので、受講した後の復習は怠らないこと。多くの受講生にとっては、初めて学ぶ教科なので、基本的な部分は繰り返し勉強しておくように。 | |
| 【オフィスアワー】 | |
| 毎週授業の前後に教室で受け付けます。 | |
| 【実務経験】 | |
| なし | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|--------------------|---------|----------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 教養科目 | | | 語学科目 |
| 講義名 | [00065] 現代中国語 B | | | |
| 期 間 | 後期 (30回) | 単 位 数 | 選 択 (2) | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 椿 正美 | ツバキ マサミ | tsubaki masami | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 中国語の発音の方法や文法の規則の基本的な部分については、現代中国語Aの授業で既に講義したので、現代中国語Bでは、書く・話す・聞くの総合的な能力を実践面で応用できるよう授業を進めていく。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 本授業を受講することにより、受講生は更に複雑な内容について習得し、街の歩き方や家族の紹介等の実用的な会話力を身につけることができるようになる。。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 授業では、まず各課の新出単語を発音練習し、続いて文法の規則について説明した後、本文を日本語訳し、練習問題にも取り組んでいく。基本的には、現代中国語Aと同じ方法で授業を進めていく。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前の学習では、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後の学習では、授業で習得した事柄について再チェックし、問題点を解決しておくこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業への熱意や授業態度(30%)、テストの成績(70%)により総合評価する。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | |
| 第2回 | 現代中国語Aの復習 | | | |
| 第3回 | 第8課：主述述語文、時間帯の表現 | | | |
| 第4回 | 第8課の本文 | | | |
| 第5回 | 第8課の練習 | | | |
| 第6回 | 第9課：動量補語、時刻の表現 | | | |
| 第7回 | 第9課の本文 | | | |
| 第8回 | 第9課の練習 | | | |
| 第9回 | 第10課：様態補語、名詞述語文 | | | |
| 第10回 | 第10課の本文 | | | |
| 第11回 | 第10課の練習 | | | |
| 第12回 | おさらい | | | |
| 第13回 | 第11課：結果補語、二重目的語文 | | | |
| 第14回 | 第11課の本文 | | | |
| 第15回 | 第11課の練習 | | | |
| 第16回 | 第12課：方向補語、当然を示す助動詞 | | | |
| 第17回 | 第12課の本文 | | | |
| 第18回 | 第12課の練習 | | | |
| 第19回 | 第13課：程度の強調、比較の表現 | | | |
| 第20回 | 第13課の本文 | | | |
| 第21回 | 第13課の練習 | | | |
| 第22回 | おさらい | | | |
| 第23回 | 第8課の復習 | | | |
| 第24回 | 第9課の復習 | | | |
| 第25回 | 第10課の復習 | | | |
| 第26回 | 第11課の復習 | | | |
| 第27回 | 第12課の復習 | | | |
| 第28回 | 第13課の復習 | | | |
| 第29回 | 総復習 | | | |
| 第30回 | まとめ | | | |

| |
|---|
| 【教科書・参考書】 |
| 教科書：椿正美・戚長纓著『はじめまして中国語』（駿河台出版社）2014年。参考書：『中国語わかる文法』興水優他著（大修館書店）2009年、『why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著（同学社）2016年。 |
| 【学生へのメッセージ】 |
| 授業は現代中国語 A より少し難しくなるが、真剣な気持ちで出席し、習得した事柄を必ず再確認し、難解な部分は積極的に質問するよう心掛けていれば、内容を完璧に把握することができる。安心した気持ちで取り組んで欲しい。 |
| 【オフィスアワー】 |
| 毎週授業の前後に教室にて受けつけます。 |
| 【実務経験】 |
| なし |

| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
|-------|--------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | 専門基礎科目 |

| | |
|-----|--------------|
| 講義名 | [00502] 仏教通史 |
|-----|--------------|

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 | 講義 |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|-----------|----------------|
| 担当者 | 池上 要靖 | イケガミ ヨウセイ | ikegami yosei |
| | 金 炳坤 | キム ビョンコン | kim byung kon |
| | 木村 中一 | キムラ チュウイチ | kimura chuichi |

【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】

仏教の歴史や文化への関心を深めるために、担当教員がそれぞれの専門分野に立脚した地域仏教の講義を行う。仏教に関する教養的な知識だけでなく、その歴史・文化に対する見方を考え直すきっかけとなるようにしたい。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

本講義受講者は仏教の歴史・文化に対する基礎知識を身につけるとともに、諸問題についての理解を深めることができる。

【授業方法（フィードバックの内容）】

3人の担当教員が、地域ごとにそれぞれ5回の授業を行う。1～5回：インド仏教（池上要靖）、6～10回：中国仏教（金炳坤）、11～15回：日本仏教（木村中一）。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ担当教員の指示により、2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（40% / 事前学習や事後学習の内容が可視化されている（例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用したの質問などによる）ことが必要なので注意されたい。どのように評価するかは各教員により異なるので、最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください）、小テスト3回（60%）により総合評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

| | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | インド仏教 : ガイダンス、原始仏教 |
| 第2回 | インド仏教 : 教団の発展と分裂 |
| 第3回 | インド仏教 : 部派仏教の教理 |
| 第4回 | インド仏教 : 大乘仏教の成立 |
| 第5回 | インド仏教 : 大乘仏教の発展、まとめ、小テスト |
| 第6回 | 中国仏教 : ガイダンス、格義時代（漢・三国・晋） |
| 第7回 | 中国仏教 : 学派時代（南北朝） |
| 第8回 | 中国仏教 : 折衷時代（隋） |
| 第9回 | 中国仏教 : 宗派時代（唐） |
| 第10回 | 中国仏教 : 祖述時代（唐末已后）、まとめ、小テスト |
| 第11回 | 日本仏教 : ガイダンス、仏教伝来と日本初期仏教 |
| 第12回 | 日本仏教 : 貴族仏教と民衆信仰 |
| 第13回 | 日本仏教 : 末法思想と鎌倉仏教 |
| 第14回 | 日本仏教 : 末法思想と鎌倉仏教 |
| 第15回 | 日本仏教 : 為政者と仏教、まとめ、小テスト |

【教科書・参考書】

教科書：『インド・中国・日本仏教通史 [新版]』平川彰著（春秋社）2006年。参考書：『インド仏教史 [新版]』平川彰著（春秋社）2011年、『中国仏教要史』布施浩岳著（山喜房仏書林）1970年、『日本佛教史』田村圓澄著（法蔵館）1982-1983年。『岩波仏教辞典』中村元 [ほか] 編（岩波書店）1989年、『広説佛教語大辞典』中村元著（東京書籍）2001年、『仏教文化事典』菅沼晃 [ほか] 編集（佼成出版社）1989年。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし単位互換科目
学びの場である大学を存分に活用し、知識を増やし、感性を磨き、智慧を養うこと。

【オフィスアワー】

池上要靖：火曜日の2時限目、金曜日の4・5時限目、質問はemailでも可（ikegami(a)min.ac.jp）
金炳坤：授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。
木村中一：火曜日の4時限目、水曜日の2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp）

【実務経験】

池上要靖：保護司、宗教法人智寂坊代表役員、元教育委員

金炳坤：2007年より(社)法華弘通会(大韓民国)の奨学研究員として研究を行う。仏教学研究に対する姿勢について示教していく。

木村中一：宗教法人法養寺代表役員

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|-----------------|-----------|-------|----------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | | 専門基礎科目 |
| 講義名 | [00503] 日蓮聖人伝 | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 木村 中一 | キムラ チュウイチ | | kimura chuichi |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 日蓮聖人に関わる研究は「日蓮教学史」「日蓮教団史」の分野はもとより、昨今では「仏教学」や「日本史学」、または「仏教思想史」や「日本仏教史」など、様々な分野から深められています。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 本授業では、これら各分野の最新の研究成果をもとに「日蓮聖人の生涯」について、その「行動」と「思想」の両面から探究していきます。本授業を受講することにより、受講生は伝承に偏ることのない、史実に基づいた「日蓮聖人像」を構築します。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 日蓮聖人伝の基礎資料は、聖人が書き遺された「御遺文」になります。本授業では担当教員の長きにわたる研究成果を基とした新知見により、日蓮聖人の生涯に関する内容を再構築し、項目ごとに並べた当該「御遺文」を紹介しながら、受講者の理解度を深めていきます。加えて種々の日蓮聖人伝関連書籍を適宜提示しながら、宗学に対する基本的素養を高めていきます。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前の学修では、授業ごとに該当する御遺文の予習を行うこと。事後の学修では、授業中に提示した御遺文及び関連書籍を基として「まとめノート」の作成を行うこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 中間レポート（30%）、学力確認テスト（70%）により総合評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | |
| 第2回 | 誕生・清澄登山と出家 | | | |
| 第3回 | 諸宗遊学・立教開宗 | | | |
| 第4回 | 清澄退出・鎌倉弘通 | | | |
| 第5回 | 『立正安国論』上呈・松葉谷法難 | | | |
| 第6回 | 伊豆流罪 | | | |
| 第7回 | 小松原法難 | | | |
| 第8回 | 鎌倉での布教・蒙古の国書 | | | |
| 第9回 | 良観房忍性との対決・龍口法難 | | | |
| 第10回 | 佐渡流罪～『開目抄』執筆 | | | |
| 第11回 | 『観心本尊抄』執筆～佐渡赦免 | | | |
| 第12回 | 頼綱との対談～身延入山 | | | |
| 第13回 | 身延での生活・檀越の苦悩 | | | |
| 第14回 | 身延離山～入滅 | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 教科書：適宜、配布する。参考書：『日蓮とその弟子』宮崎英修著（毎日新聞社）1971年、『日蓮とその門弟；再版』高木豊著（弘文堂新社）1968年、『日蓮：その行動と思想；増補改訂』高木豊著（太田出版）2002年、『日蓮』中尾堯著（吉川弘文館）2001年、『日蓮と鎌倉文化』川添昭二著（平樂寺書店）2002年、『法華の行者日蓮』佐々木馨編（吉川弘文館）2004年。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 授業中に指示した各関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。そのため受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可（kimura(a)min.ac.jp） | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 宗教法人法養寺代表役員 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|----------------------------------|---------|----------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | | 専門基礎科目 |
| 講義名 | [00504] 手話入門 | | | |
| 期間 | 前期（15回） | 単位数 | 選択（1） | 種類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 望月 香代 | モチヅキ カヨ | mochizuki kayo | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 手話を学ぶとはどのようなことなのか。普段学ぶことのない言語としての手話を、自己紹介ができる程度身につけられるように演習していきます。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 人間には「コミュニケーション力」が大切だと言われています。また聴覚障害者が使う「手話」も言語であると認知されています。本授業を受講することにより、聴覚障害者を理解することにつながります。また聴覚障害者の言語である手話を覚え、手話で自己紹介が話でできるようになります。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 初級のテキストを使い手話の語彙を覚えていきます。繰り返し手話単語を練習し、自己紹介ができるように学習します。また、聴覚障害者のことを知るために教材を使用したり、聴覚障害者からの話を見る（聴く）時間も含めていきます。授業中に前回の授業で覚えた単語が身についているか、実技確認をおこないます。また、授業内容に沿ったテーマから関連の言葉について確認をしていきます。 | | | | |
| 【授業外学習の方法（時間数）】 | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習をおこなうこと。事前の学習では、授業ごとのテキスト内容を確認すること。事後の学習では、授業中に覚えた単語を復習しておくこと。また出された内容についてレポートを書いておくこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（30%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 聴覚障害者について・手話の必要性を学ぶ つたえあってみましょう！ | | | |
| 第2回 | あいさつの手話を覚えましょう | | | |
| 第3回 | 自己紹介しましょう（その1）名前を表してみましょう | | | |
| 第4回 | 自己紹介しましょう（その2）名前を表す手話と指文字を覚えましょう | | | |
| 第5回 | 自己紹介しましょう（その3）家族について話しましょう | | | |
| 第6回 | 自己紹介しましょう（その4）家族を表す手話を覚えましょう | | | |
| 第7回 | 実践（聴覚障害者と交流） | | | |
| 第8回 | 自己紹介しましょう（その5）趣味について話しましょう | | | |
| 第9回 | 自己紹介しましょう（その6）趣味を表す手話を覚えましょう | | | |
| 第10回 | 自己紹介しましょう（その7）仕事について話しましょう | | | |
| 第11回 | 自己紹介しましょう（その8）仕事を表す手話を覚えましょう | | | |
| 第12回 | 実践（聴覚障害者と交流） | | | |
| 第13回 | 自己紹介しましょう（その9）住所の手話を表してみましょう | | | |
| 第14回 | 自己紹介しましょう（その10）住所の手話を使って話しましょう | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 教科書：『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2013年、参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 初めて出会う言語である手話に、興味を持って授業に臨んで下さい。授業中に指示した内容を確認し、復習しつつ受講することが授業の理解につながります。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 水曜日：11:00～14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|-------------------|---------|--------|----------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | | | 専門基礎科目 |
| 講義名 | [00505] 手話基礎 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（1） | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 望月 香代 | モチヅキ カヨ | | mochizuki kayo | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 前期に学んだ手話とはどのようなものだったのか。言語として学んだ手話を、聴覚障害者と実践的に使えるように演習していきます。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 手話の語彙を覚えたことで、聴覚障害者に自己紹介ができたことを元に、さらにコミュニケーションを取るにはどのようにしたらよいのでしょうか。同じ社会に暮らしている聴覚障害者はどのような人達なのでしょう。本授業を受講することにより、手話で話せる内容をより実践的なものになります。また聴覚障害者について、生活面から考えられるように学びます。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| テキストをもとに、手話の語彙と手話の基礎を身につけ、学生同士が確認しながら覚えられるように学習します。また聴覚障害者に自分のことを手話で語れるように繰り返し確認していきます。聴覚障害者から生活面の話をしてもらい時間を作ります。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習をおこなうこと。事前の学習では、授業ごとのテキスト内容を確認すること。事後の学習では、授業中に覚えた単語を確認しておくこと。また出された内容についてレポートを書いておくこと。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（30%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 自己紹介のまとめ | | | | |
| 第2回 | 手話の形・基礎（その1） | | | | |
| 第3回 | 「たずねることば」を覚えましょう | | | | |
| 第4回 | 手話の形・基礎（その2） | | | | |
| 第5回 | 時間にかかわることばを覚えましょう | | | | |
| 第6回 | まとめの試験 | | | | |
| 第7回 | 実践（聴覚障害者と交流） | | | | |
| 第8回 | 手話の形・基礎（その3） | | | | |
| 第9回 | 季節にかかわることばを覚えましょう | | | | |
| 第10回 | 手話の形・基礎（その4） | | | | |
| 第11回 | 食べ物を表す手話を覚えましょう | | | | |
| 第12回 | 手話の形・基礎（その5） | | | | |
| 第13回 | いろいろな企画を考えよう | | | | |
| 第14回 | テーマに沿って、手話で表現する | | | | |
| 第15回 | 実技試験とまとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 教科書：『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2013年、参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 言語としての手話を学び、今後の自分にどう結び付けるかを考えながら、受講して下さい。授業中に指示されたこと、覚えた単語を復習する積み重ねが大切です。最終的には、聴覚障害者を知り、テーマに沿った内容を、聴覚障害者に伝えるように手話でコミュニケーションすることを目指して学んで下さい。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 水曜日：11:00～14:00と授業終了後。e-mail:kayomochi(a)min.ac.jp | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 手話通訳士資格取得し22年。その通訳経験をもとに、演習を繰り返し、聴覚障害者の背景も具体的に学べるように進めます。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
|-------|--------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | 専門基礎科目 |

| | | | | | |
|-----|-----------------|--|--|--|--|
| 講義名 | [00508] 仏教福祉学概論 | | | | |
|-----|-----------------|--|--|--|--|

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|-----------|---------------|
| 担当者 | 池上 要靖 | イケガミ ヨウセイ | ikegami yosei |
|-----|-------|-----------|---------------|

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

仏教と社会福祉の関係を、仏教発祥の地インドから概観して、現代の社会福祉の問題点を、仏教的活動からどのように理解できるかを考察する。また、仏教は、自己と他者との関係について、特に優れた思想を有している。この思想を社会福祉学の観点から捉えなおし、現代的エートスに置き換えることが可能かどうかを考察する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

本学の教育の三本柱の一つである社会貢献を実現してゆくために、現代の福祉社会に有益な思想体系として再構築されたものを仏教福祉学と位置づけて、その概要を把握することを目的とする。そのため、仏教思想に裏付けられた福祉ワークの重要性を理解し、現代の社会福祉へどのようなアプローチが可能かについて、立案し自ら主体的に考えられるようになることを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキストにそって、プロジェクターなどを用いて、解説を加える講義形式である。必要な資料は、予め本学HP上にあるファイルキャビネットに収納してあるので、そこからダウンロードすること。講義中には、専門用語に関する質問や、課題を出すので、検索用使用するタブレットは必携である。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修について：第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容をテキストページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。約2時間を要する。事後学修について：講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学修などに約2時間を要する。

【成績評価（方法・基準）】

最終確認テスト50%、授業中の取り組み30%、中間レポート10%、ノート提出10%。授業中の取り組みの基準は、テキストの当該箇所の理解と、質問、授業中の積極的な姿勢により判断する。中間レポートの内容は、テキスト・資料の理解が深まっているかを判断する。ノート提出は、事前事後の学修成果も含んだ講義内容についてまとめたものを、最終回の講義終了1週間以内に提出してもらう。

【授業計画（各回の授業内容）】

| | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション - 授業の進め方とテキストと資料の紹介 - |
| 第2回 | 仏教社会福祉とは何か？(テキストpp.9-31) |
| 第3回 | 仏陀の教え - 自己と他者、四無量心、四正勤、福田思想 - (テキストpp.109-118) |
| 第4回 | 大乘仏教の思想と社会福祉 - 菩薩、縁起、回向、平等、報恩、救済 - (テキストpp.109-118) |
| 第5回 | 仏教社会福祉のあゆみ(1) - 先人の偉業 - (テキストpp.35-43) |
| 第6回 | 仏教社会福祉のあゆみ(2) - 近代～戦後 - (テキストpp.44-64) |
| 第7回 | 仏教社会福祉の支援(1) - 生活弱者支援 - (テキストpp.67 73、101-106) |
| 第8回 | 仏教社会福祉の支援(2) - 高齢者支援 - (テキストpp.80-88、130-137) |
| 第9回 | 仏教社会福祉の支援(3) - 子育て支援 - (テキスト pp.74-79、140-148) |
| 第10回 | 仏教社会福祉の支援(4) - 地域福祉 - (テキストpp.95-100) |
| 第11回 | 仏教社会福祉の支援(5) - 看取りのケア - (テキストpp.89-94) |
| 第12回 | 仏教社会福祉の支援(6) - 司法福祉 - (テキストpp.159-169) |
| 第13回 | 仏教社会福祉の支援(7) - 障害者福祉 - (テキストpp.149-158) |
| 第14回 | 仏教社会福祉の有効性(テキストpp.119 128、170-189) |
| 第15回 | まとめと評価 |

【教科書・参考書】

教科書：『仏教社会福祉入門』日本仏教社会福祉学会編（法蔵館）。辞書では、『仏教社会福祉辞典』仏教社会福祉学会編(法蔵館)が唯一である。参考書は、『吉田久一著作集』全7巻(川島書店)、『佛教福祉研究』水谷正行先生古希記念会編(思文閣出版)、『仏教福祉の思想と展開に関する研究』清水海隆著(大東出版社)、『佛教と福祉の研究』龍谷大学短期大学部編(永田文昌堂)、『仏教社会福祉論考』中垣昌実著(法蔵館)、仏教とビハール運動』田代俊孝著(法蔵館)、季刊『佛教』第51号 - 介護と佛教福祉 -、など多数あるので詳細はオリエンテーション時に紹介する。

【学生へのメッセージ】

大学コンソーシアムやまなし単位互換科目
2年次以降の受講を希望する。ある程度専門的な用語の理解ができなければ、授業の進展についてくるのが困難であると考えられる。ゆえに、法学、日本国憲法、仏教学入門、倫理学、日蓮学入門の各科目の単位取得後の履修が望ましい。そして欠席しないこと、特に福祉に携わる人の基本は他者の言葉を傾聴できるかどうかにある。

【オフィスアワー】

火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可 (ikegami(a)min.ac.jp)。

【実務経験】

宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | |
|---|--------------------------|-----|----------|--------|------------------|---------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | | | 専門基礎科目 | |
| 講義名 | [00509] デス・エデュケーション | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 選 択（2） | | 種 類 講 義 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | | |
| 担当者 | 村瀬 正光 | | ムラセ マサミツ | | murase masamitsu | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | |
| 現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例と一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。 | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | |
| 生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。 | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | |
| 授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。 | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。 | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | |
| 講義毎のレポート100% | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など） | | | | | |
| 第2回 | 宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に） | | | | | |
| 第3回 | 倫理学（自由主義の原則） | | | | | |
| 第4回 | 生殖医療の現状 1 | | | | | |
| 第5回 | 生殖医療の現状 2 | | | | | |
| 第6回 | 終末期医療の現状 1 | | | | | |
| 第7回 | 終末期医療の現状 2 | | | | | |
| 第8回 | 臨死体験のワーク | | | | | |
| 第9回 | 日蓮聖人の終末期 | | | | | |
| 第10回 | 精神疾患について（自死、自殺） | | | | | |
| 第11回 | グリーンワーク | | | | | |
| 第12回 | 傾聴 | | | | | |
| 第13回 | 終活、事前指示 | | | | | |
| 第14回 | 医療現場における宗教者 | | | | | |
| 第15回 | ビハラーについて（長岡西病院ビハラー病棟） | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | |
| 授業中に適宜、資料を配付する。参考図書：『宗教学』岸本英夫著・原書房、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著・講談社現代新書、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著・中公文庫、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著・NHK出版、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著・青海社、『病院で死ぬということ』山崎章郎著・文春文庫 | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | |
| 積極的に授業に参加することを望む。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | |
| 授業の前後に教室にて対応します。 | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | |
| 腎臓内科医 | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|--|--------------------|----|-----------|-------|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | | | 専門基礎科目 |
| 講義名 | [00510] 総合仏教 | | | | |
| 期間 | 通年（1回） | | 単位数 | 必修（2） | 種類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 学務委員長 | | | | |
| | 池上 要靖 | | イケガミ ヨウセイ | | ikegami yosei |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座を聴講し、その意味するところをレポートし、資質向上に供するのである。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| この授業では、身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質向上と、社会貢献できる人材となることを目的とする。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の聴講を出席し、レポートを作成、提出することが課せられる。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 三大会などは、その意義を事前によく学習すること（120分以上）。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学習に120分以上、その後のレポート作成に120分以上が必要である。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 上記の評価の方法及び基準に従うこと。 | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 特になし。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もらさずに聴講すること。 年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日4時限目、金曜日4・5時限目。質問はメールでも可（ikegami(a)min.ac.jp）。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 宗教法人智寂坊代表役員 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|--------------------------|----------|-------------|--------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | | 専門基礎科目 |
| 講義名 | [00511] 日蓮学入門 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 桑名 法晃 | クワナ ホウコウ | kuwana hoko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 日蓮聖人の教えを学んでいくにあたって、その目的・態度・方法について解説し、日蓮聖人の生涯に即しながら、教義の根幹となる五義や三大秘法などの基本的事項について概説します。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 日蓮聖人の教学を修得するために、学修にあたっての基礎を身につけ、根幹となる事項を体系的に理解し、自分の言葉で説明できるようにすることを本授業の目標とします。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 日蓮聖人の生涯と教えについて講義によって授業を進めるが、ICTを積極的に活用し受講生の理解に資するようにする。また、小テストを行い、受講生の理解度を確認しながら進めていくとともに、授業中に口頭でたくさん質問をし、ディスカッションを行い、各自の考えを積極的に発言してもらいます。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学修は、シラバスに則して日蓮聖人の生涯、法華経、日蓮聖人の教学の内容などに目を通しておくこと。事後学修はノートでの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。各120分の学修が必要となります。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 小テスト20%、定期試験80%で総合的に評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 講義ガイダンス 日蓮学とは何か、宗学とは何か | | | |
| 第2回 | 日蓮聖人の教えを学ぶにあたって（1） 宗学の目的 | | | |
| 第3回 | 日蓮聖人の教えを学ぶにあたって（2） 学修の態度 | | | |
| 第4回 | 日蓮聖人の教えを学ぶにあたって（3） 学修の方法 | | | |
| 第5回 | 日蓮聖人の生涯（1） | | | |
| 第6回 | 日蓮聖人の生涯（2） | | | |
| 第7回 | 法華経の思想 法華一乗 | | | |
| 第8回 | 五義 | | | |
| 第9回 | 信行 如説修行 | | | |
| 第10回 | 開目抄（人開頭）・観心本尊抄（法開頭） | | | |
| 第11回 | 三大秘法（1） | | | |
| 第12回 | 三大秘法（2） | | | |
| 第13回 | 三大秘法（3） | | | |
| 第14回 | 願業 立正安国・常寂光土の実現 | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 教科書：『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年。参考書：『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編（日蓮宗新聞社）1989年、『増補改訂 日蓮その行動と思想』高木豊（太田出版）2002年など。授業中に適宜参考書を紹介していきます。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 大学コンソーシアムやまなし単位互換科目 授業中は板書をたくさんするので、自分なりにまとめて、わかりやすいノートを作成すること。漢字の難しい言葉・専門用語が沢山出てきます。授業内で理解できない場合は、必ず図書館などで調べなおすことが必要です。自分の「腑に落ちる」まで調べましょう。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日1時限目と木曜日4時限目 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | | |
|--|------------------------------------|-------|-----------|---------------------|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | 専門基礎科目 | | |
| 講義名 | [00512] 社会福祉概論 法定科目 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | |
| 担当者 | 高橋 賢充 | | タカハシ マサミツ | takahashi masamitsu | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解する。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 相談援助活動の背景について理解する。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 試験（50％）、レポート・リアクションペーパー（30％）、学習態度（20％）などを総合的に評価。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 現代社会における福祉制度と福祉政策 (1)福祉制度の概念と理念 | | | | |
| 第2回 | (2)福祉政策の概念と理念 | | | | |
| 第3回 | (3)福祉制度と福祉政策の関係 | | | | |
| 第4回 | (4)社会と生活のしくみ | | | | |
| 第5回 | 福祉制度の発達過程 (1)前近代社会と福祉 | | | | |
| 第6回 | (2)戦後の社会福祉 | | | | |
| 第7回 | (3)社会福祉基礎構造改革と社会福祉の変遷 | | | | |
| 第8回 | (4)地域包括ケアシステムと地域共生社会 | | | | |
| 第9回 | 福祉政策におけるニーズと資源 (1)需要とニーズの概念 | | | | |
| 第10回 | (2)資源の概念 | | | | |
| 第11回 | (3)資源の概念 | | | | |
| 第12回 | (1)福祉政策と社会問題 | | | | |
| 第13回 | (2)福祉政策と社会問題 | | | | |
| 第14回 | (3)福祉政策の現代的課 | | | | |
| 第15回 | (4)福祉政策の課題と国際動向 | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 中央法規出版 社会福祉士養成講座 「現代社会と福祉」第4版。授業中に適宜プリントを配布する。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日 1 限目と水曜日 2 限目。e-mail : ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|---------------------------------|----|-----------|-------|---------------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 専門基礎科目 | | | | 専門基礎科目 | | |
| 講義名 | [00513] 社会福祉概論 法定科目 | | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 選択（2） | | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | | | |
| 担当者 | 高橋 賢充 | | タカハシ マサミツ | | takahashi masamitsu | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について理解する。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学習する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| 事前課題：毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題：授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| 試験（50％）、レポート・リアクションペーパー（30％）、学習態度（20％）を総合的に評価。 | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | 福祉政策の構成要素 (1)福祉政策の論点 | | | | | | |
| 第2回 | (2)福祉政策の論点 | | | | | | |
| 第3回 | (3)福祉政策の論点 | | | | | | |
| 第4回 | 福祉政策における政府の役割 | | | | | | |
| 第5回 | 福祉政策における市場の役割 | | | | | | |
| 第6回 | 福祉政策における国民の役割 | | | | | | |
| 第7回 | 福祉供給部門 (1)政府部門、民間部門 | | | | | | |
| 第8回 | (2)ボランティア部門、インフォーマル部門、その他 | | | | | | |
| 第9回 | 福祉供給過程 | | | | | | |
| 第10回 | 福祉利用過程 (1)スティグマ、情報の非対称性 | | | | | | |
| 第11回 | (2)受給資格とシティズンシップ、その他 | | | | | | |
| 第12回 | 福祉政策と関連政策 (1)福祉政策と教育政策 | | | | | | |
| 第13回 | (2)福祉政策と住宅政策 | | | | | | |
| 第14回 | (3)福祉政策と労働政策 | | | | | | |
| 第15回 | 相談援助活動と福祉政策の関係 - 福祉供給の政策過程と実施過程 | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 『新・社会福祉士養成講座1 現代社会と福祉（第4版）』福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規出版 2015年。資料は適宜配布する。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。社会福祉概論 は社会福祉概論 の学びが基礎となる。社会福祉概論 を修了してから受講することが望しい。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日1限目と水曜日2限目。e-mail：ttaka@min.ac.jp、メール等で予約してください。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 社会福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での実務 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | |
|---|-------------------------------|-------|-----------|--------------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | 教職課程 | |
| 講義名 | [05102] 社会福祉体験実習研究【平成30年度生まで】 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- |
| 担当者 | 建守 善之 | | タテモリ ヨシユキ | tatemori yoshiyuki |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 社会福祉とはどのような学問なのか、「福祉」をテーマに制度と支援技術などを学び、これからの福祉問題にも触れ専門知識と援助技術を取得する。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 社会福祉体験実習に臨む際の基本的な知識・技術及び留意事項を学ぶ。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義、実技演習、グループワーク | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 毎回のリアクションペーパー（10%）、授業で出される課題（10%）、レポート（30%）、学力確認テスト（50%） | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | | |
| 第2回 | 社会福祉、障害児教育の基本理念 | | | |
| 第3回 | 視覚障害、聴覚障害、言語障害 | | | |
| 第4回 | 運動障害、知的障害、病弱・虚弱 | | | |
| 第5回 | ダウン症、てんかん、その他の障害 | | | |
| 第6回 | 盲・聾・支援学校の教育 | | | |
| 第7回 | 社会福祉施設の定義、種類 | | | |
| 第8回 | 福祉サービスの種類 | | | |
| 第9回 | 高齢者にかかわる施設 | | | |
| 第10回 | グループワーク | | | |
| 第11回 | 児童福祉・障害児にかかわる施設 | | | |
| 第12回 | グループワーク | | | |
| 第13回 | 介護実技 | | | |
| 第14回 | 介護実技 | | | |
| 第15回 | 総括・実習事前説明 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 授業中に指定します。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 社会福祉体験実習につながる大切な講義です。集中して受講してください。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日 14:00から17:00、水曜日 14:00から15:30 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 社会福祉体験実習に向けて、模擬授業を行い、社会人として必要な知識を学ぶ。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|--|----|---------|-------|---------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 | | |
| 講義名 | [05201] 社会教育計画 【平成31年度生まで】 | | | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | | 単 位 数 | 必修（2） | | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 栗田 真司 | | クリタ シンジ | | kurita shinji | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 我が国における社会教育の経緯、方法、内容について学びます。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| 授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。 | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション (授業の概要説明) | | | | | | |
| 第2回 | 生涯学習推進行政と社会教育行政 | | | | | | |
| 第3回 | 社会教育の意義と内容 | | | | | | |
| 第4回 | 社会教育の方法・形態 | | | | | | |
| 第5回 | 公民館とは | | | | | | |
| 第6回 | 図書館とは | | | | | | |
| 第7回 | 博物館とは | | | | | | |
| 第8回 | コミュニケーション・スキル | | | | | | |
| 第9回 | ワークショップの技法 | | | | | | |
| 第10回 | 集団思考法、組織心理学 | | | | | | |
| 第11回 | コーディネーター、ファシリテーター、アドミニストレーター、インタープリター、アドバイザー、アセッサー | | | | | | |
| 第12回 | プランニング | | | | | | |
| 第13回 | プレゼンテーション | | | | | | |
| 第14回 | ワークショップの計画 | | | | | | |
| 第15回 | ワークショップの実際 | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 講義の中で適宜紹介します。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|-----------------------------|----|---------|-------|---------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 | | |
| 講義名 | [05202] 社会教育計画 【平成31年度生まで】 | | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単位数 | 必修（2） | | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 栗田 真司 | | クリタ シンジ | | kurita shinji | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 社会教育の催しを実際に計画するに際し、考慮すべき事柄や方法論について概説します。特にコミュニケーション心理学に基づく集団思考法やワークショップの技法について実践的に検討します。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| 授業中の小テストや課題など60%、学期末の試験40% | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | 社会教育の方法 | | | | | | |
| 第2回 | 社会教育と学校教育の関係 | | | | | | |
| 第3回 | アメリカとヨーロッパと日本の社会教育財政事情 | | | | | | |
| 第4回 | 学習成果の活用方法・評価方法 | | | | | | |
| 第5回 | 教育普及活動 | | | | | | |
| 第6回 | アドミニストレーター、インタープリター、ファシリテータ | | | | | | |
| 第7回 | ワークシートの要点 | | | | | | |
| 第8回 | NPOの役割 アソシアシオン法 | | | | | | |
| 第9回 | 市民と行政のパートナーシップ、PFI、PPP | | | | | | |
| 第10回 | アウトリーチの歴史と方法 | | | | | | |
| 第11回 | ハンズ・オンとプリーズタッチ | | | | | | |
| 第12回 | リピーターへの視点 | | | | | | |
| 第13回 | ボランティアの養成 | | | | | | |
| 第14回 | 指定管理者制度 | | | | | | |
| 第15回 | 総括 | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 講義の中で適宜紹介します。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 社会教育計画1を履修済みであることが望ましい。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico@olive.ocn.ne.jpにお願いします。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|--|----|---------|-------|--------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 |
| 講義名 | [05203] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05211令和2年度生より】 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 田沼 朗 | | タヌマ アキラ | | tanuma akira |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 生涯学習の広がりの中での社会教育活動の歴史と現状を、主として地域、自治体における施設・事業・団体・グループとの係わりで検討していく。場合によっては、テーマを絞って共同学習することもある。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて、学習し発表・討論する力を身につけることを目標とする。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30% | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション。社会教育の意義 | | | | |
| 第2回 | 成人の学習の国際的展開 | | | | |
| 第3回 | 日本における社会教育活動の展開（1） | | | | |
| 第4回 | 日本における社会教育活動の展開（2） | | | | |
| 第5回 | 生涯教育と生涯学習 | | | | |
| 第6回 | 地域づくり・まちづくり実践から（1）東京・谷中 | | | | |
| 第7回 | 地域づくり・まちづくり実践から（2）大分・湯布院 | | | | |
| 第8回 | 地域づくり・まちづくり実践から（3）沖縄・伊江島 | | | | |
| 第9回 | 地域づくり・まちづくり実践から（4）福島・三春 | | | | |
| 第10回 | 地域づくり・まちづくり実践から（5）新潟・聖籠 | | | | |
| 第11回 | 地域づくり・まちづくり実践から（6）東京・国立 | | | | |
| 第12回 | 地域づくり・まちづくり実践から（7）合併しない町・村サミット | | | | |
| 第13回 | 地域づくり・まちづくり実践から（8）沖縄・名護 | | | | |
| 第14回 | 地域づくり・まちづくり実践から（9）森は海の恋人 | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房） | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| なし | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|--|----|---------|-------|--------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 | | |
| 講義名 | [05204] 社会教育課題研究 【平成31年度生まで / 05212令和2年度生より】 | | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 必修（2） | | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 田沼 朗 | | タヌマ アキラ | | tanuma akira | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 「社会教育課題研究」と連続している。社会教育に関する今日的課題を取り上げ、実際の取り組みを学習し検討することを目的とする。参加者の課題意識が一致すれば、テーマを絞って共同学習することもある。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 社会教育活動の現状を理解し、各自が主体的にテーマを決めて学習し、発表・討論する力を身につけることを目標とする。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 講義形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。場合によっては、学生諸君に報告をお願いする。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| 事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。 事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| レポートを含む期末試験70%、授業への取り組み姿勢30% | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | 現代青年の文化活動（1） | | | | | | |
| 第2回 | 現代青年の文化活動（2） | | | | | | |
| 第3回 | 平和・軍縮学習と平和文化の創造（1） | | | | | | |
| 第4回 | 平和・軍縮学習と平和文化の創造（2） | | | | | | |
| 第5回 | 子育て・文化協同（1） | | | | | | |
| 第6回 | 子育て・文化協同（2） | | | | | | |
| 第7回 | 環境問題に取り組む市民（1） | | | | | | |
| 第8回 | 環境問題に取り組む市民（2） | | | | | | |
| 第9回 | 人権学習（1） | | | | | | |
| 第10回 | 人権学習（2） | | | | | | |
| 第11回 | ボランティア活動（1） | | | | | | |
| 第12回 | ボランティア活動（2） | | | | | | |
| 第13回 | 青年の自立支援（1） | | | | | | |
| 第14回 | 青年の自立支援（2） | | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光『国際教育の研究』桐書房 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|--------------------------------------|----|---------|-------|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 |
| 講義名 | [05207] 社会教育経営論 【令和2年度生より】 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | | 単位数 | 必修（2） | |
| 種類 | 講義 | | | | |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 栗田 真司 | | クリタ シンジ | | kurita shinji |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説する。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得する。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」 | | | | |
| 第2回 | 教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力） | | | | |
| 第3回 | 社会教育計画の計画体系と評価体系 | | | | |
| 第4回 | 社会教育計画の具体的な学習展開計画案 | | | | |
| 第5回 | 社会教育計画の実例の検討 | | | | |
| 第6回 | 社会教育関連施設のネットワーク化 | | | | |
| 第7回 | 人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、テーマ別グループ、人材バンク） | | | | |
| 第8回 | コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど） | | | | |
| 第9回 | 社会教育調査とデータの活用 | | | | |
| 第10回 | 学習成果を発表する場づくり | | | | |
| 第11回 | 子ども読書活動推進計画 | | | | |
| 第12回 | 芸術文化振興に関する計画 | | | | |
| 第13回 | スポーツ振興に関する計画 | | | | |
| 第14回 | 家庭の教育力向上の支援、親力向上推進計画 | | | | |
| 第15回 | 総括 振り返りとシェアリング | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 講義の中で適宜紹介します。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| なし | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|----------------------------|----|---------|-------|---------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 |
| 講義名 | [05208] 社会教育経営論 【令和2年度生より】 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 栗田 真司 | | クリタ シンジ | | kurita shinji |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を習得し、発表します。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。 | | | | | |
| 【授業外学習の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うことを望みます。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 授業中の小テストや課題など60%、学期末の発表40%により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | まちづくり・地域活性化策としての社会教育 | | | | |
| 第2回 | 社会教育と住民参加 | | | | |
| 第3回 | 社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割 | | | | |
| 第4回 | 地域フィールドワークによる学習課題の抽出 | | | | |
| 第5回 | 学習成果の公開と評価 | | | | |
| 第6回 | ヨコのネットワークとタテのネットワーク | | | | |
| 第7回 | 青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成 | | | | |
| 第8回 | 障害者とともに学ぶ仕組み | | | | |
| 第9回 | 事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市 | | | | |
| 第10回 | 事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村 | | | | |
| 第11回 | 事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市 | | | | |
| 第12回 | 事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町 | | | | |
| 第13回 | 事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市 | | | | |
| 第14回 | 成果発表 | | | | |
| 第15回 | 総括 振り返りとシェアリング | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 講義の中で適宜紹介します。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。社会教育経営論1を履修済みであることが望ましい。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 毎週授業の前後に教室にて受け付けます。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| なし | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|--|----------------------------|----|---------|-------|--------------|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 |
| 講義名 | [05209] 社会教育課題研究【令和2年度生より】 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | | 単 位 数 | 必修（2） | |
| 種類 | 講義 | | | | |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 田沼 朗 | | タヌマ アキラ | | tanuma akira |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。この授業では、地域住民が主体的に学ぶ社会教育活動の課題について、主として地域づくり、まちづくりに関する実践例を取り上げて、相互に検討していきたい。授業の性格上、参加者が主体的にテーマを決めて参加してほしい。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 社会教育制度及びその理念、社会教育施設の役割、職員の任務を理解する。社会教育活動が直面する所課題について、理解する。参加者が主体的にテーマを決め、学習し発表・討論する力を身につける。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 講義・演習の併用方式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君にも報告をお願いする。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前学修 120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修 120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30% | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | |
| 第2回 | 社会教育の理念と制度 | | | | |
| 第3回 | ユネスコ学習権宣言とその展開 | | | | |
| 第4回 | 戦後日本社会の変容と社会教育の課題 | | | | |
| 第5回 | 地域開発、公害問題 | | | | |
| 第6回 | 森林保護と漁業の発展 | | | | |
| 第7回 | 原子力発電をめぐる諸問題 | | | | |
| 第8回 | 少子高齢化、過疎化とまちづくり | | | | |
| 第9回 | 日本社会の格差と貧困 | | | | |
| 第10回 | 子ども食堂 | | | | |
| 第11回 | 義務教育費の無償化とまちづくり | | | | |
| 第12回 | 性的マイノリティの人権 | | | | |
| 第13回 | 地域づくり実地調査...柴又、谷中、根津、千駄木 | | | | |
| 第14回 | 社会的ひきこもり者支援 | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 参考書 佐藤一子『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房） | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| なし | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|--------------------------|----|---------|-------|--------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 資格取得科目 | | | | 社会教育主事資格取得課程 | | |
| 講義名 | [05210] 社会教育演習【令和2年度生より】 | | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 必修（1） | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 田沼 朗 | | タヌマ アキラ | | tanuma akira | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 社会教育主事としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。地域住民が主体的に学ぶ拠点である社会教育施設の具体的役割について、実践的に学ぶことを目的とします。身延町をはじめ山梨、長野、東京各地の公民館活動、住民が企画する学びの実態について具体的事例を通して学びます。必要に応じて、文献研究、実地調査も行います。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 地域における人々の学びの拠点である社会教育施設の機能、学習支援者としての職員の枠割を理解する。学習講座企画と省察を通して、社会教育支援者としての実践的力をつける。グループ活動を通して、仲間と共に探求、実践し、地域社会を形成する力をつける。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 演習形式で行う。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君に発表をお願いする。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| 事前学修120分 指示されたテキストや資料をあらかじめ読んでおく。事後学修120分 テキストや資料を読み直し、ノートにまとめる。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| 発表を含む期末レポート70%、授業への取り組み姿勢30% | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | | | |
| 第2回 | 学びの拠点としての社会教育施設 | | | | | | |
| 第3回 | 学習支援者としての社会教育主事の専門性 | | | | | | |
| 第4回 | 身延町の社会教育施設（公民館） | | | | | | |
| 第5回 | 身延町の社会教育施設(中富和紙の里) | | | | | | |
| 第6回 | 身延町の社会教育施設（金山博物館） | | | | | | |
| 第7回 | 参加者からの講座企画案の検討（1） | | | | | | |
| 第8回 | 参加者からの講座企画案の検討（2） | | | | | | |
| 第9回 | 環境問題の講座企画事例 | | | | | | |
| 第10回 | 平和教育の講座企画事例 | | | | | | |
| 第11回 | 社会の格差と貧困についての講座企画事例 | | | | | | |
| 第12回 | 家族支援についての講座企画事例 | | | | | | |
| 第13回 | 文化活動についての講座企画事例 | | | | | | |
| 第14回 | 地域の過疎化対策についての講座企画事例 | | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 参考書 佐藤一子 『生涯学習と社会参加』（東京大学出版会）、太田政男 『人を結う』（ふきのとう書房）、太田政男 『まちづくりは面白い』（ふきのとう書房）、金子郁容 『ボランティア』（岩波新書）、井上ひさし・樋口陽一 『「日本国憲法」を読み直す』（講談社）、深山正光 『国際教育の研究』 桐書房 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。授業の性格上、学生諸君の積極的参加を期待する。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|--|----|----------|--------|---------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09005] 文法 (Grammar) | | | | | | |
| 期 間 | 前期 (15回) | | 単 位 数 | 選択 (1) | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 金 炳坤 | | キム ビョンコン | | kim byung kon | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験 (JLPT) N2のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| 毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | | | |
| 第2回 | 1課：～とき・～直後に、2課：～している (進行中) | | | | | | |
| 第3回 | 3課：～後で、4課：範囲の始まりと終わり・その間 | | | | | | |
| 第4回 | 5課：～だけ、6課：～だけではなく・それに加えて | | | | | | |
| 第5回 | 7課：～について・～を相手にして、8課：～を基準にして | | | | | | |
| 第6回 | 9課：～に関連して・～に対応して、10課：～や～など | | | | | | |
| 第7回 | 11課：～に関係なく・無視して、12課：強く否定する・強く否定しない | | | | | | |
| 第8回 | 13課：～ (話題) は、14課：～けれど | | | | | | |
| 第9回 | 15課：もしそうなら・たとえそうでも、16課：～だから (理由) | | | | | | |
| 第10回 | 17課：～だから (理由) 、18課：～できない・困難だ・～できる | | | | | | |
| 第11回 | 19課：～を見て評価すると・～の立場で評価すると、20課：結果はどうなったか | | | | | | |
| 第12回 | 21課：強く言う・軽く言う、22課：～だろうと思う | | | | | | |
| 第13回 | 23課：感想を言う・主張する、24課：提案する・意志を表す | | | | | | |
| 第14回 | 25課：強くそう感じる・思いが強いられる、26課：願う・感動する | | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N2』友松悦子他著 (スリーイーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N2 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 [https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html] | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 同時通訳・翻訳業務の実績あり | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|--|----|----------|---------|---------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09006] 文法 (Grammar) | | | | | | |
| 期 間 | 後期 (15回) | | 単 位 数 | 選 択 (1) | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 金 炳坤 | | キム ビョンコン | | kim byung kon | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| 毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | 第2部1課：文の組み立て ; 決まった形 | | | | | | |
| 第2回 | 第2部2課：同上 ; 名詞を説明する形式 | | | | | | |
| 第3回 | 第2部3課：同上 ; 接続に注意 | | | | | | |
| 第4回 | 第3部1課：時制 | | | | | | |
| 第5回 | 第3部2課：条件を表す文 | | | | | | |
| 第6回 | 第3部3課：視点を動かさない手段 ; 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け | | | | | | |
| 第7回 | 第3部4課：同上 ; 「～てくる・～ていく」の使い分け | | | | | | |
| 第8回 | 第3部5課：同上 ; 受身・使役・使役受身の使い分け | | | | | | |
| 第9回 | 第3部6課：同上 ; 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け | | | | | | |
| 第10回 | 第3部7課：指示表現「こ・そ・あ」の使い分け | | | | | | |
| 第11回 | 第3部8課：「は・が」の使い分け | | | | | | |
| 第12回 | 第3部9課：接続表現 | | | | | | |
| 第13回 | 第3部10課：省略・繰り返し・言い換え | | | | | | |
| 第14回 | 第3部11課：文体の一貫性 | | | | | | |
| 第15回 | 第3部12課：話の流れを考える | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書：『日本語能力試験公式問題集：公式問題集；N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 今年の日本語能力試験の実施日は、第1回：7月5日 (日)、第2回：12月6日 (日) です。 〔 https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html 〕 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 同時通訳・翻訳業務の実績あり | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|----------------------------------|-----|----------|---------|---------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09007] 文法 (Grammar) | | | | | | |
| 期 間 | 前期 (15回) | | 単 位 数 | 選 択 (1) | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | | | |
| 担当者 | 金 炳坤 | | キム ビョンコン | | kim byung kon | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験 (JLPT) N1のレベル認定を目指します。交換留学生と一般留学生が対象になります。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 教科書に沿って進めていきます。毎回小テスト (成績評価の対象) を行いますので、予習・復習に励んでください。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| 毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢 (30%)、小テスト (30%)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | | | |
| 第2回 | 1 課 : 時間関係、2 課 : 範囲の始まり・限度 | | | | | | |
| 第3回 | 3 課 : 限定・非限定・付加、4 課 : 例示 | | | | | | |
| 第4回 | 5 課 : 関連・無関係、6 課 : 様子 | | | | | | |
| 第5回 | 7 課 : 付随行動、8 課 : 逆接 | | | | | | |
| 第6回 | 9 課 : 条件、10 課 : 逆接条件 | | | | | | |
| 第7回 | 11 課 : 目的・手段、12 課 : 原因・理由 | | | | | | |
| 第8回 | 13 課 : 可能・不可能・禁止、14 課 : 話題・評価の基準 | | | | | | |
| 第9回 | 15 課 : 比較対照、16 課 : 結末・最終の状態 | | | | | | |
| 第10回 | 17 課 : 強調、18 課 : 主張・断定 | | | | | | |
| 第11回 | 19 課 : 評価・感想、20 課 : 心情・強制的思い | | | | | | |
| 第12回 | 模擬試験 | | | | | | |
| 第13回 | 模擬試験 | | | | | | |
| 第14回 | 模擬試験 | | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書 : 『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著 (スリーエーネットワーク) 2011年。参考書 : 『日本語能力試験公式問題集 : 公式問題集 ; N1 (第二集)』国際交流基金他編集 (凡人社) 2018年。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 今年の日本語能力試験の実施日は、第1回 : 7月5日 (日)、第2回 : 12月6日 (日) です。 [https://www.jlpt.jp/application/domestic_index.html] | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 授業の前後、火曜日の1時限目、木曜日の4時限目に対応します。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 同時通訳・翻訳業務の実績あり | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|--------------------------|----|-----------|--------|----------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09011] 作文 (Composition) | | | | | | |
| 期 間 | 前期 (15回) | | 単 位 数 | 選択 (1) | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 木村 中一 | | キムラ チュウイチ | | kimura chuichi | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 授業への参加姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70% | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | | | | | |
| 第2回 | 代名詞の使い方 1 | | | | | | |
| 第3回 | 代名詞の使い方 2 | | | | | | |
| 第4回 | 代名詞の使い方 3 まとめ | | | | | | |
| 第5回 | 接続詞の使い方 1 | | | | | | |
| 第6回 | 接続詞の使い方 2 | | | | | | |
| 第7回 | 接続詞の使い方 3 まとめ | | | | | | |
| 第8回 | モノの表現法 相違点と相似点 1 | | | | | | |
| 第9回 | モノの表現法 相違点と相似点 2 | | | | | | |
| 第10回 | モノの表現法 相違点と相似点 3 | | | | | | |
| 第11回 | 意見を述べる 1 | | | | | | |
| 第12回 | 意見を述べる 2 | | | | | | |
| 第13回 | 意見を述べる 3 | | | | | | |
| 第14回 | 課題作文 (原稿用紙を使用) | | | | | | |
| 第15回 | 課題作文 (レポート用紙を使用) | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp) | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 宗教法人法養寺代表役員 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|--------------------------|----|-----------|--------|----------------|----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09012] 作文 (Composition) | | | | | | |
| 期間 | 後期 (15回) | | 単位数 | 選択 (1) | | 種類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 木村 中一 | | キムラ チュウイチ | | kimura chuichi | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 本講義において日本語の基礎的文法表現をみていく。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 本講義受講によって、自らの意見を作文として表現することができるようになる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 読む事から書く事へ。文章作成の基礎を学ぶ。日本語科目にて習得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 講義への取り組み姿勢20%、質疑応答10%、課題作文70% | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション 日本語能力試験にむけて | | | | | | |
| 第2回 | まぎらわしい表現 1 | | | | | | |
| 第3回 | まぎらわしい表現 2 | | | | | | |
| 第4回 | まぎらわしい表現 3 | | | | | | |
| 第5回 | 使用されている間違った日本語表現 接続詞 | | | | | | |
| 第6回 | 使用されている間違った日本語表現 否定 | | | | | | |
| 第7回 | 使用されている間違った日本語表現 敬語 | | | | | | |
| 第8回 | 使用されている間違った日本語表現 代名詞 | | | | | | |
| 第9回 | 使用されている間違った日本語表現 口語表現 | | | | | | |
| 第10回 | 中間報告 レポート作成 | | | | | | |
| 第11回 | 討論 その1 | | | | | | |
| 第12回 | 討論 その2 | | | | | | |
| 第13回 | 討論 その3 | | | | | | |
| 第14回 | 課題・報告書作成 | | | | | | |
| 第15回 | 課題・報告書作成 | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法 (改訂版)』 (第三書房)、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』 (スリーエーネットワーク)。参考書：適宜指示する。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 語学は弛まない積み重ねでやっと力になります。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組んでください。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はemailでも可 (kimura(a)min.ac.jp) | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 宗教法人法養寺代表役員 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|--------------------------------------|----|---------|--------|---------------|----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09013] 聴解 (Listening Comprehension) | | | | | | |
| 期間 | 前期 (15回) | | 単位数 | 選択 (1) | | 種類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 手塚 知子 | | テヅカ トモコ | | tezuka tomoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 日本人の会話レベルの聴解ができるよう、さまざまな状況下の「会話」や近年の「時事」について、テキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等についても取り上げ、幅広く内容理解ができるようにする。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| この授業では、受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力検定試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。基礎的な聴き取りから複合的な内容まで含め、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をすることで、実践的な日本語の理解・習得を図る。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション 簡単な聞き取り | | | | | | |
| 第2回 | 会話 (その1) | | | | | | |
| 第3回 | 会話 (その2) | | | | | | |
| 第4回 | 会話 (その3) | | | | | | |
| 第5回 | 会話 (その4) | | | | | | |
| 第6回 | 会話 (その5) | | | | | | |
| 第7回 | 会話 (その6) | | | | | | |
| 第8回 | 会話 (その7) | | | | | | |
| 第9回 | 会話 (その8) | | | | | | |
| 第10回 | 時事 (その1) | | | | | | |
| 第11回 | 時事 (その2) | | | | | | |
| 第12回 | 時事 (その3) | | | | | | |
| 第13回 | 時事 (その4) | | | | | | |
| 第14回 | 時事 (その5) | | | | | | |
| 第15回 | まとめ 聴解 への布石 | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。練習の方法は授業で解説します。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25、木曜日 : 11 : 55 ~ 12 : 25 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 峡南地域就学相談員 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|--------------------------------------|----|---------|--------|---------------|----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09014] 聴解 (Listening Comprehension) | | | | | | |
| 期間 | 後期 (15回) | | 単位数 | 選択 (1) | | 種類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 手塚 知子 | | テヅカ トモコ | | tezuka tomoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 日本人の会話レベルの聴解ができるようテキストをもとに概説する。また学生が興味・関心を持つ「時事」やニュース等について、学生が調べ、プレゼンテーションをする機会を設ける。日本語能力試験を視野に、練習問題に取組むことで、必要なスキルを修得する。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| この授業では、聴解に引き続き、日本語能力検定試験合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを持っていくことを目指す。複雑な内容でも、日本人の会話レベルの聴解ができるようにする。また、ラジオ放送を理解できるようにする。この授業を受講することで、受講生は日本語を聴き取り理解する力を養うことができる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 日本語能力検定試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにする。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をするので、さらなる実践的な日本語の理解・習得を図る。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ90分以上の事前・事後の学習を行うこと。普段からテレビやラジオを聴くようにし、事前学習として、自分が関心を持ったニュースや時事問題について簡単にまとめてくるようにすること。事後学習では、授業の内容をさらに深める自主学習を行ったり、苦手なところについて練習してくるようにすること。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 練習問題の成績 (50%)、授業への取り組み (40%)、課題への取り組み (10%) により総合的に評価する。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | | | | | |
| 第2回 | 練習問題 (その1) | | | | | | |
| 第3回 | 練習問題 (その2) | | | | | | |
| 第4回 | 練習問題 (その3) | | | | | | |
| 第5回 | 練習問題 (その4) | | | | | | |
| 第6回 | 練習問題 (その5) | | | | | | |
| 第7回 | 練習問題 (その6) | | | | | | |
| 第8回 | 練習問題 (その7) | | | | | | |
| 第9回 | 練習問題 (その8) | | | | | | |
| 第10回 | 練習問題 (その9) | | | | | | |
| 第11回 | 練習問題 (その10) | | | | | | |
| 第12回 | 練習問題 (その11) | | | | | | |
| 第13回 | 練習問題 (その12) | | | | | | |
| 第14回 | 模擬試験・解説 (その1) | | | | | | |
| 第15回 | 模擬試験・解説 (その2) | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著 (スリーエーネットワーク) 2011年。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 授業内だけでは、日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で、積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 峡南地域就学相談員 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | |
|--|--|----|--------|--------|-------------|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | |
| 講義名 | [09016] 会話 (Conversation) | | | | | |
| 期間 | 後期 (15回) | | 単位数 | 選択 (1) | | 種類 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | |
| 担当者 | 伊東 久実 | | イトウ クミ | | ito kumi | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | |
| 目的に応じた自然な会話や口頭発表ができるように、実際の場面を模擬的に体験、練習する。 | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | |
| 話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。 | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | |
| 会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。 | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | |
| この授業では、毎回1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。 | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テストおよび発表 (50%) により総合的に判断します。 | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | |
| 第1回 | 好きなシーンを紹介しよう | | | | | |
| 第2回 | 子どもたちに母国の行事を紹介しよう | | | | | |
| 第3回 | グラフや表を説明しよう | | | | | |
| 第4回 | 困った状況を伝えて交渉しよう | | | | | |
| 第5回 | 不満に対処しよう | | | | | |
| 第6回 | 就職試験制度について説明しよう | | | | | |
| 第7回 | 働くことの意義について討論しよう | | | | | |
| 第8回 | 身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 | | | | | |
| 第9回 | 身延中学校での交流授業に向けて：発表原稿の作成 / 授業の進め方の検討と練習 | | | | | |
| 第10回 | スピーチコンテストのリハーサル | | | | | |
| 第11回 | 身延中学校での交流授業に向けて：プレゼンテーション | | | | | |
| 第12回 | 心に残る言葉 | | | | | |
| 第13回 | 留学生生活を振り返って | | | | | |
| 第14回 | 将来の夢を語ろう | | | | | |
| 第15回 | まとめ・発表 | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | |
| 教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | |
| 自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | |
| 火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください) | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|----------------------------------|-----|----------|-----------|-------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09018] 漢字 (Chinese Character) | | | | | | |
| 期 間 | 後期 (15回) | | 単 位 数 | 選 択 (1) | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | | | |
| 担当者 | 桑名 法晃 | | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導していく。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験 (N 1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| 事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | | | |
| 第2回 | 同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その1 | | | | | | |
| 第3回 | 同じ部分、同じ音読みを持つ漢字を覚えよう その2 | | | | | | |
| 第4回 | 訓読みを覚えよう その1 | | | | | | |
| 第5回 | 訓読みを覚えよう その2 | | | | | | |
| 第6回 | 難しい読みを覚えよう その1 | | | | | | |
| 第7回 | 難しい読みを覚えよう その2 | | | | | | |
| 第8回 | 語彙で覚えよう その1 | | | | | | |
| 第9回 | 語彙で覚えよう その2 | | | | | | |
| 第10回 | 語彙で覚えよう その3 | | | | | | |
| 第11回 | 語彙で覚えよう その4 | | | | | | |
| 第12回 | いろいろな覚え方をしよう その1 | | | | | | |
| 第13回 | いろいろな覚え方をしよう その2 | | | | | | |
| 第14回 | 新聞を読もう その1 | | | | | | |
| 第15回 | 新聞を読もう その2 | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『日本語能力試験対策、日本語総まとめN1』（アスク出版）2010年。他に『漢字マスターN1』（三修社）2011年も用いる。参考書：『漢字ビギナーズ、24の法則でわかる』武部良明（アルク）2014年。ほか講義時に指示する。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 語学学習には事前・事後学習に時間をかけることが必要です。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 水曜日1時限目と木曜日5時限目 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | |
|--|---------------------------|-----|----------|-----------|----------------|-----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | |
| 講義名 | [09019] 語彙 (Vocabulary) | | | | | |
| 期 間 | 前期 (15回) | | 単 位 数 | 選 択 (1) | | 種 類 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | | |
| 担当者 | 岡田 文弘 | | オカダ フミヒロ | | okada fumihiro | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | |
| 本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。 | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | |
| 日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。 | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | |
| 教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。 | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | |
| 毎回の演習50%、課題50% | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | | |
| 第2回 | 演習 | | | | | |
| 第3回 | 演習 | | | | | |
| 第4回 | 演習 | | | | | |
| 第5回 | 演習 | | | | | |
| 第6回 | 演習 | | | | | |
| 第7回 | 演習 | | | | | |
| 第8回 | 演習 | | | | | |
| 第9回 | 演習 | | | | | |
| 第10回 | 演習 | | | | | |
| 第11回 | 演習 | | | | | |
| 第12回 | 演習 | | | | | |
| 第13回 | 演習 | | | | | |
| 第14回 | 演習 | | | | | |
| 第15回 | 演習 | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | |
| 『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年 『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011 『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年 | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | |
| 語学学習は、事前学習と事後学習がとても重要です。たくさん課題も出しますががんばって受講してください。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | |
| 木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp) | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | |
| なし | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|----------------------------------|-----|----------|-----------|-------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09021] 漢字 (Chinese Character) | | | | | | |
| 期 間 | 前期 (15回) | | 単 位 数 | 選 択 (1) | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | | | |
| 担当者 | 桑名 法晃 | | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 留学生の日本語教育に関する科目の一つであるので、漢字の成り立ちや類義語等、幅広く指導してゆく。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験 (N 1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| 事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 期末テスト50%、小テスト20%、受講態度30%で総合的に評価する。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | | | |
| 第2回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回 | | | | | | |
| 第3回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回 | | | | | | |
| 第4回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回 | | | | | | |
| 第5回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回 | | | | | | |
| 第6回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回 | | | | | | |
| 第7回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回 | | | | | | |
| 第8回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回 | | | | | | |
| 第9回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回 | | | | | | |
| 第10回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回 | | | | | | |
| 第11回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回 | | | | | | |
| 第12回 | 『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回 | | | | | | |
| 第13回 | 言葉の構成について | | | | | | |
| 第14回 | 音の変化について | | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』。参考書：『漢字引きナース 24の原則でわかる』武部良明 (アルク社) 2014年、『漢字のなりたち (日英対訳)』白川静 (平凡社) 2016年。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 語学学習には事前・事後学習に時間をかける必要があります。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して習練しましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 水曜日1時限目と木曜日5時限目 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | |
|--|---------------------------|-----|----------|-----------|----------------|-----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | |
| 講義名 | [09022] 語彙 (Vocabulary) | | | | | |
| 期 間 | 後期 (15回) | | 単 位 数 | 選 択 (1) | | 種 類 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | | |
| 担当者 | 岡田 文弘 | | オカダ フミヒロ | | okada fumihiro | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | |
| 本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。 | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | |
| 日本語能力試験 (N 1、N 2) 合格レベルの日本語能力を取得する。 | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | |
| 教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。 | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | |
| 毎回の演習50%、課題50% | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス | | | | | |
| 第2回 | 演習 | | | | | |
| 第3回 | 演習 | | | | | |
| 第4回 | 演習 | | | | | |
| 第5回 | 演習 | | | | | |
| 第6回 | 演習 | | | | | |
| 第7回 | 演習 | | | | | |
| 第8回 | 演習 | | | | | |
| 第9回 | 演習 | | | | | |
| 第10回 | 演習 | | | | | |
| 第11回 | 演習 | | | | | |
| 第12回 | 演習 | | | | | |
| 第13回 | 演習 | | | | | |
| 第14回 | 演習 | | | | | |
| 第15回 | 演習 | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | |
| 『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)2011年 | | | | | | |
| 『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版)2011 | | | | | | |
| 『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年 | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | |
| 事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | |
| 水曜2限(要予約、ookada@min.ac.jp) | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | |
| なし | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|---|----------------------------|----|----------|---------|-------------|-----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09023] 文法 (Grammar) | | | | | | |
| 期 間 | 後期 (15回) | | 単 位 数 | 選 択 (1) | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 桑名 法晃 | | クワナ ホウコウ | | kuwana hoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 本授業は、基本的には読解に力を入れ、その中で必要に応じて文法事項の確認を行っていく。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験 (N1) 合格レベルの日本語能力を取得することを、本授業の目標とします。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| テキストに即しながら、講義を行います。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていきます。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| 事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各120分の学修が必要となります。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 授業への取り組み30%、模擬試験70% | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス：テキストの例題をやってみよう | | | | | | |
| 第2回 | 実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その1 | | | | | | |
| 第3回 | 実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その2 | | | | | | |
| 第4回 | 実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その3 | | | | | | |
| 第5回 | 実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど その4 | | | | | | |
| 第6回 | 第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その1 | | | | | | |
| 第7回 | 第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その2 | | | | | | |
| 第8回 | 第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その3 | | | | | | |
| 第9回 | 第2部 広告・お知らせ・説明書きなど その4 | | | | | | |
| 第10回 | 第3部 実戦問題 その1 | | | | | | |
| 第11回 | 第3部 実戦問題 その2 | | | | | | |
| 第12回 | 第3部 実戦問題 その3 | | | | | | |
| 第13回 | 第3部 実戦問題 その4 | | | | | | |
| 第14回 | 模擬試験 | | | | | | |
| 第15回 | まとめおよび振り返り | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年、 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 水曜日1時限目と木曜日5時限目 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|------------------------------------|----|----------|--------|----------------|----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09024] 読解 (Reading Comprehension) | | | | | | |
| 期間 | 前期 (15回) | | 単位数 | 選択 (1) | | 種類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 岡田 文弘 | | オカダ フミヒロ | | okada fumihiro | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験に合格することを目標とする。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験 (N1、N2) 合格レベルの日本語能力を取得する。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 毎回の演習50%、課題50% | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス、テキストの例題をやってみる。 | | | | | | |
| 第2回 | 実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1) | | | | | | |
| 第3回 | 同上 (2) | | | | | | |
| 第4回 | 同上 (3) | | | | | | |
| 第5回 | 同上 (4) | | | | | | |
| 第6回 | 第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1) | | | | | | |
| 第7回 | 同上 (2) | | | | | | |
| 第8回 | 同上 (3) | | | | | | |
| 第9回 | 同上 (4) | | | | | | |
| 第10回 | 第3部 実戦問題 (1) | | | | | | |
| 第11回 | 同上 (2) | | | | | | |
| 第12回 | 同上 (3) | | | | | | |
| 第13回 | 同上 (4) | | | | | | |
| 第14回 | 模擬試験 | | | | | | |
| 第15回 | まとめと振り返り | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』(ジェイ・リサーチ出版) 2011、『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 木曜12:00-13:00 (要予約、ookada@min.ac.jp) | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|------------------------------------|----|--------|--------|-------------|----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09025] 読解 (Reading Comprehension) | | | | | | |
| 期間 | 後期 (15回) | | 単位数 | 選択 (1) | | 種類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 伊東 久実 | | イトウ クミ | | ito kumi | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 日本語能力試験のN1あるいはN2の合格を目標として、指定されたテキストに沿って読解力を高める授業を行う。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 本授業は、留学生を対象に実施されるものである。最終的には、日本語能力試験のN1あるいはN2に合格することを目標とする。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 授業での取り組み：70%、N1あるいはN2模擬試験：30%。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス、テキストの例題をやってみる | | | | | | |
| 第2回 | 実力養成編 第1部 評論・解説・エッセイなど (1) | | | | | | |
| 第3回 | 同上 (2) | | | | | | |
| 第4回 | 同上 (3) | | | | | | |
| 第5回 | 同上 (4) | | | | | | |
| 第6回 | 第2部 広告・お知らせ・説明書きなど (1) | | | | | | |
| 第7回 | 同上 (2) | | | | | | |
| 第8回 | 同上 (3) | | | | | | |
| 第9回 | 同上 (4) | | | | | | |
| 第10回 | 第3部 実戦問題 (1) | | | | | | |
| 第11回 | 同上 (2) | | | | | | |
| 第12回 | 同上 (3) | | | | | | |
| 第13回 | 同上 (4) | | | | | | |
| 第14回 | 模擬試験 | | | | | | |
| 第15回 | まとめと振り返り | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著 (スリーエーネットワーク) 2011年 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』田代・中村・初鹿野・清水・福岡著 (スリーエーネットワーク) 2011年 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでまいりましょう。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください) | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| なし | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|---------------------------|----|---------|--------|---------------|----|----|
| 令和2年度 | 全専攻共通 日本語科目 | | | | 日本語能力試験取得課程 | | |
| 講義名 | [09026] 会話 (Conversation) | | | | | | |
| 期間 | 前期 (15回) | | 単位数 | 選択 (1) | | 種類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 担当者 | 手塚 知子 | | テヅカ トモコ | | tezuka tomoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| この授業では「話す」技能に焦点をあて、日常生活の会話が円滑にできるよう毎回テーマを決め、発表をする機会を設ける。またテキストやディスカッション、ロールプレイを通して多角的に「話す」力の向上ができるよう、授業展開をする。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 | | | | | | | |
| 個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。 | | | | | | | |
| 【授業方法 (フィードバックの内容)】 | | | | | | | |
| 「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法 (時間数)】 | | | | | | | |
| この授業では、毎回2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を解き、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノートや配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。 | | | | | | | |
| 【成績評価 (方法・基準)】 | | | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢 (50%)、期末試験および発表 (50%) により総合的に判断します。 | | | | | | | |
| 【授業計画 (各回の授業内容)】 | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | | | | | |
| 第2回 | 自己紹介で好印象を与えよう | | | | | | |
| 第3回 | きっかけを話そう | | | | | | |
| 第4回 | 町の様子を話そう | | | | | | |
| 第5回 | 健康について話そう | | | | | | |
| 第6回 | 自分の特技について伝えよう | | | | | | |
| 第7回 | 言い換えて説明しよう | | | | | | |
| 第8回 | 印象に残った出来事を話そう | | | | | | |
| 第9回 | 比べて良さを伝えよう | | | | | | |
| 第10回 | 動きの順序を説明しよう | | | | | | |
| 第11回 | ストーリーを話そう | | | | | | |
| 第12回 | 最近の出来事を話そう | | | | | | |
| 第13回 | 身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その1 | | | | | | |
| 第14回 | 身延中学校での交流授業に向けて：内容の検討 その2 | | | | | | |
| 第15回 | まとめ・発表 | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著 (スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね第2版』西口光一監修 (スリーエーネットワーク) 2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編 (スリーエーネットワーク) 2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著 (凡人社) 2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 自身の意見や考えを積極的に述べることを求める。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 峡南地域就学相談員 | | | | | | | |

| | | |
|-------|------------|---------|
| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | 福祉理論系科目 |

| | |
|-----|-------------|
| 講義名 | [01602] 高齢者 |
|-----|-------------|

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|---------|---------------|
| 担当者 | 中野 宏子 | ナカノ ヒロコ | nakano hiroko |
|-----|-------|---------|---------------|

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

超高齢社会を迎え、高齢者福祉の重要性が増しています。社会福祉現場等では高齢者を総合的に理解することが求められています。高齢者を幅広く理解するために、社会状況、施策、制度、高齢者の特性など様々な視点から高齢者を理解できるように概説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

高齢者の特徴・高齢者を取り巻く社会的状況・制度・施策など高齢者を総合的に理解し、様々な視点から基本的な高齢者に関する知識を習得し、高齢者理解を深めて、総合的に高齢者を捉える視点を構築することを、本授業の目標とします。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書、参考書、各種資料を通して、受講者の高齢者への理解度を深めていきます。また同時に今後必要とされる資料を読み取る力を高めていきます。加えて現実に行き起きている高齢者問題についてグループ討議などの方法で、多角的にものを考える力つけていきます。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前の学修では、各回の講義内容についてシラバスに記載した教科書、参考書による学修を毎回2時間以上行うこと。事後の学修では、配布プリントの内容について授業の復習を2時間以上行うことを望みます。

【成績評価（方法・基準）】

授業内テスト（40%）、学力確認テスト（50%）、授業参画度（10%）。授業参画度は毎回のリアクションペーパーなどにより総合評価します。

【授業計画（各回の授業内容）】

| | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 |
| 第2回 | 少子高齢社会の状況 |
| 第3回 | 少子高齢社会と社会的問題 |
| 第4回 | 高齢化と地域間格差 |
| 第5回 | 高齢者を取り巻く家族の状況 |
| 第6回 | 高齢者の特性 |
| 第7回 | 高齢者の特性 |
| 第8回 | 高齢者を取り巻く新たな課題 |
| 第9回 | 高齢者虐待の状況 |
| 第10回 | 高齢者虐待防止法 虐待の定義 |
| 第11回 | 高齢者福祉の歴史 |
| 第12回 | 高齢者福祉の歴史 |
| 第13回 | 高齢者福祉の歴史 |
| 第14回 | 高齢者の住環境 |
| 第15回 | 総括 |

【教科書・参考書】

教科書：「新・社会福祉士養成講座 第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度」（中央法規出版）2019年。参考書：『よくわかる高齢者心理学』佐藤真一（ミネルバ書房）2016年『高齢者福祉論（初めて学ぶ社会福祉）』杉本敏夫（ミネルバ書房）2016年。

【学生へのメッセージ】

「少子高齢化社会」は日本の喫緊の課題ですが、何が問題なのか受講生一人一人が問題意識を持つよう望みます。授業ではメディアで報道されていることにも触れますので、自分の考えをまとめられるよう望みます。

【オフィスアワー】

火曜日10：00～12：00と水曜日1時限目（大学事務局を通じて予約してください）

【実務経験】

山梨県中央市社会福祉協議会7年。高齢者団体事務局、居宅サービス、相談業務等の経験を活かし高齢者の実態を理解できる授業にします。

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|--------------------------------------|---------|---------------|---------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01604] 社会福祉援助技術論 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 中野 宏子 | ナカノ ヒロコ | nakano hiroko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 今日の変化の激しい多様化する社会の中で、福祉ニーズは多種多様で複雑化しています。これらの福祉ニーズに対応していくためには、広い視野と深い洞察力を持った確かな力を持つ専門職が求められます。本授業では、相談援助に関する基本的な理論、実践モデルなど相談援助活動を理解し、具体的に展開できる基礎を固める内容を講義します。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 相談援助に関する基本的な理論、実践モデルを理解し、専門職の基盤を作ることを目標とします。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義、個別指導講義、個別指導、グループワークなどを通してソーシャルワークの定義や枠組みへの理解とソーシャルワーク支援過程の中で活用される技術への理解を深めていきます。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業ごとに該当する教科書の予習を行うこと。事後の学習では、授業中に提示した資料を基にまとめをしておくこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（10%）中間要約レポート（20%）期末レポート（70%）により総合的に評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | | |
| 第2回 | 社会福祉の役割と意義（社会福祉士及び介護福祉士法・社会福祉士の専門性） | | | |
| 第3回 | 相談援助の概念と範囲（定義・義務等） | | | |
| 第4回 | ソーシャルワークに係る各種国際定義（国際ソーシャルワーカー連盟の定義等） | | | |
| 第5回 | ソーシャルワークの形成過程（慈善組織組合・セツルメント運動など） | | | |
| 第6回 | 相談援助の理念（人権尊重） | | | |
| 第7回 | 相談援助の理念（社会正義） | | | |
| 第8回 | 相談援助の理念（利用者本位） | | | |
| 第9回 | 相談援助の理念（尊厳の保持） | | | |
| 第10回 | 相談援助の理念（権利擁護） | | | |
| 第11回 | 相談援助の理念（自立支援） | | | |
| 第12回 | 相談援助の理念（社会的包摂） | | | |
| 第13回 | 相談援助の理念（ノーマライゼーション） | | | |
| 第14回 | 相談援助における権利擁護の意義（相談援助における権利擁護の概念と範囲） | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| テキスト：「新・社会福祉養成講座 第7巻 相談援助の理論と方法」中央法規出版 2016年 参考書：『福祉専門職のための統合的・多面的アセスメント：相互作用を深める最適な支援を導くための基礎』渡部律子ミネルヴァ書房2019年 {ソーシャルワークジェネラリストソーシャルワークの相談援助} 得津慎子（ふくろう出版）2017年 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 社会福祉援助活動における相談援助の本質を説明できるように、専門職と非専門職の違いはこういった点にあるのかを意識しながら学修してください。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日10：30～12：00と水曜日1時間目（大学事務室を通じて予約してください） | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|---|---------|--------|---------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01605] 社会福祉援助技術論 | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 講 義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 中野 宏子 | ナカノ ヒロコ | | nakano hiroko |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 今日の変化の激しい多様化する社会の中で、福祉ニーズは多種多様で複雑化しています。これらの福祉ニーズに対応していくためには、広い視野と深い洞察力を持った確かな力を持つ専門職が求められます。本授業では、相談援助に関する基本的な理論、実践モデルなど相談援助活動を理解し、具体的に展開できる基礎を固める内容を講義します。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 相談援助に関する基本的な理論、実践モデルを理解し、専門職の基盤を作ることを目標とします。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義、個別指導、グループワークなどを通してソーシャルワークの定義や枠組みへの理解とソーシャルワーク支援過程の中で活用される技術への理解を深めていきます。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業ごとに該当する教科書の予習を行うこと。事後の学習では、授業中に提示した資料を基にまとめをしておくこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（10%）中間レポート（20%）期末レポート（70%）により総合的に評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | | |
| 第2回 | 相談援助に係る専門職の概念 | | | |
| 第3回 | 相談援助に係る専門職の範囲 | | | |
| 第4回 | 福祉行政における専門職（福祉事務所の現業員・査察指導員・社会福祉主事等） | | | |
| 第5回 | 民間施設・組織における専門職（施設長・生活相談員・社会福祉協議会の職員等） | | | |
| 第6回 | 諸外国の動向 | | | |
| 第7回 | 専門職倫理の概念 | | | |
| 第8回 | 倫理綱領（社団法人日本社会福祉士会倫理綱領・国際ソーシャルワーカー連盟倫理綱領等） | | | |
| 第9回 | 倫理的ジレンマ | | | |
| 第10回 | 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容（チームアプローチ等） | | | |
| 第11回 | ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の意義 | | | |
| 第12回 | ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の内容 | | | |
| 第13回 | ジェネラリストの視点に基く多職種連携の意義（チームアプローチ等） | | | |
| 第14回 | ジェネラリストの視点に基く多職種連携の内容（チームアプローチ等） | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| テキスト：「新・社会福祉養成講座 第7巻 相談援助の理論と方法」中央法規出版 2016年 参考書：『福祉専門職のための統合的・多面的アセスメント：相互作用を深める最適な支援を導くための基礎』渡部律子ミネルヴァ書房2019年 {ソーシャルワーカージェネラリストソーシャルワークの相談援助} 得津慎子（ふくろう出版）2017年 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 社会福祉援助活動における相談援助の本質を説明できるように、専門職と非専門職の違いはこういった点にあるのかを意識しながら受講してください。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日10：00～12：00と水曜の1時限目（大学事務室を通じて予約してください） | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|--|----------|-------|----------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01607] 生活支援技術 法定科目 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 雨宮 邦子 | アメミヤ クニコ | | amemiya kuniko |
| | 依田 萬代 | ヨダ タカヨ | | yoda takayo |
| 【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。解し、経営・管理する能力を養う。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた火事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する内容とする。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 安心して援助を受けられる利用者のために、技術・知識の基本を身につける。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 食生活：授業はテキストにそって行う。衣生活：自立に向けた衣生活の援助技術を身に付ける。講義と演習により、テキストやその都度講義に合わせたプリントを使用して授業を進めます。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 試験・レポート・出席状況・学習態度を総合的に評価 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 生活支援 - 生活の理解（生活の定義、生活形成のプロセス・生活経営他） | | | |
| 第2回 | 生活支援 - 生活支援（生活支援の考え方・ICFの視点にもとづくアセスメント・その他） | | | |
| 第3回 | 自立に向けた食事の介護 - 食事の意義と目的 アセスメント（ICFの視点にもとづくアセスメントを含む） | | | |
| 第4回 | 「おいしく食べる」ことを支える介護 食卓の環境づくり 食器の工夫 | | | |
| 第5回 | " 献立に興味をもってもらう工夫 その他 | | | |
| 第6回 | 生活と食事 食生活の変遷 食事形態 | | | |
| 第7回 | 食生活と健康 栄養素の種類と働き 身体の機能と栄養 | | | |
| 第8回 | 食品の成分と保存・管理・食品の安全 食品衛生に関する法規 | | | |
| 第9回 | 介護の関する家庭生活 - 家庭経営と家庭管理（生活時間、家事労働の分類と特徴及び疲労） | | | |
| 第10回 | 介護の関する家庭生活 - 家庭管理（休養と栄養、家事及び介護労働の能率化、利用者への家事援助と作業管理、家庭の情報処理） | | | |
| 第11回 | 自立に向けた衣服の介護 - 被服の機能と素材 | | | |
| 第12回 | 自立に向けた衣服の介護 - 被服と衛生 | | | |
| 第13回 | 自立に向けた衣服の介護 - 被服の選択と管理 | | | |
| 第14回 | 介護と衣生活 - 高齢者の衣生活 | | | |
| 第15回 | 介護と衣生活 - 障害者の衣生活 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 「生活支援技術」 社会福祉士養成講座 中央法規出版 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 食生活：授業には休まず出席、レポートを提出（高齢者を対象とした1週間の献立作成）すること。衣生活：毎回、レポート・課題がありますので、休まず出席して提出して下さい。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 食生活・衣生活：授業の前後に実習室にて受け付けます。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 雨宮邦子：なし 依田萬代：なし | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 | |
|---|---|-------|---------|---------|----------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 | |
| 講義名 | [01609] 発達と老化の理解 法定科目 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 | 講 義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 佐々木 さち子 | | ササキ サチコ | | sasaki sachiko |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 老化に伴うこととからだの変化と生活や、老化に伴う疾病、保健医療職との連携がそれぞれ理解できる。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| レジュメを作成し高齢者の疾病を整理しながら進めていく。ビデオ・DVDを使用した講義、グループ討議なども取り入れながら進める。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前学習120分：テキストを読み疑問点を明らかにしておくこと。事後学習120分：当日の学習内容のポイントをノートにまとめておくこと。演習課題をする。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 学力評価テスト（80％）演習課題提出（20％） | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 1 オリエンテーション | | | | |
| 第2回 | 2 老化に伴うこととからだの変化と生活（老化を受けとめる高齢者の気持ち） | | | | |
| 第3回 | 3 老化に伴うこととからだの変化と生活（社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち） | | | | |
| 第4回 | 4 老化に伴うこととからだの変化と生活（障害を受け止める高齢者の気持ち） | | | | |
| 第5回 | 5 老化に伴うこととからだの変化と生活（友人との別れを受け止める高齢者の気持ち） | | | | |
| 第6回 | 6 老化に伴うこととからだの変化と生活（経済的不安を抱える高齢者の気持ち） | | | | |
| 第7回 | 7 老化に伴うこととからだの変化と生活（高齢者の症状の現れ方の特徴） | | | | |
| 第8回 | 8 老化に伴うこととからだの変化と生活（高齢者に多い疾病） | | | | |
| 第9回 | 9 老化に伴うこととからだの変化と生活（高齢者に多い疾病の日常生活における留意点） | | | | |
| 第10回 | 10 老化に伴うこととからだの変化と生活（高齢者の体の不調の訴え-痛み・かゆみ） | | | | |
| 第11回 | 11 老化に伴うこととからだの変化と生活（高齢者の体の不調の訴え-不眠・冷え・その他） | | | | |
| 第12回 | 12 保健医療職との連携 1 | | | | |
| 第13回 | 13 保健医療職との連携 2 | | | | |
| 第14回 | 14 保健医療職との連携 3 | | | | |
| 第15回 | 15 まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 最新『発達と老化の理解』 介護福祉士養成講座、介護福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 受講前には前回のテキストや資料に目を通し、講義にはテキスト、資料を必ず持参すること。受講後は、復習をし大切なポイントを整理しておくこと。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 出向日は火曜日、金曜日 10時～17時まで授業以外は研究室（406号室）にいる。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の看護師経験を活かし医療的ケア、介護に必要な医学的知識を伝える授業を行う。 | | | | | |

| | | |
|-------|------------|---------|
| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | 福祉理論系科目 |

| | |
|-----|-------------------|
| 講義名 | [01610] 介護概論 法定科目 |
|-----|-------------------|

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|---------|---------|----------------|
| 担当者 | 佐々木 さち子 | ササキ サチコ | sasaki sachiko |
|-----|---------|---------|----------------|

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解する。介護福祉の基礎となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。介護の歴史や社会的背景から介護福祉士を取り巻く状況を理解する。介護とは何かを考える。介護福祉士の役割と機能を支えるしくみを理解する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

介護福祉とは何かを学び、考え、自己の介護観を構築する基礎とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

1 介護の目的、意義を理解する。2 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。3 具体的な介護の展開と過程や、介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。4 介護と他の機関との関係・協力・連携・範囲を理解する。5 身体的及び精神的な変化に対する観察技術を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。6 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する緊急連絡方法や応急処置を講ずることができるようにする。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学習120分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。
事後学習120分：テキストを読み直し、ノートをまとめる。演習課題の宿題。

【成績評価（方法・基準）】

学力評価テスト（80％）、レポート課題（20％）

【授業計画（各回の授業内容）】

| | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 介護概念 |
| 第2回 | 介護の歴史 |
| 第3回 | 介護問題の背景 |
| 第4回 | 家族介護の問題 |
| 第5回 | 高齢者虐待の背景 |
| 第6回 | 介護ニーズの変化 |
| 第7回 | 社会福祉士及び介護福祉士法 |
| 第8回 | 介護福祉士の定義 |
| 第9回 | 介護福祉士の義務 |
| 第10回 | 名称独占と業務独占 医療処置を必要とする場合の介護 |
| 第11回 | 養成制度 |
| 第12回 | 登録状況 |
| 第13回 | 専門職能団体の活動 |
| 第14回 | 専門職集団としての役割、機能、 |
| 第15回 | まとめ・総括 |

【教科書・参考書】

最新『介護の基本』 介護福祉士養成講座編集委員会（編集） 中央法規、参考書「介護の基本」最新介護福祉士試験全書 メジカルフレンド社

【学生へのメッセージ】

講義でとりあげる個々の定義、意義を鵜呑みにせず良く考え、討議し実践を通して自分のものにしてほしい。介護を必要とする人を援助するという事は、その人の人生に関わるという責任を自覚し、喜びや哀しみに共感できる優しさと強さを望む。

【オフィスアワー】

出向日は火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。

【実務経験】

鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|-----------------------|---------|----------------|---------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01611] 介護概論 法定科目 | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 佐々木 さち子 | ササキ サチコ | sasaki sachiko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解する。介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を、支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。利用者の主体性を守り尊厳を支える介護を学ぶ。自立に向けた介護について理解する。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 介護福祉士の業務を行うにあたり、利用者の主体性や自立支援の重要性を理解できる。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 1 老人や障害者の介護と援助法 2 人間の発達と生活 3 介護福祉の援助と方法の理解 4 介護福祉活動分野の理解 5 尊厳を支える介護の理解 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習120分：テキストをあらかじめ読んでおくこと。 事後学習120分：テキストを読み直し、演習課題の宿題を行う。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 学力評価テスト（80%）、演習課題提出（20%） | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | QOLの考え方 | | | |
| 第2回 | ノーマライゼーションの定義 | | | |
| 第3回 | ノーマライゼーションの実現 | | | |
| 第4回 | 利用者主体の考え方 | | | |
| 第5回 | 利用者主体の実現 | | | |
| 第6回 | 自立に向けた介護（自立・自律の考え方） | | | |
| 第7回 | 自己決定・自己選択・自立支援の考え方 | | | |
| 第8回 | 自律支援の具体的展開 | | | |
| 第9回 | 生活意欲への働きかけ、エンパワメント | | | |
| 第10回 | 個別ケアの考え方 | | | |
| 第11回 | 個別ケアの具体的展開 | | | |
| 第12回 | ICFの考え方 | | | |
| 第13回 | ICFの視点にもとづく利用者のアセスメント | | | |
| 第14回 | 事例検討 | | | |
| 第15回 | まとめ・総括 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 最新『介護概論』介護福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 講義でとりあげる個々の定義、意義を鵜呑みにせず良く考え、討議し実践を通して自分のものにしてほしい。介護を必要とする人を援助するという事は、その人の人生に関わるという責任を自覚し、喜びや哀しみに共感できる優しさと強さを望む。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 出向日火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | | |
|---|--------------------------------|---------|--------------|-----|----|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | 福祉理論系科目 | | |
| 講義名 | [01613] 教育原理【資格06613】 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | |
| 担当者 | 田沼 朗 | タヌマ アキラ | tanuma akira | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 教育の思想や理念と制度の変遷、現代の教育が直面する課題について概説します。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 近代から現代に至る日本の教育の思想と歴史をたどり、現在子どもが直面する課題と子どもの権利を保障する教育改革の原理およびその内容を探りたい。子どもが直面する課題と教育改革の理論とその内容について理解できることを目標とする。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 基本的に講義形式。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前学修：あらかじめ指示されたテキストや資料を読み、自分の意見をまとめておく。事後学修：授業を振り返り、要点をノートに整理する。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| レポートを含む期末試験70%、授業への取組の姿勢30% | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション 教育学を学ぶ意義 | | | | |
| 第2回 | 近代公教育制度の発足（1）近代学校成立の意味 | | | | |
| 第3回 | 近代公教育制度の発足（2）教育目的をめぐる論争 | | | | |
| 第4回 | 教育勅語の成立とその意味 | | | | |
| 第5回 | 大正新教育運動と教育改革 | | | | |
| 第6回 | ファシズムと教育 | | | | |
| 第7回 | 戦後教育改革（1）敗戦と教育 | | | | |
| 第8回 | 戦後教育改革（1）敗戦と教育 | | | | |
| 第9回 | 教育の逆コース | | | | |
| 第10回 | 高度成長期の教育思想 | | | | |
| 第11回 | 現代教育問題（1）おちこぼれ・体のおかしさ・非行・家庭内暴力 | | | | |
| 第12回 | 現代教育問題（2）校内暴力・管理教育（体罰、校則） | | | | |
| 第13回 | 現代教育問題（3）いじめ・不登校 | | | | |
| 第14回 | 臨時教育審議会の設置と新自由主義改革 | | | | |
| 第15回 | 子どもの権利条約の意義、まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| テキストは使用しないが教職課程共通に使用する資料として、浪本勝年・他編『ハンディ教育六法』（北樹出版）を用意してほしい。適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。とりあえず竹内常一『少年期不在』（青木書店）、竹内常一『教育を変える』（桜井書店）、田沼朗・他編『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』（国土社）、山住正己『日本教育小史』（岩波書店）に目を通してほしい。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 月曜日12時から13時、火曜日12時から12時30分、水曜日12時から13時。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| なし | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | | |
|--|---------------------------------|-------|---------|----------|----|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | 福祉理論系科目 | | |
| 講義名 | [01614] 保育原理 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | |
| 担当者 | 伊東 久実 | | イトウ クミ | ito kumi | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 保育の基本的な理念や意義について学びます。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| この授業を受けることにより、保育実践に必要な子どもの理解や発達の捉え方、さらに保育の制度や現状について理解することができます。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 主として講義形式ですが、活発な意見交流を促し双方向授業を行います。理解を深めるために地域の保育所、児童館等で実際に学ぶことも含めます(保育所訪問後のフィードバックを大切にします)。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノート(実習ノートも含む)や配布資料を整理して授業内容の理解に努めること。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢(30%)、学力確認テスト(70%)により総合評価します。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 保育とは何か | | | | |
| 第2回 | 保育の基本となること | | | | |
| 第3回 | 同上 | | | | |
| 第4回 | 保育の実際について(1) - 保育所訪問/観察実習 - | | | | |
| 第5回 | 保育の基盤としての子ども観 | | | | |
| 第6回 | 同上 | | | | |
| 第7回 | 子どもが育つ環境の理解 | | | | |
| 第8回 | 保育の実際について(2) - 子育て支援施設訪問/観察実習 - | | | | |
| 第9回 | 保育の環境・方法 | | | | |
| 第10回 | 子どもの発達特性と発達の捉え方 | | | | |
| 第11回 | 現代の子育てと子育て支援 | | | | |
| 第12回 | 保育者に求められるもの | | | | |
| 第13回 | 保育の記録と実践の原理 | | | | |
| 第14回 | 保育の現状と課題 | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 教科書：『新しい保育講座 保育原理』渡邊英則（ミネルヴァ書房）2018。参考書：『育ての心（上）倉橋惣三文庫』・『育ての心（上）倉橋惣三文庫』津守真著（フレール館）1988年、『子ども理解と援助』高嶋景子著（ミネルヴァ書房）2011年。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 保育のよりよいあり方について、積極的に学ぶことを希望します。保育所訪問は、時間割を調整して、別の日時に実施することもあるので注意すること。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください) | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、保育の現場での表現活動について実践に生かせる技術や指導方法を伝えます。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|--|--|----|-----------|-------|---------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01615] 仏教と社会活動 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 担当者 | 池上 要靖 | | イケガミ ヨウセイ | | ikegami yosei |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| ボランティア活動と宗教的实践について学ぶ。ボランティアとは何か、具体的な活動の事例、遵守事項と振り返りについての理解を深め、間違いの起こらない活動、つまりはリスクを回避して、行すべき活動がしっかりと遂行できるノウハウを学ぶ。そして、その活動の支柱となる仏教の精神性についての理解を深め、実際の活動との整合を確かめる。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 現代社会における実践的仏教行動論とその精神的基盤の紹介（救援活動、現代社会における宗教活動、若年者との関わり、終末期のヴィハーラ活動）と、自分自身のいのち、および現代社会における寺院・僧侶のあり方を考え、具体へと結び付けられるプロセスを学び、自己実現へのスキルを獲得できることを目標とする。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 考え方の基礎となる部分を講義で、具体的な実践活動の紹介をディスカッションを通して学び、仏教福祉の社会活動に対する考えをまとめる。福祉施設の現状や問題を理解して、当事者に寄り添うことを学べるように事例を研究する。そして、実際の活動現場に赴き、五感を使い体験を通して、スキルの獲得に努める。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回授業形態が異なるので事前学習に要する時間も異なるが、講義の場合は、概ね2時間の事前事後学習時間、演習の場合は、事前が3時間、事後が2時間、活動現場に赴く際はその活動に見合った基礎スキルが獲得されるまでが事前学習と定め、事後学習はその振り返りとする。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 講義内容の確認を試験で30%、演習と事例研究が40%でレポートによる、そして実際の活動スキルが獲得されているかが30%（ルーブリック形式）である。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 講座開設の趣旨、目的と成果、評価方法と仏教と福祉の関係からいのちに関するオートノミーの解説。 | | | | |
| 第2回 | 仏教的な社会貢献と身延山大学 | | | | |
| 第3回 | 寄り添うとはどういうことか～大学の社会的貢献に関するディスカッション | | | | |
| 第4回 | いのちの尊厳～福島放射能汚染（DVDの視聴とディスカッション） | | | | |
| 第5回 | 東日本大震災と日本人の死生観 | | | | |
| 第6回 | 若年者と仏教との関わり | | | | |
| 第7回 | こども食堂や学習支援活動の方法 | | | | |
| 第8回 | こどもをどうやって支えていくか？（事例とディスカッション） | | | | |
| 第9回 | ヴィハーラ活動とは何か。歴史的観点から定義する。 | | | | |
| 第10回 | 高齢者との関わり方、障がい者との関わり方と仏教的方法論 | | | | |
| 第11回 | ヴィハーラ活動としての寺院のあり方を考える（事例とディスカッション） | | | | |
| 第12回 | 寺院の時代的ニーズを探る（青少年活動、育英会活動等、ボランティア活動等社会に訴える） | | | | |
| 第13回 | 寺院の時代的ニーズを探る（永代供養、葬儀の必要性） | | | | |
| 第14回 | 仏教福祉活動の実践（実際の活動を行う） | | | | |
| 第15回 | まとめ（実際の活動報告と振り返り） | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 講義回ごとに紹介する。事前に購入するものは無いが、『仏教社会福祉入門』（法蔵館）と『仏教社会福祉辞典』は頻繁に使用する。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 楽しく授業に参加、ディスカッションを通して自分の意見や考えを持って毎回授業に望むこと。資料をよく読んで自分で考えること。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日 4 時限目、金曜日 4・5 時限目。質問はメールでも可（ikegami@min.ac.jp）。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 宗教法人智寂坊代表役員、保護司、元教育委員、身延町ふるさと創生委員 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | |
|---|---|-----|----------|--------|----------------|---------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | | 福祉理論系科目 | |
| 講義名 | [01618] カウンセリング入門 | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単 位 数 | 選 択（2） | | 種 類 講 義 |
| 対象学年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | | |
| 担当者 | 稲永 澄子 | | イナナガ スミコ | | inanaga sumiko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | |
| 心の治療（カウンセリング）とは何かを、さまざまな技法を学びながら考えていく。「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）を副読本とする。授業開始日までに読み終えておくこと。 | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | |
| カウンセリングとは何か、その目的や方法を理解し、真のカウンセリングマインドを身につける。 | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | |
| 講義を主体とし、演習も取り入れる。 | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | |
| この授業では、毎回60分程度の事後の学習を行うこと。事後学習では、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。整理してわからなかったところを次回の授業最初の質問時間に質問して明らかにすること。 | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | |
| 期末試験（50％）、授業への取組の姿勢（50％）。出席率が50％に満たない場合は、試験を受けることができない。 | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | |
| 第1回 | 「野の医者は笑う」の読後ディスカッション | | | | | |
| 第2回 | ここはどこにあるの？（こころのとらえ方） | | | | | |
| 第3回 | カウンセリングの理論1：精神分析療法1（フロイトの時代）フロイト、ユング | | | | | |
| 第4回 | カウンセリングの理論2：条件反射（パブロフ） | | | | | |
| 第5回 | カウンセリングの理論3：精神分析療法2（新フロイト派）A.フロイト、M.クライン | | | | | |
| 第6回 | カウンセリングの理論4：クライアント中心療法（ロジャーズ） | | | | | |
| 第7回 | カウンセリングの理論5：認知療法（ベック）うつ病の認知療法 | | | | | |
| 第8回 | カウンセリングの理論6：認知行動療法（認知再構成法、行動活性化） | | | | | |
| 第9回 | カウンセリングの理論7：行動療法（スキナー）ABA行動分析 | | | | | |
| 第10回 | カウンセリングの理論8：第3世代の認知行動療法 マインドフルネスと瞑想 | | | | | |
| 第11回 | カウンセリングの理論9：日本のカウンセリング理論（森田療法） | | | | | |
| 第12回 | カウンセリングの理論10：グループカウンセリング（エンパワメントとセルフヘルプグループ） | | | | | |
| 第13回 | カウンセリングの理論11：ポストモダンの心理療法（解決志向・エリクソン催眠・自我状態療法） | | | | | |
| 第14回 | カウンセリングの理論12：身体志向のカウンセリング(EMDR・SE・BSPなど) | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | |
| 「野の医者は笑う 心の治療とは何か」東畑開人著（誠信書房）、「精神科医松井紀和が語るカウンセリングを学ぶ人のための心理療法の基礎と実際」、「『うつ』を生かすーうつ病の認知療法」大野裕著（星和書店）、「いじめられっ子の流儀」ケイト・コーエン・ポージー著 奥田健次監訳（学苑社） | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | |
| 真剣にカウンセリングを学びたい学生を望む。 | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | |
| 講義の時間帯 | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | |
| 借成会住吉病院心理士（30年）クライアントのニーズに応じたカウンセリングの基本を実例や模擬実習を取り入れて講義する。 | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|--------------------------|---------|-------|---------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01619] ボランティア論【資格06601】 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 中野 宏子 | ナカノ ヒロコ | | nakano hiroko |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 近年、被災地などでボランティア活動が注目され、ボランティアの領域も年々広がってきています。そもそもボランティアとは何なのか、私たちはなぜ、何のためにボランティアをするのか。「自発性」「無償性」「公共性」の視点からボランティアについて概説します。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| ボランティアの基礎知識を理解し、ボランティア活動を行う意義を理解できる。さまざまなボランティア活動があることを理解し、「私ができるボランティア活動」を見つけることができる。地域で行われているボランティア活動を理解する。学生が行うことができるボランティア活動を企画し実施することができることを目標とします。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 一方的な講義ではなく、学生たちが主体的に考えて言葉にしていくアクティブラーニング形式の授業を実施していく。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習：毎回の授業で出される課題を行う（120分以上）。事後学習：授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分以上）。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 学力確認レポート（60%）、中間レポート（30%）、リアクションペーパー（10%）の配分で評価を行う。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 授業についてオリエンテーション | | | |
| 第2回 | ボランティアとは | | | |
| 第3回 | ボランティア活動の沿革（海外） | | | |
| 第4回 | ボランティア活動の沿革（日本） | | | |
| 第5回 | ボランティア活動の内容 | | | |
| 第6回 | 社会福祉機関が行うボランティア活動 | | | |
| 第7回 | 企業が行うボランティア活動 | | | |
| 第8回 | 学校が行うボランティア活動 | | | |
| 第9回 | 中間プレゼンテーション | | | |
| 第10回 | ボランティア活動の実際 | | | |
| 第11回 | ボランティア活動の実際 | | | |
| 第12回 | 地域に必要なボランティア活動 | | | |
| 第13回 | 地域に必要なボランティア活動 | | | |
| 第14回 | 最終プレゼンテーション | | | |
| 第15回 | 科目の総括 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 『ボランティア論』 川村匡由編著 ミネルヴァ書房 2006年、『ボランティアってなんだっけ?』猪瀬浩平（岩波書店）2020年、『ボランティア—もう一つの情報社会』金子郁容（岩波書店）1992年。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 座学だけではなく、実際にボランティア活動を行い理解を深めていく科目になります。授業以外でボランティア活動に参加し、授業で学んだ知識を活かすように望みます。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日10：00～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください） | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、ボランティアセンター長の経験を活かした授業にしたいと考えます。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | | |
|--|----------------------------------|---------|---------------|-----|----|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | 福祉理論系科目 | | |
| 講義名 | [01620] 保育の心理学 【平成30年度生まで】 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 | 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 手塚 知子 | テヅカ トモコ | tezuka tomoko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 保育実践を視野に、子どもの発達過程や乳幼児期位置づけについて説明する。その際に心理学の基礎となる知識や考え方について具体的に説明を加える。さらに児童期・青年期及び成人期・老年期の特徴についても触れる。全体を通して発達、環境、社会性、認知発達の視点が身につくよう概説する。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| この授業では、保育実践にかかわる心理学の知識を習得できるようにすることを目的としている。発達の過程や乳幼児期の位置づけについては、生涯発達の観点から理解し、保育との関連を考察する。この授業を通じて、受講生は、子どもの心身の発達にかかわる心理学の基礎を習得し、理解を深めることができる。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解することができる。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 教科書をもとに、テーマに沿って講義を行う。授業の中では、受講生が自分自身の身近な事柄に引き付けて理解することができるように、できる限り例を示すようにする。受講前に教科書を熟読し、用語の理解に努めること。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、毎回学んだことを整理し、課題を行ってくること。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 授業内容確認テスト（50%）、小テスト（20%：10%×2回）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 子どもを理解するということ / 生涯発達 | | | | |
| 第2回 | 発達観や子ども観と保育観の変遷 / 個人差や発達課題に応じた保育 | | | | |
| 第3回 | 子どもの発達に応じた保育援助 | | | | |
| 第4回 | 子どもの発達と保育環境 / 保育実践の評価 / 小テスト1 | | | | |
| 第5回 | 子どもの知覚と認知の発達 | | | | |
| 第6回 | 子どもの身体発達、運動発達 | | | | |
| 第7回 | 他者とのかかわり | | | | |
| 第8回 | 感情の発達と自我 | | | | |
| 第9回 | 基本的信頼感の獲得 - 愛着を中心に | | | | |
| 第10回 | 社会的相互作用 / 言葉の発達と社会性 / 小テスト2 | | | | |
| 第11回 | 仲間関係の発達 / 学童期から思春期へ | | | | |
| 第12回 | 思春期～青年期の発達 | | | | |
| 第13回 | 成人期の発達(自己・家庭・キャリア) | | | | |
| 第14回 | 中年期～老年期の発達 | | | | |
| 第15回 | まとめ：授業全体の振り返り | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 教科書：『実践・発達心理学第2版(新時代の保育双書)』青木紀久代編（みらい）2017年、参考書：『子どもとかかわる人のための心理学 発達心理学、保育の心理学への扉』沼山博・三浦主博編（萌文書林）2013年、『保育の心理学』杉村伸一郎・白川佳子・清水益治編（中央法規）2015年 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 心理学は保育に役に立つ学問です。そのための知識をたくさん身につけてください。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習してほしいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 | |
|--|--|-------|---------|---------|---------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 | |
| 講義名 | [01621] 介護保険制度【資格06748】 法定科目 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 | 講 義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 中野 宏子 | | ナカノ ヒロコ | | nakano hiroko |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 介護保険制度について理解する。高齢者の福祉・介護に係る他の法制度の概要について理解する。高齢者福祉を取り巻く法制度を、介護保険制度を中心に現状と課題について概説する。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 社会福祉士として必要な高齢者福祉に係る法律制度、特に介護保険制度の理解、および介護保険制度を取り巻く組織や人々の役割を学ぶことを到達目的とする。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 介護保険制度全体を理解できるよう、様々な資料を用いて講義します。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前課題～毎回の授業で出される課題を行う（120分～）。事後課題～授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する（120分～）。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 学力確認テスト50% レポート30% リアクションペーパー・授業で出される課題20%の配分で評価を行います。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 介護保険制度の概要（その1） | | | | |
| 第2回 | 介護保険制度の概要（その2） | | | | |
| 第3回 | 介護保険法における組織及び団体の役割と実際（国・市町村・都道府県の役割） | | | | |
| 第4回 | 介護保険法における組織及び団体の役割と実際（指定サービス事業者・国民保険団体連合会・その他の役割） | | | | |
| 第5回 | 介護保険法における専門職の役割と実際（介護支援専門員・訪問介護員の役割） | | | | |
| 第6回 | 介護保険法における専門職の役割と実際（介護職員・福祉用具専門相談員・介護相談員等の役割） | | | | |
| 第7回 | 介護保険法における専門職の役割と実際（介護認定審査会の委員、認定調査委員の役割） | | | | |
| 第8回 | 介護保険法におけるネットワークと実際（要介護認定における連携） | | | | |
| 第9回 | 介護保険法におけるネットワークと実際（サービス利用時における連携） | | | | |
| 第10回 | 地域包括支援センターの組織体系、地域包括支援センターの活動の実際 | | | | |
| 第11回 | 老人福祉法の概要 | | | | |
| 第12回 | 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 (高齢者虐待の定義、虐待防止の取り組み、虐待発見時の対応) | | | | |
| 第13回 | 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要 | | | | |
| 第14回 | 高齢者の住居の安全確保に関する法律 (高齢者向け優良賃貸住宅、高齢者専用賃貸住宅、高齢者住居支援センターの役割) | | | | |
| 第15回 | 総括 | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 「新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度（第4版）」編集社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出 2016年『介護保険制度の解説』社会保険研究所2018年 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 介護保険制度における理解を深め、高齢者を取り巻く課題を考えてほしい。 事前にテキストを読み、授業後は新聞等で高齢者を取り巻く社会状況を理解するよう努めてほしい。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日10：30～12：00と水曜日1限目（大学事務室を通じて予約してください） | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 山梨県中央市社会福祉協議会7年。高齢者団体事務局、居宅サービス、相談業務等の経験を活かし高齢者の実態を理解できる授業にします。 | | | | | |

| | | |
|-------|------------|---------|
| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | 福祉理論系科目 |

| | |
|-----|-----------------------|
| 講義名 | [01622] 家庭教育【資格06617】 |
|-----|-----------------------|

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|---------|---------------|
| 担当者 | 手塚 知子 | テヅカ トモコ | tezuka tomoko |
|-----|-------|---------|---------------|

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

家庭で子どもを教育する際の基礎知識の修得を目指す。また学生自身が子どもや保護者の支援方法の視点を培うことができるよう、具体的に説明をする。現代の家庭教育について子どもや家庭教育をめぐる諸問題について各回で取り上げ、受講生の理解を深める。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

この授業では、現代の家庭教育における諸問題について考察し、子どもの発達過程における家庭教育の役割やその方法について理解することを目的とする。授業を通じて、受講生は、家庭教育の現状と課題について理解するとともに、家庭で保護者がすぐにチャレンジできる知識や技術を習得できる。

【授業方法（フィードバックの内容）】

毎回テーマにそって講義を進める。内容によって、演習、ディスカッションも行う。授業の中では、家庭で子どもを教育する場合の知識や技術について具体的に紹介する。受講生同士アイデアを出し合い、できる限り多くの知識・技術を習得できるようにする。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、予め次回テーマを伝えるので、それに関する情報収集等の予習を行うこと。事後学習では、毎回課題を課すため、必ず取り組み、学んだことを整理すること。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（50%）、授業への取り組み（30%）、課題への取り組み（20%）により総合的に評価する。

【授業計画（各回の授業内容）】

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 家庭教育とは？ / 現代の家庭教育における課題 |
| 第2回 | 子どもの発達と家庭教育（その1） |
| 第3回 | 子どもの発達と家庭教育（その2） |
| 第4回 | 遊ぶこととしつけ |
| 第5回 | しつけをバッドサイクルからグッドサイクルへ / 家庭教育のポイント |
| 第6回 | 家庭教育がうまくいかなるとき |
| 第7回 | 子どもの発達を促す日常生活の工夫 |
| 第8回 | 子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その1） |
| 第9回 | 子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方（その2） |
| 第10回 | 子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その1） |
| 第11回 | 子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方（その2） |
| 第12回 | 子どもがかかえる要因別運動スキルの身につけ方 |
| 第13回 | 子どもがかかえる要因別認知 / 学習スキルの身につけ方 |
| 第14回 | 子どもの問題行動への対応 |
| 第15回 | まとめ：授業全体の振り返り |

【教科書・参考書】

教科書：毎回プリントを配布する。参考書：『むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング』野口啓示著（明石書店）2009年、『家庭教育論』住田正樹著（放送大学教育振興会）2012年、『イラスト版 発達障害児の楽しくできる感覚統合 感覚とからだの発達をうながす生活の工夫と遊び』太田篤志著（合同出版）2013年、『発達に気になる子への生活動作の教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年、『発達に気になる子へのソーシャルスキルの教え方』立石加奈子・中島そのみ著（中央法規）2013年

【学生へのメッセージ】

家庭での教育は、保育所、幼稚園、学校以外を除いた場合、子どもにとってもっとも重要な経験です。子育ての専門家として関わる場合には、子育て支援について知識と技術を必要とします。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|--|-----------|-------|--------------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01623] 生活支援技術 法定科目 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 建守 善之 | タテモリ ヨシユキ | | tatemori yoshiyuki |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながる内容とする。住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する内容とする。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 安心して援助を受けられる利用者のために、技術・知識の基本を身につける。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 学生自身の生活の行動から高齢者の生活支援を分析していく。演習課題を提示しながら進めていく。事前学習90分：テキストをあらかじめ読んでおく。事後学習90分：指定した参考文献に目を通し、要点をまとめる。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 毎回それぞれ1時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 試験・レポート・出席状況・学習態度を総合的に評価 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 自立に向けた居住環境の整備 意義と目的 | | | |
| 第2回 | 生活支援の介護 居住場所とアイデンティティ、生活の場、すまい | | | |
| 第3回 | 生活支援の介護 住み慣れた地域での生活保障、その他 | | | |
| 第4回 | 住環境のアセスメント ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント | | | |
| 第5回 | 安心で心地よい生活の場づくり 安全で住み心地のより生活の場づくりのための工夫 | | | |
| 第6回 | 同上 快適な室内環境の確保 | | | |
| 第7回 | 同上 浴室・トイレ・台所の空間構成 | | | |
| 第8回 | 同上 プライバシーの確保と交流の促進 | | | |
| 第9回 | 同上 安全性の配慮 その他 | | | |
| 第10回 | 同上 住宅改修 | | | |
| 第11回 | 安心で心地よい生活の場づくり 住宅のバリアフリー化 ユニバーサルデザイン その他 | | | |
| 第12回 | 施設等での集住の場合の工夫・留意点 ユニットケア | | | |
| 第13回 | 同上 居室の個室化 | | | |
| 第14回 | 同上 なじみの生活空間づくり | | | |
| 第15回 | 他の職種の役割と役割 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 「生活支援技術」 社会福祉士養成講座 中央法規出版 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 生活支援の基本的な考えを、自分自身の生活の中から学ぶ。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：30から15：30 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 介護実習 に向けて、模擬授業を行い社会人として必要な知識を学ぶ。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | 分野 |
|-------|------------|---------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | 福祉理論系科目 |

| | |
|-----|---------------------------|
| 講義名 | [01624] 保育の心理学【平成31年度生より】 |
|-----|---------------------------|

| | | | | | |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 選択（2） | 種 類 | 講義 |
|-----|---------|-------|-------|-----|----|

| | | | | |
|------|----|----|----|----|
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
|------|----|----|----|----|

| | | | |
|-----|-------|---------|---------------|
| 担当者 | 手塚 知子 | テヅカ トモコ | tezuka tomoko |
|-----|-------|---------|---------------|

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

保育実践を視野に、子どもの発達過程や乳幼児期位置づけを中心として、心理学の基礎となる知識や考え方について具体的に説明をする。加えて、児童期・青年期及び成人期・老年期の特徴についても触れる。全体を通して発達、環境、社会性、認知発達の視点が身につくよう概説する。

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

この授業では、保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を習得することを目的としている。保育における養護及び教育の一体性や子どもの発達に即した援助の基本、子どもの学びの過程や特性についての理解を深め、保育実践で活用できるようにする。この授業を通じて、受講生は子どもの心身の発達や学びの過程にかかわる心理学の基礎を習得し、理解を深めることができる。また、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解することができる。

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書をもとに講義、演習、ディスカッションを行う。授業の中では適宜例を示したり、演習を行うなどして、現場で生かすイメージを持てるようにする。教科書は受講前に熟読し、用語の理解に努めること。さらに、毎回学んだ内容をまとめることで定着を図る。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ120分以上の事前・事後の学修を行うこと。事前学習では、教科書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学習では、毎回学んだことを整理し、課題を行ってくること。

【成績評価（方法・基準）】

内容確認テスト50%、小テスト20%（10%×2）授業への取り組み20%、課題への取り組み10%

【授業計画（各回の授業内容）】

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 子どもの発達を理解することの意義 |
| 第2回 | 発達観や子ども観と保育観の変遷 / 個人差や発達課題に応じた保育 |
| 第3回 | 子どもの発達と環境 / 子どもの発達に応じた保育援助 |
| 第4回 | 子どもの発達と保育環境 / 保育実践の評価 / 小テスト1 |
| 第5回 | 子どもの身体発達、運動発達 |
| 第6回 | 感情の発達と自我 |
| 第7回 | 基本的信頼感の獲得－愛着の形成 |
| 第8回 | 他者とのかかわり / 社会情動的発達 |
| 第9回 | 言語の発達と社会性 / 社会的相互作用 |
| 第10回 | 子どもの知覚と認知の発達 |
| 第11回 | 子どもの学びに関わる理論 / 人はどのように学ぶのか？ |
| 第12回 | 子どもの学びの過程と特性 / 動機付け・集団づくり・学習評価 |
| 第13回 | 子どもの学びを支える保育 / 主体的な学びを支える方法・環境の検討 |
| 第14回 | 学童期以降の発達 / 生涯発達の視点 |
| 第15回 | まとめ：授業全体の振り返り |

【教科書・参考書】

教科書：『実践・発達心理学第2版(新時代の保育双書)』青木紀久代編（みらい）2017年、参考書：『子どもとかかわる人のための心理学 発達心理学、保育の心理学への扉』沼山博・三浦主博編（萌文書林）2013年、『保育の心理学』杉村伸一郎・白川佳子・清水益治編（中央法規）2015年

【学生へのメッセージ】

心理学は保育に役に立つ学問です。そのための知識をたくさん身につけてください。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学習してほしいと思っています。もちろん欠席や遅刻は厳禁です。

【オフィスアワー】

火曜日：11：55～12：25、木曜日：11：55～12：25

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | |
|---|-----------------------------------|---------|---------------|--------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | 福祉理論系科目 | |
| 講義名 | [01625] チームマネジメント【平成31年度生より】 法定科目 | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- |
| 担当者 | 中野 宏子 | ナカノ ヒロコ | nakano hiroko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| <p>(1) 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 (2) 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する内容とする。</p> | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームマネジメントにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| <p>多様化する社会に対応するために、医療・福祉・保健の分野では多職種が連携して利用者を支援していくのが主流となっています。連携・協働する際に求められるのが確かな力量のある専門職です。その専門職に必要とされるのが「チームマネジメント」の知識と実践力です。援助を行うのに必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識、組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を具体的に講義します。</p> <p>講義、グループワーク、個別指導など課題に応じて、コミュニケーション方法やリーダーシップを学習します。また、一定のトレーニングにより、各自のコミュニケーションの方法を振り返り、コミュニケーション力・ファシリテーション力を高めていきます。</p> | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習120分：講義前に提示された課題について学修してくること。事後学習120分：講義後はノートや資料の整理を行い、講義内容の理解を深めること。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| レポート(60%)、授業内テスト(30%)、授業参画度(10%) 授業参画度はリアクションペーパーなどによりを総合的に評価します。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | チームとは | | | |
| 第2回 | チームマネジメントとは | | | |
| 第3回 | チームマネジメントとコミュニケーション | | | |
| 第4回 | チームマネジメントと介護福祉士の役割 | | | |
| 第5回 | 多職種連携とチームマネジメント | | | |
| 第6回 | チームマネジメントと運営管理 | | | |
| 第7回 | チームマネジメントと人材育成 | | | |
| 第8回 | チームマネジメントの人材活用 | | | |
| 第9回 | チームマネジメントと人材管理 | | | |
| 第10回 | チームマネジメントとリーダーシップ | | | |
| 第11回 | リーダーシップと介護福祉士の役割 | | | |
| 第12回 | チームマネジメントとフォロワーシップ | | | |
| 第13回 | チームマネジメントとチーム運営の基本 | | | |
| 第14回 | チームマネジメントとチーム運営（応用） | | | |
| 第15回 | まとめ・総括 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 『人間の理解』第3版 介護福祉士養成講座1 介護福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規2019年。参考書：『人間の理解のグループ・ダイナミクス』吉田道雄（ナカニシヤ出版）2001年、『チームワークの心理学：エビデンスに基づいた実践へのヒント』マイケルAウェスト（東京大学出版会）2014年。 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 多くのチームワークはうまくいかないということをよく聞きます。なぜなのか。メンバー、リーダーを問わずどうしたら問題解決につなげることができるのか、自分の問題として捉え、学修して下さい。 | | | | |

【オフィスアワー】

火曜日10：30～12：00と水曜日1時限目（大学事務室を通じて予約してください）

【実務経験】

山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務に携わり、各種団体と連携して地域事業を実施してきた経験を活かした授業にしたいと考えます。

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|--|---------|----------------|---------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 専門科目 | | | 福祉理論系科目 |
| 講義名 | [01628] 発達と老化の理解 法定科目 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 選 択（2） | 種 類 講義 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 佐々木 さち子 | ササキ サチコ | sasaki sachiko | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する内容とする。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義形式で行う。時には学生に発言を求め、討議を行う。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。事前学習、事後学習とも各単元30分ずつ行うこと。 | | | | |
| 【授業外学習の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習120分：テキストを読み疑問点を明らかにしておくこと。事後学習120分：当日の学習内容のポイントをノートにまとめておくこと。演習課題をする。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 試験結果（80％）、レポート提出（20％） | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション | | | |
| 第2回 | 人間の成長と発達の基礎的理解 | | | |
| 第3回 | 発達の定義と、発達段階とその課題 | | | |
| 第4回 | 保健医療制度（WHO・老人福祉・老人保健法） | | | |
| 第5回 | 乳幼児期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病 | | | |
| 第6回 | 学童期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病 | | | |
| 第7回 | 思春期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病 | | | |
| 第8回 | 青年期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病 | | | |
| 第9回 | 成人期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病 | | | |
| 第10回 | 老年期における特徴的な疾病 | | | |
| 第11回 | 老年期における発達課題（人客と尊厳・老いの価値・喪失体験・セクシュアリティ等） | | | |
| 第12回 | 老年期における身体的・心理的・社会的特徴（防衛反応・回復力及び適応力の変化） | | | |
| 第13回 | 老年期における身体的変化と日常生活への影響（身体機能の変化と日常生活への影響） | | | |
| 第14回 | 老年期における身体的変化と日常生活への影響（知的・認知機能・精神的機能の変化と日常生活への影響） | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 最新『発達と老化の理解』介護福祉士養成講座編集委員会（編）中央法規 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 介護福祉士の必修科目である。このことを自覚して授業に参加していただきたい。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|--|---|----------|-------|-------------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | | 介護福祉士国家試験受験資格取得課程 |
| 講義名 | [05402] 生活支援技術 【平成31年度生まで】 法定科目 | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 必修（1） | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 依田 萬代 | ヨダ タカヨ | | yoda takayo |
| | 兩宮 邦子 | アメミヤ クニコ | | amemiya kuniko |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。介護の基礎となる生活支援と意義を理解し、経営・管理する能力を養う。生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた火事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する内容とする。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 安心して援助を受けられる利用者のために、技術・知識の基本を身につける。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 食生活：授業は、講義と実習を組み合わせで行う。衣生活：自立に向けた衣生活の援助技術を身に付ける。実技演習により授業を進める。授業は、毎回、実験か実習を行います。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前学習 120分：あらかじめテキストを読んでおく。事後学習 120分：講義を振り返りノートをまとめる、もしくは実験実習のレポートをまとめる。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 試験・レポート・出席状況・学習態度を総合的に評価 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 家庭生活の経営と管理 | | | |
| 第2回 | 高齢者の健康と食生活 障害者の健康と食生活 心身の特徴と健康、栄養所要量、食事形態等 食事環境上の配慮、食食用自助具の工夫等 | | | |
| 第3回 | 自立に向けた家事の介護 栄養と調理1 献立作成と栄養価計算 献立作成の仕方、栄養価計算、材料費 | | | |
| 第4回 | 自立に向けた家事の介護 栄養と調理2 高齢者のための献立作成演習 | | | |
| 第5回 | 自立に向けた家事の介護 栄養と調理3 調理実習1 高齢者の食事 | | | |
| 第6回 | 自立に向けた家事の介護 栄養と調理4 調理実習2 障害者の食事 | | | |
| 第7回 | 自立に向けた家事の介護 栄養と調理5 調理実習3 保存食品・加工食品の制作 | | | |
| 第8回 | 自立に向けた家事の介護 栄養と調理6 食品衛生実験 | | | |
| 第9回 | 被服の素材 繊維の形態の観察 繊維の組織 燃焼性と鑑別法 | | | |
| 第10回 | 被服の性能 吸湿性、保湿性、透湿性 耐熱性 帯電性 | | | |
| 第11回 | 被服衛生・管理 洗剤の種類調査 しみ抜きと漂白 たんぱく質汚れの検出と洗濯法 | | | |
| 第12回 | 被服衛生・管理 繊維製品の取り扱い表示と洗濯 アイロンのかけ方 防虫剤の種類と収納法 寝具の管理 干し方、ダニ・カビの防止 | | | |
| 第13回 | 縫製の基礎 基礎縫い、ミシンの使い方 実物制作 1 | | | |
| 第14回 | 縫製の基礎 実物制作 2 | | | |
| 第15回 | 高齢者・障害者のための被服の選択法 体計測の仕方、サイズの選択 寝巻きの種類と着脱し易い工夫 デザイン、構成、色彩 おむつ、おむつカバーの種類、材質、性能等 | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| 「生活支援技術 Ⅰ」 社会福祉士養成講座中央法規出版 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 授業には休まず出席し、実習のグループ活動では、各自積極的に参加してほしい。毎回実験か実習を行います。必ず授業には出席し、レポートや作品を提出して下さい。 | | | | |

【オフィスアワー】

依田萬代：授業の前後に実習室にて受け付けます。

雨宮邦子：授業の前後に実習室にて受け付けます。

【実務経験】

依田萬代：なし

雨宮邦子：なし

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 | |
|--|---------------------------------|---------|----------------|-------------------|----|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | | 介護福祉士国家試験受験資格取得課程 | |
| 講義名 | [05403] 生活支援技術 【平成31年度生まで】 法定科目 | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 必修（1） | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 佐々木 さち子 | ササキ サチコ | sasaki sachiko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける内容とする。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 安心して援助を受けられる利用者のために、技術・知識の基本を身につける。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 介護の基礎となる生活支援と意義を理解し、経営・管理する能力を養う。介護福祉士としての実践能力を持つ人材を育成することを、目標とする。自立に向けた身支度の介護や万一の事故が起こった場合に備えて、主な事故について理解し、応急手当のポイントと一次救命処置の流れを人形モデルを使って理解しておく。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前学習 120分 事前に出された課題を行う。事後学習 120分 演習課題を行う。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 記述試験結果50% 介護技術試験50% | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 自立に向けた整容の介護 | | | | |
| 第2回 | 自立に向けた衣服着脱・口腔ケア・爪切りなどの介護技術 | | | | |
| 第3回 | 自立に向けた移動の介護、移動の意義と目的 | | | | |
| 第4回 | ベッド上の清潔・ベッドメイキングの方法 体位変換の基本技術 | | | | |
| 第5回 | 安全で的確な福祉用具による移乗・移動の介護技術 | | | | |
| 第6回 | 自立に向けた食事の介護 | | | | |
| 第7回 | 食事の意義と目的 | | | | |
| 第8回 | 食事における介護技術 | | | | |
| 第9回 | 食事の介護における多職種の役割と連携 | | | | |
| 第10回 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 | | | | |
| 第11回 | 清潔保持の意義と目的、整容の介護 | | | | |
| 第12回 | 整容における介護技術 | | | | |
| 第13回 | 入浴の意義と目的 | | | | |
| 第14回 | 入浴における介護技術 | | | | |
| 第15回 | 入浴・清潔保持の介護における多職種の役割と連携 | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 最新「生活支援技術 ・ 」 介護福祉士養成講座 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 介護技術を主に行う。学生同士時間外でも復習をして、自分のものにして欲しい。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 出向日 火曜日、金曜日10時～17時 授業以外は406研究室（4階）にいる。 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 鉄道病院（現在JR東京総合病院）佐藤病院、訪問看護、約20年以上の経験を活かし、医療的ケアや介護の医学的知識を伝える授業を行う。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 | |
|---|---------------------------------|-------|-----------|-------------------|--------------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | | 介護福祉士国家試験受験資格取得課程 | |
| 講義名 | [05404] 介護過程 【平成31年度生まで】 法定科目 | | | | |
| 期 間 | 後期（30回） | 単 位 数 | 必修（2） | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 建守 善之 | | タテモリ ヨシユキ | | tatemori yoshiyuki |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 介護過程とはどのような学問なのか、「介護過程」をテーマに介護過程の流れ、内容などの基礎知識と支援技術を取得する。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 〔授業の目的・ねらい〕 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。 | | | | | |
| 〔授業全体の内容の概要〕 「介護過程」の総論的内容を学習し、事例展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義、目的、内容などについて理解させるために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や構成要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。 また、映像等を利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。 | | | | | |
| 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要]「介護過程」の総論的内容を学習し、事例展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義、目的、内容などについて理解させるために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や構成要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。また、ビデオを利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後の学習では、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 試験・レポート・リアクションペーパー・学習態度を総合的に評価 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション 「介護過程」の総括 | | | | |
| 第2回 | 「介護過程」の意義と目的 | | | | |
| 第3回 | 「介護過程」の意義と目的「生活支援の考え方と介護過程の必要性」 | | | | |
| 第4回 | 介護過程の理解 情報収集とアセスメント | | | | |
| 第5回 | 介護過程の理解 情報収集とアセスメント | | | | |
| 第6回 | 情報の解釈・関連づけ・統合化 | | | | |
| 第7回 | 情報の解釈・関連づけ・統合化 | | | | |
| 第8回 | 課題の明確化 | | | | |
| 第9回 | 課題の明確化 | | | | |
| 第10回 | アセスメントの実施（事例から） | | | | |
| 第11回 | アセスメントの実施（事例から） | | | | |
| 第12回 | アセスメントの実施（事例から） | | | | |
| 第13回 | 計画の立案 | | | | |
| 第14回 | 計画の立案 | | | | |
| 第15回 | 計画の立案 | | | | |
| 第16回 | 実施 長期目標の確認 | | | | |
| 第17回 | 実施 長期目標の確認 | | | | |
| 第18回 | 実施 長期目標の確認 | | | | |
| 第19回 | 実施 記録 | | | | |
| 第20回 | 評価の意義と目的 | | | | |
| 第21回 | 評価の内容と方法 | | | | |
| 第22回 | 評価のプロセスと視点 | | | | |

| | |
|--|------------------|
| 第23回 | 評価のプロセスと視点 |
| 第24回 | 評価の際の留意点 |
| 第25回 | 事例より・評価と実施評価表の記録 |
| 第26回 | 事例より・評価と実施評価表の記録 |
| 第27回 | 事例より・評価と実施評価表の記録 |
| 第28回 | 事例より・評価と実施評価表の記録 |
| 第29回 | 事例より・評価と実施評価表の記録 |
| 第30回 | まとめ |
| 【教科書・参考書】 | |
| 「介護過程」第3版 中央法規出版 介護福祉士養成講座 9 | |
| 【学生へのメッセージ】 | |
| 受講前テキストを熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。 | |
| 【オフィスアワー】 | |
| 火曜日 14：00から17：00、水曜日 14：30から15：30 | |
| 【実務経験】 | |
| 介護実習 に向けて、模擬授業を行い社会人として必要な知識を学ぶ。 | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 |
|---|--|-----|----------|----|---------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | | | 保育士資格取得課程 |
| 講義名 | [05501] 音楽 | | | | |
| 期間 | 前期（15回） | 単位数 | 必修（1） | | 種類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- | |
| 担当者 | 富山 美由紀 | | トミヤマ ミユキ | | tomiya miyuki |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 楽典の基礎知識の復習と確認。ピアノ演奏の基礎と初歩的な演奏方法の習得。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 保育現場における即戦力・即興力の習得、並びに音楽の楽しさ・喜びを伝えられる力を身につける。小物楽器の使用法、手遊び等の音楽遊び習得。併せて初見譜読みの速読技術・演奏技術の習得。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 講義による音楽の基礎知識（読譜を含むソルフェージュ）習得。初歩ピアノ弾き歌いの導入。歌唱。オリジナル教材による譜読み・ピアノ実技演習（小テストを随時行う）。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| 事前・事後学習：一度にまとめてせずに毎日20分以上の実技練習をすること。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 学期末試験（筆記、実技）50%、授業への取り組み姿勢（自宅学習の課題含む）30%、小テスト20%。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第2回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第3回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第4回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第5回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第6回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第7回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第8回 | ソルフェージュ1 a (休・音符)・小物楽器を含む楽器演奏（キーボードの操作）と音楽遊び・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習。 | | | | |
| 第9回 | ソルフェージュ1 b (調号、記号)・歌唱・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習、。譜読み速読。 | | | | |
| 第10回 | ソルフェージュ1 b (調号、記号)・歌唱・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習、。譜読み速読。 | | | | |
| 第11回 | ソルフェージュ1 b (調号、記号)・歌唱・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習、。譜読み速読。 | | | | |
| 第12回 | ソルフェージュ1 b (調号、記号)・歌唱・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習、。譜読み速読。 | | | | |
| 第13回 | ソルフェージュ1 b (調号、記号)・歌唱・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習、。譜読み速読。 | | | | |
| 第14回 | ソルフェージュ1 b (調号、記号)・歌唱・ピアノ弾き歌い・演奏実技演習、。譜読み速読。 | | | | |
| 第15回 | 演奏会形式による実技演習（公開） | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| チャイルド本社「こどものうた200」「続こどものうた200」（開講までに各々準備すること）その他オリジナル教材等を随時使用 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 毎日練習できるよう、開講までに鍵盤楽器（ピアノ・電子ピアノ・キーボード）を自宅に用意すること。なおキーボードはタッチレスポンス（タッチセンス）機能があり、標準鍵盤61鍵以上のものとする。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 木曜日8:50～12:30 | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 演奏家としての活動と音楽教室での指導・経営。日本音楽療法学会認定音楽療法士として病院、施設等で音楽療法を实践中。 | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | 分野 |
|---|-------------------------------|----------|-------|---------------|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | | 保育士資格取得課程 |
| 講義名 | [05502] 音楽 | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | 単 位 数 | 必修（1） | 種 類 演習 |
| 対象学年 | 1年 | -- | -- | -- |
| 担当者 | 富山 美由紀 | トミヤマ ミユキ | | tomiya miyuki |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | |
| 音楽 で習得した基礎知識を軸に、楽典の復習とより深い理解と演奏技術の取得、譜読みの速度を上げる。 | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | |
| 演奏曲のレパートリーを増やし、簡単な即興伴奏ができるようにする。 | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | |
| 講義、弾き歌いを含むピアノ実技演習（小テストを随時行う）。オリジナル教材による譜読み速読。 | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | |
| 事前・事後学習：一度にまとめてせずに毎日20分以上の実技練習をすること。 | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | |
| 学期末試験（筆記、実技）50%、授業への取り組み姿勢（自宅学習の課題含む）30%、小テスト20%。 | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | |
| 第1回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第2回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第3回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第4回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第5回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第6回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第7回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第8回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第9回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第10回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第11回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第12回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第13回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第14回 | 弾き歌いを含むピアノ実技・歌唱・基礎音楽理論。譜読み速読。 | | | |
| 第15回 | 総まとめ。コンサート（演奏会形式での公開実技演習） | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | |
| チャイルド本社「こどものうた200」「続こどものうた200」（開講までに各々準備すること）その他オリジナル教材等を随時使用 | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | |
| 毎日練習できるよう、開講までに鍵盤楽器（ピアノ・電子ピアノ・キーボード）を自宅に用意すること。なおキーボードはタッチレスポンス（タッチセンス）機能があり、標準鍵盤61鍵以上のものとする。 | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | |
| 木曜日8:50～12:30 | | | | |
| 【実務経験】 | | | | |
| 演奏家としての活動と音楽教室での指導・経営。日本音楽療法学会認定音楽療法士として病院、施設等で音楽療法を実践中。 | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|---------------------------|----|-----------|-------|-----------------|-----|----|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | | | 保育士資格取得課程 | | |
| 講義名 | [05503] 小児体育 | | | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | | 単 位 数 | 必修（1） | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | | | |
| 担当者 | 若杉 純子 | | ワカスギ ジュンコ | | wakasugi jyunko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 幼児期の心身の発達やそれを促すための運動遊び、身体活動について解説し、実技を通して、学生の皆さんが楽しい運動遊びを実践していけるような体づくりや幅広い運動経験ができるような授業を行います。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 幼児期に楽しく体を動かすことは、子どもの心身の健全な発達に欠かせないことである。幼児期の身体活動の意義と大切さについて学ぶとともに、幼児の身体活動を楽しく豊かにしていくための方法を学ぶ。また、保育士となる学生自らも基礎体力や基本的な運動技能を身につけるとともに、運動に親しみ、健康的な生活をつくりだしていけるような素養を身に付ける。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 講義と体育実技を交えて行う。保育士自らが子どもと同じように遊んだり走ったりして運動を楽しめるよう、さまざまな種類の運動を取り入れていく。また体育館の室内だけではなく、学外へ出かけ、自然の中など野外での活動やプールでの演習も行う。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| 積極的に体を動かし、運動に親しむ。授業前には前回の授業内容を復習し、また反復練習によって技能が向上していくように努力する。授業後には、授業内容の記録とふりかえりをノートに記述する。事前・事後学習は120分以上行う。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（40%） 実技テスト（30%） ノート・レポート（30%） | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | 幼児の身体と運動能力の特性について | | | | | | |
| 第2回 | 日常保育における運動保育（体操・身体表現） | | | | | | |
| 第3回 | 日常保育における運動保育（ゲームあそび） | | | | | | |
| 第4回 | 日常保育における運動保育（伝承あそび） | | | | | | |
| 第5回 | 日常保育における運動保育（なわとびあそび） | | | | | | |
| 第6回 | 日常保育における運動保育（マット・とびばこあそび） | | | | | | |
| 第7回 | 日常保育における運動保育（ボールあそび） | | | | | | |
| 第8回 | 日常保育における運動保育（かけっこあそび） | | | | | | |
| 第9回 | 日常保育における運動保育（野外での活動） | | | | | | |
| 第10回 | 日常保育における運動保育（野外での活動） | | | | | | |
| 第11回 | 水遊びの指導と演習その1 | | | | | | |
| 第12回 | 水遊びの指導と演習その2 | | | | | | |
| 第13回 | 水遊びの指導と演習その3 | | | | | | |
| 第14回 | 水遊びの指導と演習その4 | | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 参考書 「幼児のこころと運動」近藤充夫（教育出版） その他は授業の中で紹介していきます。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 子どもたちのより良い発達を願い、喜びを共にすることを念頭に置き、自分自身が楽しみ、表現し、意欲と笑顔にあふれる取り組みであってほしい。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日 授業の前後に体育館または教室にて受け付けます。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 小学校教諭10年、幼稚園教諭10年 子どもの育ちに必要のことを考え、実践していけるような講義を行いたいと思います。 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | | | 分野 | | |
|--|---------------------------------|----|-----------|-------|-----------------|-----|----|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | | | 保育士資格取得課程 | | |
| 講義名 | [05504] 小児体育 | | | | | | |
| 期 間 | 後期（15回） | | 単位数 | 必修（1） | | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | | | |
| 担当者 | 若杉 純子 | | ワカスギ ジュンコ | | wakasugi jyunko | | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | | | |
| 小児体育 の内容をふまえて、さらに幅広く、実践的な運動あそび、身体活動について講義と実技を行っていきます。 | | | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | | | |
| 小児体育 の内容をふまえて、幼児の身体活動をより楽しく豊かにしていく方法を自ら創意工夫して考え出し、運動保育のあり方や指導法について学び、実践していくことができるようにする。 | | | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | | | |
| 講義と演習を交えて行う。運動遊びを考え、指導者として指導したり、指導を受けたりする模擬保育を多く取り入れていく。 同じように学外、野外での活動も行う。 | | | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | | | |
| 模擬実践授業が主になるので、授業者は事前準備を入念に行った上で、授業を行う。授業を受ける者も積極的に参加し、実践授業についての感想や意見を述べて、よりよい授業にするにはどのようにしたらよいかを討議する。 授業後は授業内容を記録し、ふりかえりをしっかり行い、ノートに記述する。それを生かして次の授業に臨むこと。 事前・事後学習はそれぞれ120分以上行う。 | | | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢（40%） 模擬授業内容（30%） ノート・レポート（30%） | | | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | | | |
| 第1回 | 運動保育の指導実践にあたってその1 指導計画を立てる | | | | | | |
| 第2回 | 運動保育の指導実践にあたってその2 指導計画の実施とふりかえり | | | | | | |
| 第3回 | 運動保育の実践その1（模擬保育） | | | | | | |
| 第4回 | 運動保育の実践その2 | | | | | | |
| 第5回 | 運動保育の実践その3 | | | | | | |
| 第6回 | 運動保育の実践その4 | | | | | | |
| 第7回 | 運動保育の実践その5 | | | | | | |
| 第8回 | 運動保育の実践その6 | | | | | | |
| 第9回 | 運動会における取り組みその1 | | | | | | |
| 第10回 | 運動会における取り組みその2 | | | | | | |
| 第11回 | 運動会における取り組みその3 | | | | | | |
| 第12回 | 幼児期の野外活動その1 | | | | | | |
| 第13回 | 幼児期の野外活動その2 | | | | | | |
| 第14回 | 幼児期の野外活動その3 | | | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | | | |
| 授業の中で紹介していく。 | | | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | | | |
| 現場に出てすぐに指導できるような実践力を身につけるため、子どもを目の前にして指導しているような意識を持ち、工夫した実践を行うことを望む。 | | | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | | | |
| 火曜日 授業の前後に体育館または教室にて受け付けます。 | | | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | | | |
| 小学校教諭10年、幼稚園教諭10年 子どもの育ちに必要のことを考え、実践していけるような講義を行いたいと思います。 | | | | | | | |

| 対象年度 | 学科・科目 | | 分野 | | |
|---|-------------------------------|-------|-----------|----------|----|
| 令和2年度 | 福祉学専攻 資格取得科目 | | 保育士資格取得課程 | | |
| 講義名 | [05589] 子育て支援【平成31年度生より】 | | | | |
| 期 間 | 前期（15回） | 単 位 数 | 必修（1） | 種 類 | 演習 |
| 対象学年 | 1年 | 2年 | -- | -- | |
| 担当者 | 伊東 久実 | | イトウ クミ | ito kumi | |
| 【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】 | | | | | |
| 保育士の専門性を生かした保護者支援について、実践事例を通して理解を深めます。 | | | | | |
| 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 | | | | | |
| 保育士の専門性を生かした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解することができます。また、保育士の行う子育て支援の内容と方法及び技術を地域の児童館や保育者において実践事例等を通して具体的に理解することができます。 | | | | | |
| 【授業方法（フィードバックの内容）】 | | | | | |
| 学内での学修による理解を深めるために、地域の児童館や保育所等で実地に学ぶことを積極的に行います。また、実地での活動後のフィードバックを大切にします。 | | | | | |
| 【授業外学修の方法（時間数）】 | | | | | |
| この授業では、毎回それぞれ60分以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にしておくこと。事後の学習では、ノート(実習ノートも含む)や配布資料を整理して授業内容の理解に努めるとともに、実地での活動後は振り返りシートを基に次の課題を明確にすること。 | | | | | |
| 【成績評価（方法・基準）】 | | | | | |
| 授業への取り組み姿勢(50%)、学力確認テスト(50%)により総合評価します。 | | | | | |
| 【授業計画（各回の授業内容）】 | | | | | |
| 第1回 | 子どもの保育とともに行う保護者の支援 | | | | |
| 第2回 | 保護者との相互理解と信頼関係の形成 | | | | |
| 第3回 | 保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解 | | | | |
| 第4回 | 支援の計画と環境の構成(その1) | | | | |
| 第5回 | 支援の計画と環境の構成(その2) | | | | |
| 第6回 | 身延児童館での子育て支援活動 | | | | |
| 第7回 | 支援の実践・記録・評価・カンファレンス | | | | |
| 第8回 | 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 | | | | |
| 第9回 | 保育所等における支援 | | | | |
| 第10回 | 地域の子育て家庭に対する支援 | | | | |
| 第11回 | 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 | | | | |
| 第12回 | 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 | | | | |
| 第13回 | 子どもの虐待の予防と対応(その1) | | | | |
| 第14回 | 子どもの虐待の予防と対応(その1) | | | | |
| 第15回 | まとめ | | | | |
| 【教科書・参考書】 | | | | | |
| 教科書：『子育て支援』西村重稀、青井夕貴編(中央法規)2019年。 参考書：授業時間内に適宜紹介します。 | | | | | |
| 【学生へのメッセージ】 | | | | | |
| 子どもの最善の利益を守るための子育て支援のあり方について、積極的に学ぶことを希望します。実地での活動は、時間割を調整して、別の日時に実施することもあるので注意すること。 | | | | | |
| 【オフィスアワー】 | | | | | |
| 火曜日10:30～12:00と金曜日15:30～17:00(大学事務室を通じて予約してください) | | | | | |
| 【実務経験】 | | | | | |
| 私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭。保育者経験を生かして、保護者支援の具体的方法が理解できる授業にします。 | | | | | |